

令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰
被表彰取組 事例集

学びの輪、地域の和。未来へ繋ぐ

(コミュニティ・スクール制度化20周年記念コンクール キャッチコピー部門 最優秀賞)

1	宮城県	宮城県立支援学校女川高等学園学校運営協議会 女川高等学園地域学校協働活動	優秀賞	28	千葉県	下総高等学校学校運営協議会 下総高等学校地域学校協働活動
2	福島県檜葉町	檜葉町こども園・学校運営協議会 檜葉町地域学校協働センター	優秀賞	29	千葉県柏市	土南部小学校運営協議会 土南部小学校地域学校協働活動本部
3	東京都八王子市	八王子市立松木中学校学校運営協議会 松木中学校地域学校協働本部	優秀賞	30	千葉県市川市	市川市立第四中学校学校運営協議会 第四中ブロック地域学校協働本部
4	大阪府	大阪府立富田林中学校・高等学校 学校運営協議会 NPO法人 学びと育ち南河内ネットワーク	優秀賞	31	東京都杉並区	桃井第二小学校学校運営協議会 桃井第二小学校支援本部ももにわ
5	山口県山口市	島地小学校学校運営協議会 徳地地域協育ネット	優秀賞	32	東京都板橋区	緑小学校コミュニティ・スクール委員会 緑小学校支援地域本部
6	北海道更別村	更別小学校学校運営協議会・上更別小学校学校運営協議会 更別中央中学校学校運営協議会・みんなの学校応援団		33	東京都三鷹市	連雀学園コミュニティ・スクール委員会 連雀ジョナス
7	北海道恵庭市	恵み野小学校学校運営協議会 恵み野小学校区コミュニティスクール推進協議会		34	神奈川県	あおば支援学校学校運営協議会 地域学校協働本部あおばまる
8	青森県青森市	CSさくらの和（青森市立筒井中学校区学校運営協議会） 青森市立筒井中学校区地域学校協働本部		35	新潟県	阿賀黎明高等学校学校運営協議会 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト
9	青森県	黒石高等学校学校運営協議会 黒石高等学校地域学校協働活動		36	新潟県上越市	さとまる学園CS委員会 中郷区さとまる学校
10	岩手県紫波町	日詰小学校学校運営協議会 日詰小学校地域学校協働チーム		37	新潟県長岡市	中之島中央小学校学校運営協議会 中之島中学校区地域学校協働本部
11	岩手県奥州市	コミュニティ・スクールいいわやどう 江刺第一中学校支援地域本部		38	石川県野々市市	館野小学校運営協議会 野々市市地域学校協働本部
12	岩手県	岩手県立平舘高等学校運営協議会 平舘高等学校地域学校協働活動		39	石川県能美市	寺井中学校学校運営協議会 のみスク寺井
13	宮城県石巻市	石巻市立向陽小学校学校運営協議会 蛇田中学校区地域学校協働本部		40	山梨県甲斐市	双葉西小学校学校運営協議会 双葉西小学校地域学校協働活動
14	秋田県小坂町	小坂町学校運営協議会 小坂町地域学校協働本部		41	山梨県	笛吹高等学校学校運営協議会 探究授業のカリキュラム開発における活動
15	秋田県湯沢市	湯沢西小学校学校運営協議会 湯沢南地区学校協働本部		42	長野県高森町	高森町小中学校運営協議会 高森町CS地域学校協働本部
16	山形県山形市	高楯中学校学校運営協議会 高楯地区地域学校協働活動ネットワーク		43	岐阜県郡上市	大中小学校学校運営協議会 おおなかよし
17	山形県遊佐町	遊佐中学校学校運営協議会 遊佐町地域学校協働本部		44	岐阜県下呂市	下呂市立下呂小中学校運営協議会 下呂小中地域学校協働本部（チームねやこねり）
18	福島県田村市	常葉幼稚園・小中学校運営協議会 田村市地域学校協働本部		45	愛知県瀬戸市	長根小学校学校運営協議会 地域学校協働本部「長根っ子サポートステーション」
19	茨城県水戸市	浜田小学校学校運営協議会 浜田小学校区地域学校協働活動ネットワーク		46	愛知県半田市	宮池小学校学校運営協議会 宮池小学校地域学校協働本部
20	茨城県牛久市	ひたち野うしく中学校学校運営協議会 ひたち野うしく中学校地域学校協働本部		47	三重県名張市	錦生赤目小学校学校運営協議会 錦生赤目小学校地域学校協働本部
21	栃木県	益子芳星高等学校学校運営協議会 益子芳星高校地域学校協働活動		48	三重県四日市市	コミュニティかんざき 神前小学校地域学校協働活動
22	群馬県吉岡町	吉岡町学校運営協議会 吉岡町地域学校協働センター		49	滋賀県米原市	米原中学校学校運営協議会 米原学区地域学校協働本部
23	群馬県川場村	川場村学校運営協議会 ふれあい学習推進協議会		50	京都府相楽東部広域連合	南山城小学校学校運営協議会 南山城地域学校協働本部
24	埼玉県所沢市	所沢市立松井小学校学校運営協議会 松井小学校学校開放運営委員会		51	京都府福知山市	川口ブロック学校運営協議会 川口ブロック「心の教育」実践活動実行委員会
25	埼玉県小鹿野町	小鹿野町学校運営協議会 両神小学校地域学校協働活動		52	大阪府富田林市	彩和学園運営協議会 地域学校協働本部「すこやかネット明治池」
26	埼玉県	埼玉県立大宮工業高等学校学校運営協議会 大宮工業高等学校地域学校協働活動		53	大阪府	大阪府立高槻支援学校 学校運営協議会 高槻支援学校「たかつき元気広場」
27	埼玉県戸田市	戸田南小学校学校運営協議会 南っ子サポーター		54	兵庫県養父市	建屋小学校学校運営協議会 建屋小学校地域学校協働本部

55	奈良県御杖村	御杖村学校運営協議会 御杖村学校協働実行委員会	82	佐賀県	鹿島高等学校学校運営協議会 鹿島高等学校旭ヶ岡キャリアラボ
56	奈良県三郷町	三郷町小中一貫コミュニティ・スクール 三郷町学校支援地域本部	83	佐賀県	太良高等学校学校運営協議会 太良高等学校学校協働活動
57	奈良県	奈良県立磯城野高等学校学校運営協議会 磯城野高等学校地域学校協働活動	84	長崎県佐世保市	海光る町学園運営協議会 小佐々地区地域学校協働本部
58	和歌山県	南部高校学校運営協議会 (一社)日本ウェルビーイング推進協議会	85	長崎県大村市	玖島中学校学校運営協議会 玖島中学校地域学校協働本部
59	鳥取県伯耆町	八郷小学校学校運営協議会 伯耆町地域学校協働本部	86	熊本県氷川町	竜北中学校区拡大学校運営協議会 氷川町地域学校協働本部
60	鳥取県南部町	南部中学校区学校運営協議会 会見小CS委員会	87	熊本県山鹿市	鹿北小・中学校学校運営協議会 鹿北町地域学校協働本部
61	島根県益田市	西益田小学校学校運営協議会 西益田地区つろうて子育て協議会	88	熊本県上天草市	龍ヶ岳小・中学校運営協議会「ドラゴン会議」 地域学校協働本部「ドラゴンサポーター会議」
62	島根県雲南市	木次地区学校運営協議会 木次地区地域学校協働本部	89	大分県由布市	東庄内小学校学校運営協議会 庄内地域学校協働本部
63	岡山県高梁市	福地学園学校運営協議会 福地地域学校協働本部	90	大分県豊後高田市	戴星学園学校運営協議会 都甲地区学校協働本部
64	岡山県美咲町	旭学園学校運営協議会 旭学園地域学校協働本部	91	宮崎県	宮崎南高等学校学校運営協議会 宮崎南高等学校地域学校協働本部
65	広島県尾道市	瀬戸田小学校・中学校運営協議会 瀬戸田中学校区地域学校協働活動	92	宮崎県都城市	庄内中学校学校運営協議会・庄内小学校学校運営協議会・菓子野小学校学校運営協議会 乙房小学校学校運営協議会・庄内地区地域学校協働本部
66	広島県三次市	三次中学校区学校運営協議会 三次中学校区地域学校協働活動	93	宮崎県えびの市	飯野小学校学校運営協議会 飯野地区地域学校協働本部
67	広島県	日彰館高等学校学校運営協議会 日彰館高等学校地域学校協働活動	94	鹿児島県志布志市	有明中学校学校運営協議会 有明中学校地域学校協働本部
68	山口県防府市	佐波中学校学校運営協議会 笑顔がつなぐみちざねっと	95	鹿児島県いちき串木野市	旭地区学校運営協議会 旭小学校区地域学校協働活動
69	山口県岩国市	由宇中学校学校運営協議会 結愛ネット	96	沖縄県浦添市	港川小学校運営協議会 港川中学校区地域学校協働本部 港川小学校地域学校協働活動ハーバーネット
70	山口県	下関北高等学校学校運営協議会 つながりネット	97	さいたま市	UBコミュニティ協議会 すくさぽ浦和別所
71	徳島県	徳島県立板野支援学校学校運営協議会 徳島県立板野支援学校地域学校協働本部	98	さいたま市	岸中学校学校運営協議会 岸中学校スクールサポートネットワーク
72	徳島県三好市	池田中学校学校運営協議会 池田中学校サポーターズクラブ	99	さいたま市	春野小学校学校運営協議会 春野小学校 S S N (スクールサポートネットワーク)
73	香川県高松市	高松市立十河小学校運営協議会 十河校区地域学校協働本部	100	横浜市	横浜市立新井小・中学校 学校運営協議会 A.S.C.C
74	香川県高松市	高松市立川東小学校運営協議会 NPO法人川東校区コミュニティ協議会	101	横浜市	横浜市立鶴見小学校学校運営協議会 つるみっ子教育支援隊
75	愛媛県大洲市	平野小・中学校運営協議会 平野小・中学校地域学校協働活動本部	102	横浜市	横浜市立太尾小学校学校運営協議会 太尾小学校学校地域支援本部
76	愛媛県西条市	玉津小学校学校運営協議会 玉津小学校地域学校協働活動本部	103	新潟市	鎧郷小学校学校運営協議会 鎧郷小学校地域学校協働本部
77	高知県高知市	春野地区小・中学校運営協議会 春野町地域学校協働本部	104	新潟市	青山小学校学校運営協議会 青山小学校地域学校協働本部
78	高知県四万十町	米奥小学校運営協議会 米奥小地域支援本部	105	新潟市	鳥屋野中学校学校運営協議会 鳥屋野中学校地域学校協働本部
79	福岡県福津市	津屋崎中学校区合同学校運営協議会 津屋崎中学校区地域学校協働本部	106	京都市	上鳥羽小学校学校運営協議会理事会 上鳥羽小学校学校運営協議会企画推進委員会
80	福岡県那珂川市	片縄小学校学校運営協議会 地域学校協働本部 (課題別コミュニティ・スクール)	107	京都市	西ノ京中学校学校運営協議会理事会 西ノ京中学校学校運営協議会企画推進委員会
81	佐賀県佐賀市	赤松コミュニティ学校運営協議会 赤松コミュニティ・スクール			

宮城県

学校

宮城県立支援学校女川高等学園

学校運営協議会

女川高等学園学校運営協議会

令和4年6月3日 設置

委員構成

行政区長会会長
町役場関係者（企画課長）
町商工会会長
PTA会長
大学教員
民生児童委員
ハローワーク所長
社会福祉法人関係者
電力会社・防災士関係
など 13名

会議回数

年間5回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名（0名）

地域コーディネーター 5名（4名）

地域学校協働活動

女川高等学園地域学校協働活動

地域のリソースを活用しながら推進する教育活動

背景・取組概要

本校は軽度の知的障がい有する生徒に対して社会的・職業的自立を目指し誰からも愛される生徒を育成するために、地域と連携した学校づくりを目指している。そのために、地域の多様な人々と関わる機会を設けることで生徒のコミュニケーション力と環境の変化に順応し心理の安定を図ることができる力を身に付けさせる必要があった。また、東日本大震災で甚大な被害を受けた場所に立地する本校の役割として、地域に貢献し災害時における自助、共助の精神の育成や災害対応力の向上を図る必要があった。

工夫・ポイント・特徴的な取組

地域と連携した教育活動を推進するために3つの部会を設置している。

- ① **キャリア教育部会**：社会参加と自立、心豊かな生活の実現を図るために必要な能力・態度を醸成する支援をおこなう。
 - ② **防災教育部会**：自助の強化と共助意識の醸成を図り、有事の際に役割を果たすことのできる生徒の育成に向けた支援をおこなう。
 - ③ **地域連携部会**：地域の小中高および大学や地域のコミュニティと連携し、地域と共にある学校づくりに向けた支援をおこなう。
- 令和5年度の提言を生かし、令和6年度は「**地域のリソースを活用しながら課題解決に向けてアプローチする**」とした。

【進路支援充実事業】

県の事業とCSが連携し、在学中に就労のために必要な力とそれを維持・継続できる力を育むための助言と支援をいただいている。令和6年度事業は卒業生の事例発表と就業支援センター長の講演を実施した。生徒53名、保護者8名、教育関係11名とキャリア教育部会委員を通じ福祉関係団体より8名の計80名が参加した。様々な団体が一堂に会し障がい者の一般就労に向けて理解を深める場となった。

【総合防災訓練】

本校の防災教育の柱である本訓練に助言と支援をいただいている。令和6年度は避難所運営訓練を実施した。防災教育部会から地域連携部会に社会福祉協議会と行政区長会の参加を依頼した。また、地域連携部会の委員が在職する大学生にも参加していただいた。その結果、社会福祉協議会、民生児童委員、行政区長会、大学生、教育関係者約50名、生徒53名、教職員48名の151名で訓練をおこなった。訓練をする中で、架空の設定ではあるが地域住民、生徒、職員が1つの家族になるよう工夫し、生徒も職員も地域の人々と関わりながら防災について意見交換することができた。その後、生徒が企画した訓練を発表する時に地域の人々から感想や意見をいただいた。言葉で会話するだけでなく、一緒に1つの訓練を体験することで、生徒は自分の役割を果たし自己肯定感を高め、地域の人々には被災地に立地する学校が発災時に役立ち得ることを理解していただいている。

【**地域と共に学ぶ防災研修会**】＊1：避難所運営ゲームの略（避難所運営をみんなで考えるためのアプローチとして、静岡県が開発した図上訓練）HUG＊1訓練を企画した。町役場、社会福祉協議会、行政区長会の支援を受けて、地域から12名役場職員17名、CS委員5名教職員10名の44名が参加した。訓練を通じ地域住民と教職員の防災意識の深化を目指すとともに、地域における協働に向けて関係構築を図る機会となった。

成果・効果

地域と関わる行事についてCS委員を通じスムーズに参加を募ることができ、学校と地域住民との協働により充実した教育活動を推進することができた。令和5年度学校評価において進路指導の3項目は保護者平均95%、生徒は平均96%、防災安全指導の2項目は保護者平均98%生徒平均99%で双方の項目で肯定的な評価を得た。保護者は進路に関わる取り組みや防災教育に対し肯定的に評価し、生徒は関連する項目を通じ成功体験を積み重ね自己肯定感を高めることができた。

R5学校評価	項目	生徒（肯定的評価）	保護者（肯定的評価）
防災・安全指導	学校は、地震や火災などが起きた場合の行動についての学習を行っている。	100%	96.4%
	学校は、地域と協力して防災や安全についての教育を行っている。	98.2%	100%

福島県檜葉町

学校

檜葉町立あおぞらこども園・
檜葉小学校・檜葉中学校

学校運営協議会

檜葉町こども園・学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
教育委員
まちづくり地域団体職員
移住促進団体職員
福祉団体職員
大学生
大学教員
など 29名

会議回数

年間平均18回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名 (2名)

地域コーディネーター 1名 (0名)

地域学校協働本部

檜葉町地域学校協働センター

CSの熟議を基にした多様な地域住民による多様な地域学校協働活動の展開で地域コミュニティを創生!!!

背景・取組概要

- ・避難指示解除後に帰町した住民同士や、帰町した住民とやむを得ず帰町を見合わせる住民、新しく移住・定住した住民によって築かれる**地域コミュニティの再構築の難しさ**が大きな課題となっていた。
- ・4年半の全町避難により、檜葉で生まれ育った子どもが少なく、**子どもと地域とのつながりが希薄**であり、地域人材だけでなく、自然環境や伝統、地域行事など、**あらゆる地域資源と子どもとを結びつけるきっかけ**が求められていた。
- 学校教育や社会教育など、**あらゆる教育活動と地域とを結びつけた多様な地域学校協働活動を通して、多くの地域住民の幅広い教育活動への参画を実現**するとともに、CSを通して地域や学校のニーズを的確かつタイムリーに把握し、協働活動に反映させていく仕組みを構築することで、教育を通じた**地域のネットワークを形成し、コミュニティの復興を促進**する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

CSを通して幅広い人々の意見を反映させるだけでなく、だれもが町の教育について気軽に語り合う文化の創造を目指し、活動テーマごとの部会を設置するとともに、小中学生らも参加した教育トークを開催している。それまで学校単独では実現できなかった徒歩・自転車通学の再開や、地域と学校が協働した防災授業の実施も実現でき、**教職員の負担軽減**にもつながった。また、英語活動に関しては、職員や指導体制なども含めた12年間の町のカリキュラム作成にもつながっている。

◆地域学校協働活動

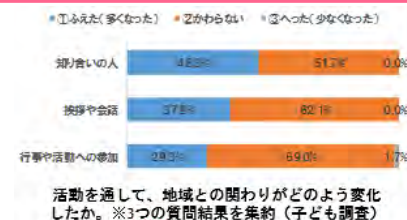
地域参画型の放課後子供教室では、学校教育支援の一環で実施していることも議会で採用されなかった子どもの意見などを基に、地域住民と連携協働し、特産品のゆずを使ったレシピを開発して、地域のレストランで販売したり、新たに地域の祭りを地域住民と共に企画して開催したり、地域施設をより良くするプロジェクトを立ち上げたりしている。**保護者やこども園児、中学生が参加することも多く、異世代交流に繋がったり、進学不安軽減にもつながっている**と評価されている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議委員の大半は、地域学校協働活動に参加している人材としており、**CSの熟議の結果を協働活動に反映させている**。また、小中学生の声を部会が吸い上げて、部会での熟議のテーマとし、さらに協議会の本テーブルの議題としてあげるという重層的な仕組みとすることで、**次年度の教育計画や協働活動に小中学生の意見も活かせるよう工夫**している。

成果・効果

- ◆放課後子供教室に参加した大人は1年間で**のべ600人以上**おり、そうしたネットワークが学校の総合的な学習などに活かされたり、学校の発展学習を放課後子供教室で地域住民が講師となって実施したりするなど、**地域と学校の協働連携が日常的になりつつある**。
- ◆地域の知り合いが増えたという子どもは48.3%、挨拶などするようになった割合も37.9%となり、さらに**保護者の3割程度も地域との関わりが強くなった**と回答している。



東京都八王子市

学校

八王子市立松木中学校

学校運営協議会

八王子市立松木中学校学校運営協議会

平成22年4月1日 設置

委員構成

元教育委員／社会教育士
青少年対策松木地区委員会会長
2小学校運営協議会会長
元PTA会長／祭り実行委員長
地域学校協働活動推進員
PTA会長
卒業生
学識経験者
学校長
など 10名

会議回数

年間平均12回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員4名（2名）

地域コーディネーター 0名（0名）

地域学校協働本部

松木中学校地域学校協働本部

地域とのつながりによって多様な生き方を知り自己肯定感を高め、地域に貢献する生徒の育成・学校に行きづらいの子ども居場所づくり

背景・取組概要

- ◆**背景** 本校はニュータウンの住宅街の中に位置し、学区内に商店街もなく、子ども達は家族以外の「大人」と接する機会が少ない。一方で、中学校だけでなく小中一貫教育の対象となっている2小学校でも、不登校や不登校傾向の児童が増加し、対策が求められる状況だった。課題解決には、小・中学校の連携が不可欠であると、3校学校運営協議会委員に、保護者や地域住民、一部の教員の加わった熟議を2年に渡って開催したところ、無理に学校にもどすことを考えるより、心の不安を減らし、将来自立するために社会とつながる場所を作れないだろうか、という方向が見えてきた。
- ◆**取組概要** 地域学校協働活動推進員を中心に、場所や見守る人探しをし、近くの自治会館で、子どもの居場所「ぬくぬく」を開設した。その他にも、子ども達が地域の方と接することで多様な人や生き方を知る機会を作り、自己肯定感が上がり自信を持てるよう工夫している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

●協議会の校内報告で生徒の状況と学校の対応を把握し、さらに何ができるかを検討、**教育課程にも反映**している。毎年開催する3校合同の**拡大熟議**では、地域の子どもの課題を検討しあうべき姿を共有する。**教職員との個別面談、生徒会との意見交換、教員との意見交換**も実施している。●3校の学校運営協議会が設置された当初から、協議会が主催者となり中学校を会場として「**浄瑠璃祭り**」を開催している。ここでは地域の大人同士が力を合わせるとともに、中学生のボランティアが大人の中に入り、模擬店で地域の人と一緒に働いてお祭りを支え、舞台発表では、部活だけでなく、中学生有志の団体がバンド演奏やダンスを披露するなど、今では地域の大きなイベントとなった。

◆地域学校協働本部

●地域の自治会館を借りて、**子どもの居場所「ぬくぬく」**を月に1回開催を始めた。来所する生徒が限られるという課題があり、多様な対策が求められるようになったため、今年は「ぬくぬく駄菓子屋」として開催することとしたことにより、学校には行けなくても友達に誘われてやって来る子どもがでてきた。●校内では、忙しい中学生が、思い切りおしゃべりしたり遊んだりできるように「**放課後カフェなないろ**」を開始した。月に1回の開催日には60名ほどがやってきて、その中で20名程度はボードゲーム等で遊んでいる。●道徳の授業として、地域の方や先輩が各クラスに1名ずつ入って、講師自身の生き方を話してもらうことにより、生徒が自分の生き方や地域と自分について考えることを目的に、「**地域の方のお話を聞く会**」を実施している。●他にも**放課後学習教室**や**各種検定、英検二次試験面接練習会**など地域の方が関わる支援の場は、全て**地域の方と触れ合う機会**であり**多様な生き方を知る場**で、そこで子どもと斜めの関係ができることを期待し、それができる人材に願っている。●登校が難しかったり発達に課題があったりする生徒の保護者から、悩みを話せる場所が欲しいとの声を受け、保護者が少し肩の荷を下ろして過ごす時間となることを願い、「**みどりの会**」を立ち上げ、保護者同士の交流の場とした。

◆コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会委員に地域学校協働活動推進員が参加して、教育課程等を理解した上でコーディネートしている。また「地域の子どもは地域で育てる」ために3校の学校運営協議会が密接に連携して活動しており、それに合わせて地域学校協働本部も一体化を目指している。

成果・効果

- ◆地域学校協働活動の**支援者の広がり**：地域学校協働活動推進員が声かけをするのではなく、学校支援をしたいと個人、団体から申し出があった。卒業生が学習教室講師、浄瑠璃祭り実行委員、学校運営協議会委員など学校支援に参加するようになった
- ◆持続可能な地域活動：地域の**次の担い手**である生徒から「次は私たちが地域に貢献します」との発言など、地域に貢献する子どもが育っている。
- ◆学校経営の改善：登校支援委員会など**校内組織の見直し**による不登校問題や特別支援教育を充実させる体制づくりが進んだ。
- ◆多様な場の提供：**学校運営協議会が問題意識を持つこと**で、不登校を始めとした様々な子どもや家庭に関わる課題の改善に向けた取組や場所、支援者が増え、変化の兆しが見えてきた。



浄瑠璃祭り



放課後カフェなないろ



子どもの居場所ぬくぬく

大阪府

学校

大阪府立富田林中学校
大阪府立富田林高等学校

学校運営協議会

大阪府立富田林中学校・高等学校
学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

- ・専門学校校長（元教育監）
- ・地域学校協働本部会長（NPO学びと育ち南河内ネットワーク）
- ・PTA会長
- ・大学教授
- ・社会教育委員
- ・弁護士
- ・SSH運営指導委員
- ・会社社長（同総会） 計8名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター 6名（3名）

地域学校協働本部

NPO学びと育ち南河内ネットワーク

テーマ型コミュニティ・スクールによる「社会に開かれた教育課程」の実現

背景・取組概要

- ◆ ミッション達成のためのテーマ型コミュニティ・スクール
富田林高等学校は123年の歴史を通じて、大阪南河内の中核的な教育機関として、地域社会を支える多数のリーダーや世界で活躍する多くの人材を輩出してきた。この富田林高等学校を、新しい時代の教育課題に応える新タイプの公立学校とするためコミュニティ・スクールとするとともに中高一貫校に改変（平成29年）する必要があった。
めざすテーマ「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し国際社会に貢献できる人材（グローバル人材）の育成」に賛同いただける人材で構成する学校運営協議会を基盤とし、教育課程を社会に開き地域学校協働活動を推進することによりミッションを達成する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆ 学校運営協議会
中高一貫教育によりミッション達成を図ることから、学校運営協議会は中高一体的な組織としている。ミッション達成のための具体的な教育の柱として「社会貢献意識の醸成」をベースとし「グローバルな視野とコミュニケーション力」、「論理的思考力と課題解決能力」を育成をめざした。
教育活動が社会のニーズにマッチし生徒のキャリア形成につながるよう期待を込めて設置当初より「探究学習（アントレプレナー型）」の開発に重点を置き、「教育内容」や産官学協働で教育を進めることができる「しくみ」について協議を重ねてきた。
その他の協議題としては○「探究学習」について○教育活動の推進と働き方改革○不登校課題に係るフリースクールとの協働○オンラインによる学びの保障○制服改訂○校則の見直し○部活動の外部移行○授業改善○グローバル教育などがある。
- ◆ 地域学校協働活動
企業コーディネーター、同窓会コーディネーター、地域コーディネーター（運営協議会委員、地域連携教職員等）の実働による、産官学協働の「探究学習」を実施（協働企業80、連携企業150）
- ◆ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施
学校運営協議会委員として地域学校協働本部会長が参画している。協議内容を本部に伝え具現化を図るとともに、本部での進行状況や課題を協議会で協議している。不登校の課題解決のためのフリースクール運営や進路支援事業としての奨学金制度の設置、地域小学生対象の科学教室開催を協働で行っている。また、全国・地域教育機関（市町村立学校等）を対象に「授業改革DAY」を設け、運営協議会委員が講演・指導助言を行い地域協働で授業改善に取り組むプラットフォームの役割を果たしている。



成果・効果

- ◆ 学校運営協議会が教育活動（探究学習）に参画することで産官学協働による取組みが推進され学校と企業等がこれまで以上に協働ようになった。
- ◆ 探究学習への満足度（80%以上）、社会で活躍できる力の育成への満足度（90%以上）となり、社会貢献意識の醸成が進んだ。

	指標 1				指標 2			
	探究学習満足度				社会貢献意識、社会で活躍する力			
	生徒		保護者		生徒		保護者	
	中学	高校	中学	高校	中学	高校	中学	高校
H29 (CS設置前年)		56		72		85		88
R 5	85	83	88	86	91	93	95	90

※H29について、中学は1学年のみであることや年度途中の評価となるため未記載

山口県山口市

学校

山口市立島地小学校

学校運営協議会

島地小学校学校運営協議会

平成23年4月1日設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
民生児童委員
保護司
社会福祉協議会
地域交流センター分館長
地域づくり協議会
地域おこしボランティア団体
元教員 など 13名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 0名 (0名)

地域学校協働本部

徳地地域協育ネット

島地で子どもの夢を叶えるプロジェクト

背景・取組概要

- ◆島地地域は少子高齢化・過疎化が進み、人口は減少し続け、学校は完全複式の3学級である。こうした地域であるからこそ、子ども達が地域に出て地域住民と活動することを通して地域のことを知り、**地域の未来を考え提案できる当事者意識や主体性の育成が重要**である。また、学校が地域の方々と地域の素材を生かした教育課程を編成し地域と協働して学習活動を展開することで、**地域住民の生活をより豊かで幸せで生き生きとしたものにするための「地域の熱量」を高める必要**がある。まさに、**地域のために地域と協働する学校づくりと学校を核として熱量を高める地域づくり**が求められている。
- **「子どもが創る、もっともっとワクワクする学習活動」を掲げ、夢をもち周りの人に働きかけていく子どもと、熟議を通して、それを受け止め共に夢を実現していく地域を創る。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校運営協議会の中で熟議を4回実施し、子ども達が3回参加して自分達が島地のために取り組みたい夢について提案している。それを受け、学校運営協議会委員で熟議を行い、**夢の実現のための方策を決め、夢を具現化する仕組みとして機能している**。最近のテーマは、「島地の竹を使ってこんなことをしてみたい」「ふれあいボランティアでこんなところをきれいにしたい」「ふれあいの日のブースで地域を盛り上げるためにこんなことをやりたい」「ホタルの会を開いて島地のホタルを増やしてもっと有名にしたい」等である。

◆地域学校協働活動（徳地地域協育ネット）

学校運営協議会の熟議で決まったことを**地域協育ネットの仕組みを使い、具現化している**。例えば、カヌー体験教室においてはトイレや水道設備の提供、乗艇場の設置、カヌーの運搬、除草作業などである。竹を使った活動では、タケノコ掘りの指導、竹の伐採・運び出しの支援、竹筏の試作、筏づくりの指導、竹灯籠の制作、和紙を使ったマール染め体験の広報、マスコミとの連携等である。こうした活動により、**子ども達の夢が叶うだけではなく、地域の素材のすばらしさの再発見につながっている**。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動（徳地地域協育ネット）の一体的実施

複数の学校運営協議会委員が地域協育ネットのメンバーであるために、**レスポンスよく、切れ目のない活動を展開**することができている。山口市観光コンベンション協会徳地支部や徳地地区内の他の団体と連携・協働することで、**今までになかった視点による活動やマスコミ等とのコラボレーションも実現**した。また、徳地地域協育ネット協議会の熟議には、学校職員だけではなく、**子ども達も参加することでより一体感のある取組が実現**できている。

成果・効果

子ども達の夢が叶うことで、子ども達の**自己存在感や自己肯定感**が高まっている。直近2年間のアンケートによると「進んで学習に取り組むか」については、**79%から93%へ上昇**。「自分にはよいところがあると思うか」については、**78%から93%へ上昇**。「学校には楽しいことがある」については、**94%から100%へ上昇**。また、「島地のことが好き、島地のことを大切にしたいと思っているか」については、**89%から100%へ上昇**した。子ども達が**「夢は叶う」「自分たちが未来を変えられる」という思いを持ち、新しい取組を自ら始めていることが一番の成果**である。さらに、学校運営協議会や地域学校協働活動(徳地地域協育ネット)のメンバーが**地域のことを再発見し、子どもと一緒に大人も学ぶことの楽しさに浸り、やりがいを感じている**ことも大きい。このやりがい新しい地域づくり・新しい学校づくりの原動力となり、「**地域のために地域と協働する学校づくりと学校を核として熱量を高める地域づくり**」が進んでいる**実感**を児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員が得ている。



北海道更別村

学校

更別村立更別小学校
更別村立上更別小学校
更別村立更別中央中学校

学校運営協議会

更別村立更別小学校学校運営協議会
更別村立上更別小学校学校運営協議会
更別村立更別中央中学校学校運営協議会

平成31年4月1日 設置

委員構成

地域コーディネーター
保護者・PTA関係者
民生児童委員
商工会・J A 青年部代表
幼稚園・保育園保護者代表
少年団指導者
など 各10名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部

みんなの学校応援団

地域総がかりで子どもを育てる

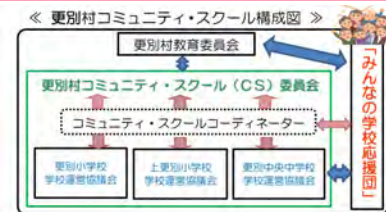
背景・取組概要

◆村CS委員会や村内小中学校運営協議会、児童会、生徒会等での熟議の結果、地域と関わりながら、より良い未来を切り拓いていく子どもを村全体で育てるために、教育委員会を中心とした組織づくりや、地域学校協働本部を活用した活動を充実させる必要があった。

→教育委員会(CSコーディネーター)を中心とした組織づくり

→「みんなの学校応援団」の活発な活動

→CS評価アンケートを実施するなどPDCAサイクルの確立に向けた取組



工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

年4回、会議を開催し、CSアクションプランの重点の確認や、熟議を重ねている。これまでに、学校運営協議会、各学校児童生徒が熟議を重ね、地域の子どもの課題の解決に向けて「更別村子どものネット・スマホ・ゲームとの付き合い方ルール宣言」を作成することや、子どもの自己肯定感を高めるための家庭や地域の役割について学ぶ研修会等を実施する必要性の共通理解が図られた。

◆地域学校協働活動

令和元年度に、地域学校協働活動を明確に推進するため、「みんなの学校応援団」(地域学校協働本部)を組織した。「みんなの学校応援団」から、各学校運営協議会に委員として参画し、熟議や協議を踏まえた活動を企画・運営した。また、人的・物的資源を発掘した。

※令和6年12月時点で 47企業・事業所・団体、27個人

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校が進める「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域住民が学校を応援する「みんなの学校応援団」が、授業などにおける栽培活動への支援や出前授業等を実施するなど、学校と一体となり子どもたちの成長を支えている。また、コミュニティ・スクール委員会での熟議や協議を踏まえ、子どもの自己肯定感を高めるための家庭・地域の役割の重要性について確認する研修会等を実施した。

◆広報

こみ・すく通信を毎月2号分発行し、コミュニティ・スクールの活動内容、地域学校協働活動の内容を全住民に配布し、周知している。また、こみ・すく通信を村のホームページ、フェイスブックに掲載している。



成果・効果

◆地域住民は、学校の教育活動等に関わることで、有用感や達成感を高めている。子どもたちは、地域との関わりを通して自己肯定感を高めている。令和6年度全国学力・学習状況調査では、「自分には良いところがあると思いますか」の設問で、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答をした児童の割合が85%、生徒の割合が90%と全国平均を上回っている。特に、教育活動に関わった地域住民からの子どもたちへの応援メッセージは、令和6年12月時点で44通となっており、子どもや学校を勇気づけている。

◆子どもたちが、地域のよさを再認識し、地域への愛着や誇りをもっている。

◆地域学校協働活動の依頼や調整をコーディネーターが行うことで教師の業務の軽減になっている。

◆CS評価アンケートの結果、「学校・家庭・地域全体で育てたい子ども像が共有されている(CSアクションプラン)」という設問において、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた教員、保護者、地域住民等の割合が96%と、地域全体にCSアクションプランが広がっている。

北海道恵庭市

学校

恵庭市立恵み野小学校

学校運営協議会

恵庭市立恵み野小学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

町内会長
幼稚園園長
大学教員
保護者・PTA関係者
恵み野小学校区コミュニティ
スクール推進協議会役員

など 17名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名 (0名)

地域コーディネーター 1名 (1名)

地域学校協働本部

恵み野小学校区コミュニティスクール 推進協議会

子どもと大人が共に楽しく遊び、学ぶまち恵み野

背景・取組概要

- ◆学校運営協議会における子どもたちの学びをより充実させるための熟議をととして、「子どもと大人が共に楽しく遊び、学ぶまち恵み野」を目指した。そのため、学校を中心に、子どもたちと地域の大人と一緒に楽しみ、一緒に活動することで大人が子どもに教えるだけでなく子どもからも学んでいく必要がある。

→「つどう」、「まなぶ」、「つながる」ことを3本柱とし、「**子どもを中心につながりあうまちづくり**」を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

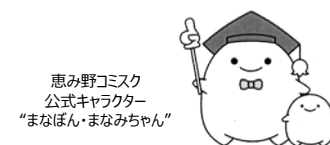
◆「学校運営協議会」と「恵み野小学校区コミュニティスクール推進協議会」の連携

令和3年4月に恵み野小学校に学校運営協議会を設置し、子どもたちの学びや未来について熟議を重ね、「育てる子ども像」を地域と学校で共有した。「育てる子ども像」の実現に向けて、平成14年より活動をしている「恵み野小学校区コミュニティスクール推進協議会」と連携した活動の実施について検討し、**4つの部会**（ふるさとふれあい部会、学校支援部会、安心・安全部会、保幼小中連携部会）を組織するとともに、学校運営協議会委員が各部会に所属し、部会の核となって、推進協議会が行ってきた既存の活動を「育てる子ども像」の実現に向けた活動としてブラッシュアップした。

【コミスク4大事業（地域学校協働活動）】

- ・**はぐくみ農園**～学校敷地内の畑で自然とふれあう食育体験。春に種まき、秋に収穫・調理をする。畑と食をととして地域関係者との協働体験の場となる。
- ・**体験事業**～市内施設にて職業体験を行う。身近な施設のお仕事体験は、楽しさに加え仕事の大変さも伝わる貴重な経験の場となる。
- ・**子ども教室**～将棋や絵手紙、ニュースポーツ等、地域に暮らす様々な名人が先生となり、多種多様な教室を体験できる。子どもたちにとっては普段できない体験ができるほか、地域人材の活躍の場にもなっている。
- ・**餅つき大会**～20年以上続く一大事業。恵庭市内の餅つき大会でも最大級の規模であり、毎年200名を超える参加があり、子どもたちと地域の大人と一緒に楽しみつながりあう場となる。

恵み野小学校区コミュニティスクール推進協議会（ふるさとふれあい部会）では、学校運営協議会のほか、4大事業のために、月に1回スタッフ会議を行い、子どもたちへの体験活動について熟議を重ねており、「育てる子ども像」の実現に向けた活動の充実はもとより、地域住民同士のつながりを深めている。また、部会以外の地域の方や学生など、幅広い地域住民等を巻き込みながらコミスク4大事業を実施している。このことからコミスク4大事業は**子どもたちの貴重な体験の場であることに加え、地域の活性化に大きく寄与している。**



成果・効果

- ◆子どもたちを中心とした地域づくりであり、コミスク4大事業を通じた地域の結束の「場」となっているほか、小・中PTA役員等の参画の機会を高め、地域の新たなつながりが生まれるきっかけになるなど、地域活性化に寄与している。
地域住民の声：「コミスク活動に関わらなければ知ることができなかった皆さんと関わることができた。」
令和5年度コミスク4大事業延べ参加者数（児童・大人）：1,782名（全校児童317名）
- ◆学校だけでは実現することが難しい子どもたちの体験の場が創出され、また、地域住民のやりがい・生きがいづくりとなっている。
- ◆恵み野にてコミスク活動を体験した子どもたちが成長し、「**今度は自分たちが恵み野の子どもたちに何かしてあげたい。**」と恵み野に戻り、コミスクスタッフの一員として活躍するなど、持続可能な地域づくりに寄与している。

青森県青森市

学校

青森市立筒井中学校
青森市立筒井小学校
青森市立筒井南小学校

学校運営協議会

CS「さくらの和」
(青森市立筒井中学校区学校運営協議会)

令和3年4月1日 設置

委員構成

各校長
保護者・PTA関係者
町会関係者
地域学校協働活動推進員
民生委員・児童委員
認定こども園の園長

など 21名

会議回数

年間平均 5 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名 (2名)

地域コーディネーター 0名 (0名)

地域学校協働本部

青森市立筒井中学校区地域学校協働本部

「さくらの和」フェス

背景・取組概要

◆地域に誇りと愛着を持ち、地域とともに成長する、グローバル社会を主体的に切り拓く資質を持った子どもを育成するために、学校運営協議会に2つの部会を設置し、熟議を通じてアイデアを出し合い、地域の強みを生かした交流活動を企画・運営している。

→地域・学校の課題を解決するために、地域と学校が協働し、交流活動を通して子どもを育成する地域づくりを目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

文化・スポーツ活動の振興等を目的に「文化・スポーツ活動推進員部会」、グローバル社会を切り開く人材の育成を目的に「ふるさと・未来創造部会」を協議会に設置し、熟議を通して「さくらの和フェス」を企画している。(内容：地域で学ぶ防災教室／親子で親しむ伝統文化(金魚ねぶたうちわ等の作成)／地域スポーツ選手と親しむサッカー教室 等)

◆地域学校協働活動

協議会で示された方向性をもとに、場所、対象、講師、経費(予算)、準備物、関係機関、周知方法、ボランティア(お手伝い)などの役割について、地域人材や地域の強みを生かしながら、方向性を具現化している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員を兼ねている。協議会のたびに2つの部会に分かれて熟議が実施され、効率良く、具体的な合意形成ができている。また、協議会の他に、学校単位の協議会(分科会)も開催しており、より実態に応じた活動を展開している。



学校運営協議会の様子



防災教室の様子

成果・効果

◆協議会のたびに熟議を実施していることから、学校運営協議会委員の参画意識・当事者意識が高まっている。

◆「子どもに学ぶ喜びを体験させ、確かな学力の向上を図る」・「保護者、地域住民との連携」に関する肯定的な回答が高い割合を維持しており、地域が学校の教育活動を支援していることが確認できる。

指標 1 学ぶ喜び・学力の向上 (肯定的な回答)		指標 2 保護者・地域住民との連携 (肯定的な回答)	
子供	保護者	教職員	保護者
R3	90.8 %	90.3 %	95.9 %
R5	88.2 %	91.1 %	100 %

青森県

学校

青森県立黒石高等学校

学校運営協議会

黒石高等学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

PTA関係者
同窓会関係者
大学関係者
NPO代表
企業代表者
黒石市関係者
市内中学校長
医療関係機関関係者
地域学校協働活動推進員
計9名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名（1名）

地域コーディネーター 0名（0名）

地域学校協働活動

黒石高等学校地域学校協働活動

地域への貢献及び地域人材の育成

背景・取組概要

生徒一人一人の興味・関心に応じた学習や実践的な学び、地域との連携を生かした探究活動を通して、自ら課題を発見し解決を目指す主体性と専門性を身に付けるとともに、地域に根差した社会奉仕活動 や地域文化の継承に向けた活動により、郷土を愛する心と他者を敬愛する心を育み、豊かな人間性を備えた、社会の健全で持続的な発展に寄与する人材を育成する。
⇒ 統合により新設された市唯一の高等学校であることから、市民や地域からの期待は大きく、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

本会には、学校側から事務局以外に関係する各主任、各学科長がオブザーバーとして出席し、熟議等において、具体的な活動に関する情報を提供し、共有している。

◆地域学校協働活動

令和5年度に本部を設置した。地域学校協働活動推進員を中心としたコーディネートにより、地域人材を広く活用した教育活動が展開可能となり、生徒が「自分の住む地域」について考えるきっかけとなっている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員となり、学校と地域をつなぐコーディネーターとして活動している。

これまでの主な活動内容

- 「あおり創造学」などの探究活動における講師や助言者との折衝
- 看護科専攻科事業の講師依頼
- ボランティア探究説明会への参加
- 黒石市総合防災訓練における黒石市防災管理室との打合わせ、地域住民との打合わせ会議に出席

◆防災教育（黒石市総合防災訓練⇒黒石市、黒石消防署、西部地区住民とともに参加）

- 生徒の役割
 - ・全体アナウンス ・避難所開設避難者 ・介助役
 - ・倒壊建物内救助訓練時の負傷者役
 - ・火災防ぎょ訓練時の消火役、逃げ遅れ役
 - ・避難所健康観察（看護科）



成果・効果

- ◆市教育委員会、市立病院、近隣の中学校、企業との結びつきが強くなり、連携がスムーズになった。
- ・学校が抱える問題を地域とともに考える機会が得られ、学校経営に非常に役立った。
- ・地域貢献のための活動に生徒が参加することにより、生徒の主体的な行動力の育成に役立った。

岩手県紫波町

学校

紫波町立日詰小学校

学校運営協議会

日詰小学校学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

- 1号委員：PTA会長・母親委員
2号委員：商工会長・商店街会長・保育士・商店主
3号委員：公民館長
4号委員：学校長
5号委員：元地域おこし協力隊など 10名

※事務局：副校長・公民館指導員・CSコーディネーター

会議回数

年間平均4回

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(0名)

地域学校協働本部

日詰小学校地域学校協働チーム

地域学習（花の虹タイム）の実践等

背景・取組概要

令和4年度全国学力状況調査「**地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う**」「**自分にはよいところがある**」の肯定的な回答が低いという課題を学校運営協議会で熟議し、「児童自身が自分の未来を主体的に考え、自信をもって未来への展望を持つことができる児童の育成」をめざし、課題解決に向け**学校と地域と一緒に地域学習（以下「花の虹タイム」）**を全学年において見直し、教育課程そのものを再構築する必要があった。

→**学校や地域に愛着と誇りをもち、夢や未来を切り拓こうとする子を育てる（地域への愛着・自己肯定感の向上）**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

児童や地域の課題解決に向け、熟議（CSコーディネーターがファシリテーター）では主に「**花の虹タイム**」について協議している。熟議では、**委員の地域学校協働活動への主体的な関わりを分担**したり、地域情報を提供したりすることで「花の虹タイム」が充実してきている。また、新たに**岩手県立大学生も参加**するなど多様な立場からの意見が反映された協議会運営となっている。

委員は1年毎に構成され、「花の虹タイム」を中心とする地域学校協働活動に委員が主体的に参画することで、**委員自ら地域を元気にする様々な地域学校協働活動を推進する原動力となり、学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的取組が進んでいる。**

◆地域学校協働活動

6学年「商店街学習」では、**大学生が商店をリサーチし、児童へのプレゼン、グループ分け、当日引率等の中核**となり、地域と学校の架け橋となった。このような動きは、**地域の新たな横や縦のつながりが構築され、地域全体で児童を支えようという機運が高まる**とともに、発表会には、大学生や訪問先の地域の方が多数参観するなど**学校への興味・関心が高まっている。**

◆社会に開かれた教育課程

令和4年度2単元で始まった地域学習は、「花の虹タイム」として地域学習を全学年で見直し、令和5年度9単元、令和6年度3単元（＋親子行事6行事）を新たに系統化している。また、**単元実施前には、学校長・CSコーディネーター・学年担任が委員とともに、地域講師や大学生と内容を協議し、学習内容を検討**することが通常化されたことで、**社会に開かれた教育課程が充実・系統化し、児童の学ぶ意欲の向上**につながっている。



給食試食後に学校運営協議会



大学生のガイドで商店街での体験学習



単元実施前、講師と学習内容検討中

成果・効果

◆学校と地域（大学生含む）が協働して進める「花の虹タイム」実践の積み重ねにより、児童の地域への貢献意識（指標1）と自己肯定感（指標2）が実施前や県比を超えるなど、**地域への愛着意識と自己肯定感の向上**が顕著である。

◆**花の虹タイムが多様に実践される**ことで、地域のつながりが新たに構築され、地域で子供を育てる意識が高まり、**学校を核とした地域づくり**が進んでいる。

	指標1		指標2	
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（肯定的回答）		自分にはよいところがあると思う（肯定的回答）	
	本県	本校	本県	本校
R4	58.0%	54.0%(－4.0)	77.0%	62.0%(－15.0)
R6	83.6%	87.0%(＋3.6)	80.6%	84.1%(＋3.5)

岩手県奥州市

学校

奥州市立岩谷堂小学校

学校運営協議会

コミュニティ・スクールいわやどう

令和4年3月2日 設置

委員構成

岩谷堂・藤里・伊手 地区振興会
地域コーディネーター、学校関係者
保護者・PTA関係者・PTA顧問
江刺中央民生児童委員協議会
奥州商工会議所江刺支所
奥州市社会福祉協議会
岩手江刺農業協同組合
江刺青年会議所
江刺幹部交番
江刺消防署
など

17名

会議回数

年間平均2～3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

江刺第一中学校支援地域本部

家庭・地域と連携した地域づくり・学校づくり

背景・取組概要

取組の背景

江刺を担う人材の育成のため、岩谷堂小の子どもたちの教育（成長、健全育成）について、学校と家庭、地域が同じ「価値観」を共有し、学校と地域社会、家庭の協働・連携協を図り、学習活動を通じた多様な活動に取り組む必要があった。



学校・家庭・地域社会とのさらなる連携・協働を強化し、「ひとづくり」そして「地域づくり」へ

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

「人づくり」「地域づくり」を学校・家庭・地域の連携のもと進めるために、地域とつながりのある団体から17名の委員を選出し、協議会では、以下の3つのテーマを中心に協議を進めている。
○「ひとづくり」は長期にわたる「地域づくり」のプロジェクト「みんなで子どもたちの未来を考える」
○学校経営と地域文化創造の一体化～開かれた教育課程～「学校経営方針の承認 等」
○大人が力を合わせ子どもたちを育む仕組みづくり「地域住民の方と一緒にあいさつ運動 等」

◆地域学校協働活動

学校運営協議会の協議結果や熟議から、あいさつ運動や地域学習、ミシンボランティア等、**多様な活動が学校・家庭・地域の連携協働のもと進められ、学校運営の改善・強化のみならず、「学校を核とした地域づくり」に資する取組の充実が図られている。**

◆コミュニティ・スクールと地域コーディネーターによる教育活動の充実および一体的推進

地域コーディネーターが学校運営協議会委員となり、協議内容の具現化を図るとともに、登録ボランティア数の増加や内容の充実を目指し、地域人材の確保や発掘を行っている。また、**学校運営協議会委員の熟議の場に、地域コーディネーターが参加**することにより、「地域と学校が力を合わせて子どもを育てる」視点を大切にしながら、事業を展開している。「まなびフェスト」「グランドデザイン」を地域に示すことが、教育活動の充実につながっている。さらに、コーディネーターが担任をサポートすることで教員の働き方改革の一翼を担っている。



成果・効果

- ◆学校教育活動への支援が得られやすくなった。（指標1 登録ボランティア数・参加人数）
- ◆学校、家庭、地域の連携がより図られるようになってきた。（指標2 活動支援実施回数）



家庭・地域との関係強化及び深化、参加意識の高まりが近年顕著にみられる。

- ◆学校運営協議会制度を活用するという視点をもちながら、「ねらい」や「願い」を共有し、地域と力を合わせ、同じ方向を向いて子どもを育てるという目標がより明確になってきた。

	指標1		指標2
	登録ボランティア数・参加人数		活動実施回数
R3	45人	309人	65回
R4	59人	310人	74回
R5	65人	312人	77回

岩手県

学校

岩手県立平舘高等学校

学校運営協議会

平舘高等学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

地域教育委員会
地域中学校長
地域商工会
地域企業関係者
同窓会・PTA代表
福祉施設代表
元高等学校校長（学識経験者）
など 13名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名（0 名）

地域コーディネーター 1 名（1 名）

地域学校協働活動

平舘高等学校地域学校協働活動

学校運営協議会委員は最高のサポーター ～地域とともに～

背景・取組概要

- ◆平舘高校が築いてきた地域との連携の強みを生かすこと、及び、期待される役割が「地域を担う人材の育成」であることから、「学校の魅力化促進」「学校からの地域への情報発信」「志願者増に向けた取組」を当面の課題として熟議を重ねるとともに、総合的な探究の時間などで委員の協力を得ながら地域と協働した学びを進めている。
→地域との協働の中で自ら課題を発見し、主体的に課題の解決に向き合う姿勢を持ち、他者と協働できる人材の育成

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆「学校魅力化促進」に向けて
各委員の協力を得ながら、地域と協働した取り組みを行っている。
主な事業としては、「八幡平市探究学習」（八幡平市博物館等文化施設への訪問、岩手山焼き走り熔岩流・八幡平ドラゴンアイ等の自然観光遺産を訪れ植生や地形を知る、地熱活用に関する学習、学習成果の市議会での発表など）、地域商工会の企画・協力によるインターンシップ、企業学習会などのキャリア教育の推進、八幡平市DMO講師等による地域資源活用に係る授業及び校外学習の企画・運営等
- ◆学校が抱える課題解決に向けて
(1) 学校から地域への情報発信について
学校運営協議会の中で、情報発信に関して詳しい委員から「SNSの活用」「動画サイトの活用」及び具体的な運用の仕方などの提案があり、生徒からの情報発信を視野に入れた新たな地域交流の在り方を検討している。
(2) 志願者増に関する取組について
市教育委員会との連携、学校長の広報としての役割等に関して提言を頂いている。
- ◆地域コーディネーターの役割について
上記取組全般に関することの他に、家政科学科の学習全般に関する助言・協力や総合的な探究の時間に係る各学年担当への助言・協力、市との協力体制の構築など多岐にわたって活躍している。



成果・効果

- ◆学校運営協議会によって地域との協働が円滑に行われ、生徒の学びの充実につながっている。
- ◆学校運営協議会における委員からの提案が有効かつ効果的であり、適切な学校運営の方向性の決定に寄与している。
- ◆「高校魅力化評価システムアンケート」において、【主体性に関わる学習活動】【協働性に関わる学習活動】について肯定的評価が全国平均よりも高いことから、主体的、協働的な学びを充実させることができています。

	平舘高校	全国平均
主体性に関わる学習活動（R5）	53.1%	51.3%
協働性に関わる学習活動（R5）	77.4%	74.5%

宮城県石巻市

学校

石巻市立向陽小学校

学校運営協議会

石巻市立向陽小学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

地域住民
学校支援地域コーディネーター
保護者・PTA関係者
民生児童委員
学識経験者
町内会長
読み聞かせボランティア代表
学校関係者
など 11名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

蛇田中学校区地域学校協働本部

学校・家庭・地域が連携・協働した学校づくりの推進

背景・取組概要

令和4年度より、学校・家庭・地域が連携・協働した学校づくりの推進を目的として設置

◆学校運営協議会で学校・地域の目標を共有し、学校課題について検討し、学校運営協議会委員である学校支援地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）を中心に、その解決方策の実現に向けて地域住民に呼び掛けを行い、地域学校協働活動の推進を図る。

わいわい
主体性のある学校運営協議会
学校頼みの協議会ではなく、対話の
場を柱として自立感を高め・協働する

ほかほか
学校運営協議会以外の場に出ている学校の状況・課題を
把握し、学校運営協議会を活用して共有し、学校支援地
域コーディネーターが「つなぎ役」となり地域住民を巻き込む

すくすく
他機関との連携がしやすくなり、PTAだけではなく、地区
住民協議会だけでない活動が生まれる
学校を核として、「こどもんなか地域」を醸成する

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

・学校運営協議会で学校の課題について話し合い、その解決方法を熟議
等で検討し、学校支援地域コーディネーターが、地域や民間団体と連携
し、各種地域学校協働活動を行っている。

◆地域学校協働活動

○学習支援サポーター（地域住民によるボランティア）

- ・1年生サポーター…入学当初より新入生の身の回りのお世話を行う
活動（4・5月）
- ・ミシン指導の補助…高学年の授業（ミシン指導）のサポート

○読書活動の推進（保護者・地域ボランティア）

- ・業前読み聞かせ…図書ボランティア「にじいろのたね」による読み聞かせ
- ・国語お話の時間…地域ボランティア「石巻絵本とお話の会」による45分
たっぷり本に親しむ時間
- ・図書館開放…図書ボランティアによる、長期休業中の図書館開放

○放課後の学習等の活動の場

- ・放課後学び教室「もくもく」…毎週木曜日の放課後、地域サポーター
（地域住民）による学習支援と見守り
- ・放課後子ども教室「チャレンジキッズinこうよう」
…民間団体・地域住民による様々なプログラムの体験活動



1年生サポーター
校外学習に引率しての見守り活動



図書ボランティアによる読み聞かせ



放課後学び教室
「もくもく」



放課後子ども教室
「チャレンジキッズinこうよう」

成果・効果

○子供たちの学びや体験活動が充実し、「学校に来るのが楽しい」と思う児童の割合が令和5年度は97%に達した。

○ボランティアとして学校運営に参加する地域住民が増え、学校と家庭、地域が連携して学校づくりができてきている。

放課後学び教室「もくもく」地域サポーター人数（令和4年度 4人 令和6年度 15人）

○地域住民が見守り活動や防犯活動に参加することにより、子供たちの地域や住民への認識が高まっている。

○学校運営協議会で話し合われた課題に対して、学校地域支援コーディネーターをはじめとした委員から地域住民、地域ボランティア等に協力の呼びかけがスムーズに行われ、これまで以上に学校と地域が協働するようになった。また、地域事業者の学校への理解が深まり、令和6年度のPTA祭りに22者の協賛事業者
に協力をいただいた。

○放課後子ども教室において様々な体験活動を地域住民等が講師となって行うことにより、地域住民と子供達との関係性が深まった。放課後子ども教室参加
児童のアンケートによる満足度98.9%（令和5年度） 放課後子ども教室スタッフ（令和5年度 18人 令和6年度 22人）

秋田県小坂町

学校

小坂町立小坂小・中学校

学校運営協議会

小坂町学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

- ・元学校教育関係者
- ・地域学校協働活動推進員
- ・民生児童委員
- ・元自治会連絡協議会委員
- ・保育園園長
- ・保護者代表
- ・校長、教頭 など 10名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員3名(2名)

地域コーディネーター 1名(0名)

地域学校協働本部

小坂町地域学校協働本部

ふるさと小坂を愛する子どもたちの育成を目指して～地域と学校が一体となった取組～

背景・取組概要

小坂町はかつて鉱山の町として発展し、最盛期には秋田県第2の都市として栄えたが、鉱山の閉鎖とともに人口は激減し、存続の危機となった。そのような中、令和3年4月、小中一貫教育の充実を図り、子どもたちの9年間の義務教育について保護者や地域住民と協議する場として学校運営協議会を設置した。少子高齢化が顕著な町であるが、その中でも子どもたちのために学校と地域が一緒になりできることを、学校運営協議会において協議している。

学校運営協議会発足時から、「子どもたちの関心がテレビやSNSに向かい、地元の人と話す機会や、地元のよさを感じる機会が少なくなっている」ことについて話題となることが多かった。そこで、**学校運営協議会と地域学校協働本部、そして小・中学校が一体となり、地域の声を取り入れ、地域とつながり、地域住民と子どもたちが関わり活動することで、ふるさとを愛する子どもたちを育成することができると考え、本実践を行うこととした。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- 年3回学校運営協議会を実施し、子どもたちや学校の状況・課題、その改善策等について**当事者目線で意見を話し合っている。**
- 第2回学校運営協議会（秋に実施）において、地域学校協働活動関係者、学校職員等が出席し**熟議を実施**している。令和4年度熟議のテーマ「小坂の子どもたちにどのように育ってほしいか」の際には、出席者から「ふるさとを愛してほしい」「地域に貢献してほしい」などの意見が出された。

◆地域学校協働活動

- 学校運営協議会や熟議での意見を基に、ふるさとを愛する子どもを育てるため、地域住民と学校が一緒になった地域学校協働活動を次のとおり行っている。**
- 伝統芸能である「小坂音頭」を学校支援ボランティアが練習から熱心に指導し、運動会では、**子どもたちと共に、地域住民、保護者が一緒に参加し、大きな踊りの輪をつくり上げた。**
- ふるさと小坂のために生徒ができることを考える総合的な学習の時間「小坂町活性化アクションプロジェクト」に、地域住民、保護者、町役場等の多くの人材が協力した。その成果を町文化祭と一体で開催している学校祭で披露し、**称賛されたことで、子どもたちの自己肯定感の向上が見られた。**
- 地域住民と児童生徒が共に花壇を整備する「フラワーデー」を実施している。老人ホームや「明治百年通り」など、地域の花壇を植栽したり花のプランターを設置したりするなど**活動に広がりが見られた。**

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

- 地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員**となり、地域学校協働活動の現状や課題を協議会で伝えたり、協議会で話題となったことを地域学校協働本部関係者や学校支援ボランティアに伝えたりしながら、よりよい活動になるよう努めている。
- 学校内に地域学校協働活動推進員等のためのボランティアルーム「バレット広場」**を設けている。毎週金曜日に推進員が常駐し、学校職員と地域学校協働活動等についての打合せを行っている。

成果・効果

令和6年度前期学校評価アンケートで「小坂のよさを感じ、小坂町が好きである」の肯定的な回答が児童生徒94.3%、「地域の人たちが指導してくれる学校の活動や地域の活動が楽しい」の肯定的な回答が児童生徒92.8%と、とても高い割合であった。また、令和6年度全国学力・学習状況調査「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」への肯定的な回答は中3で82.1%であり、全国比+6.0%であった。**地域のよさを感じ取ったり、地域に貢献したいと考えたりする児童生徒の割合がとても高く、活動の成果がうかがえる。**

地域住民からは、「子どもたちが地域のためにがんばっている様子に元気をもらっている」という声とともに、「学校支援ボランティアとして学校を訪れる機会が増え、子どもたちと活動することによって、子どもたちから元気をもらっている」という声も多くあり、**地域に元気を与える存在になっている。**



【運動会での「小坂音頭」】



【「フラワーデー」の実施】

秋田県湯沢市

学校

湯沢市立湯沢西小学校

学校運営協議会

湯沢西小学校学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
元学校長
幼稚園長
見守り隊
NPO法人代表
地域有識者 など 11名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名(2名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

湯沢南地区学校協働本部

学校課題をともに解決する学校運営協議会をつくる ～動くCS～

背景・取組概要

地域に根ざしたキャリア教育を推進し、多様な他者と協働したり人との関わりを大切にしたりできる子どもを育てるために、地域と学校が課題を共有し連携・協働して「地域に開かれた学校づくり」を目指す。
学校課題をともに解決する学校運営協議会をつくる ～動くCSへ～

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆コミュニティ・スクールの「見える化」
湯沢西小学校学校運営協議会は「コミュニティ・スクールという新たな仕組みの中で、学校運営協議会を**実際に動く組織にしたい**」という委員の声からスタートした。コミュニティ・スクールへの理解を深めるため、協議したことを実際の活動につなげ、「**見える化**」を図っている。「誰が、何を、いつまで」を皆で意識しながら、「ウォーキング＆クリーンアップ」「西小あいさつロード事業」等の協働活動を行うなど、「**動くCS**」をキーワードにしながら学校運営協議会を運営している。課題の解決策を学校運営協議会が提案し、PTAや地域との連携・協働により、課題解決に向けた取組を進めている。
- ◆熟議
地域と学校が思いや課題を共有し主体的に協働していくために、その時々思いや課題をテーマにした熟議を年1回開催している。これまでのテーマは「西小の子どもにつけたい力は？」「ふるさと湯沢 次の150年へ」等である。より活発な熟議とするために、熟議の前に、地元在住児童文学作家や老舗企業代表等による、テーマに沿った基調対談を設定している。
- ◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
学校運営協議会や熟議で出されたアイデアを基に、活動へ。地域学校協働活動推進員は、スポーツ少年団の指導者や民生児童委員としても活動しており、様々な機会を通して地域学校協働活動への参加を呼び掛けている。学校と地域と家庭とをつなぎ、様々な活動を活性化させている。
- コロナ禍で従来のPTA行事を行うことができなかったため、代替案として始まった「**ウォーキング＆クリーンアップ**」は、親子や地域で楽しめること、地域貢献にもつながることから、今では地域行事として定着している。
- あいさつ力を高めるために始まった「**西小あいさつロード**」の活動は、大人から積極的に声を掛けることで活発なあいさつが飛び交う活動になっている。幟旗の作成により地域にもこの取組が認知され、地域の活性化にも寄与する活動となっている。
- 創立150周年を記念する「**タイムトラベルプロジェクト**」では地元企業や地元出身イラストレーターの協力も得てクラウドファンディングを実施し、地元企業とのコラボ商品の開発や販売等を通して、子どもたちのキャリア教育をより充実したものにしている。



【活動のチラシ】



【熟議の実施】

成果・効果

- ◆「**動くCS**」をテーマとして、学校運営協議会で立場の異なる地域関係者が具体性のあるアイデアを出し合うことで、学校課題の解決に向け、**地域との協働**が円滑に進んだ。
- ◆保護者アンケートで、「地域学校協働本部事業を活用しながら、学校運営への保護者・地域住民の参画を積極的に受け入れ、協力体制を深めている。」「学校運営協議会の役割を理解し、地域とともにある学校作りを意識して学校運営がなされている。」など地域連携の活動に対して、9割を超える肯定的な評価が得られた。**コミュニティ・スクールへの理解が進んできている**ことが数値でも現れている。
- ◆学校課題に対する学校運営協議会の提案を、**PTAや地域学校協働本部、地域のNPO法人といった団体が受け止め、それぞれの団体が企画・運営の主体となって具現化**している。

山形県山形市

学校

山形市立高楯中学校

学校運営協議会

高楯中学校学校運営協議会

令和4年7月1日 設置

委員構成

地域団体代表
地区振興会会長・副会長
コミュニティセンター所長
同窓会会長
体育文化後援会会長
PTA会長
地域学校協働活動推進員
地域住民
校長
など 12名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名（1名）

地域コーディネーター 0名（0名）

地域学校協働本部

高楯地区地域学校協働活動ネットワーク

「地域とともにある高楯中学校」と「高楯中学校を核とした地域づくり」をめざして

背景・取組概要

山形市では令和3年度より市内全小中学校に学校運営協議会の設置と地域学校協働活動推進員の配置を進め、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」を進めている。

高楯中学校は令和4年7月1日に学校運営協議会を設置。地域住民が学校運営に参画し「地域とともにある高楯中学校」づくりを進めている。また、同日に地域学校協働活動推進員を委嘱し、高楯中学校に配置した。学校の教育活動に地域住民等が参画したり、地域住民等が学校と連携して活動したりできる体制が整備され、「高楯中学校を核とした地域づくり」につながっている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

高楯中学校では、**熟議によって学校と地域で課題を共有し、「共通の目標」を明確にして**学校運営協議会を進めている。昨年度は「放課後・休日の部活動について」というテーマで熟議を行った。委員は部活動の在り方について熟慮、議論し、下記の地域学校協働活動の実施につながった。また、地域団体から要望があった学校との連携について学校運営協議会で検討し、**地域住民等が主体となって実施する地域学校協働活動の実施**につながった。

◆地域学校協働活動推進員

学校運営協議会の委員になっている。「地域学校協働活動だよりおらだすっぺ」を作成し、学校運営協議会や地域学校協働活動に関する情報を教職員や地域住民等に対して発信している。また、中学校区内の2つの小学校に配置された地域学校協働活動推進員との情報交換の場を設け、**両小学校区のネットワーク拡大**を進めている。さらに、**教職員と一緒に教育課程を検討するなど、カリキュラムマネジメントに協力**している。

◆地域学校協働活動

昨年度の学校運営協議会で、吹奏楽部が廃部になることから「吹奏楽を続けたい、やりたい」という子どもたちの受け皿を地域で創りたいとの提案があった。委員の承認を得て、地域学校協働活動推進員が中心になり、地域住民で「たかだて吹奏楽クラブ」を立ち上げ、昨年10月から活動を開始した。現在は中学生5名と小学生2名が参加し、コミュニティセンターを会場に活動をしている。また、サポーターズとして17名の地域内外の**大人が自身も演奏を楽しみながら子どもたちを支援**をしている。

地域団体であるたかせ元氣会が実施する「地域で子どもを育てる多世代交流」は学校運営協議会を経て、学校と連携して実施している。多数の**中学生がボランティアとして運営に参画**している。



成果・効果

- ・**地域にも学びの場が生まれ**、子どもたちが願いを実現できる機会が増えた。また、**地域での学びが学校での学習につながる**ことによる学習効果が期待できる。
- ・地域住民等が地域学校協働活動に参画することにより、地域住民等のネットワークが深化・拡充している。また、**中学生と地域住民のつながり**が増え、地域住民等の喜びになっている。さらに、**地域住民等に学びが生まれ**、地域の教育力の向上が期待できる。
- ・学校では、「子どもたちのコミュニケーション能力の向上」や「子どもたちの地域への愛着や地域の担い手としての自覚の意識向上」、「授業づくり（授業や教育活動の充実）」、「教職員の負担軽減・働き方改革」、「地域の教育力の向上」への効果を感じている。

令和5年度学校評価より

	学校・地域でのボランティア活動を通して、地域の一員としての自覚を高めることができたか。	教科等の学習を通して、地域の特徴を理解したり、地域に対する愛着を持ったりすることができたか。	地域の方の協力を得て、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができたか。
生徒	94.5%	92.8%	93.7%
教員	100%	100%	100%

山形県遊佐町

学校

遊佐町立遊佐中学校

学校運営協議会

遊佐中学校学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

統括的な地域学校協働活動推進員
まちづくり協議会
子ども見守り隊
地区長会
地域おこし協力隊
保護者・PTA関係者
県立遊佐高等学校教頭
遊佐中学校長・教頭
など 16名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員7名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

遊佐町地域学校協働本部

子どもたちが学校と地域をつなぐ

背景・取組概要

- ◆ 町内で1つの中学校であるため、**町内にある6地区のまちづくりセンターと小中学校とのつながりを大切にしながら、地域行事や様々な活動に積極的に子どもたちが参加することを通して元気なまちづくりを推進**したい。そのために**地域と学校の橋渡しをする中学生の「地域連絡員」**を募集することで、自主的に地域とかかわる子どもたちを増やしたい。
- ◆ 令和5年度に**町内5小学校が1校に統合**することで、地域の様々な行事や活動に参加する機会が減っていく心配があった。**中学生が参加することで小学生の参加が増えた。今後も、地域の方々と交流する機会が増えていくことを期待**する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆ 学校運営協議会
年3回の学校運営協議会の中で、第2回目は「**拡大学校運営協議会**」として、**学校運営協議会委員とPTA代表に加え、遊佐中学校の生徒会役員や各学年学級委員で意見交換**を行っている。中学校で行っている学校評価(中間報告)から、テーマを見つけてグループワークを行い、**子どもたちができることを各学級や部活動、生徒会活動に活かしていくこと**を提案している。
- ◆ 地域学校協働活動
地域学校協働活動推進員は町内小中学校を兼務することで、広く小学校や中学校の動きを把握しながら地域学校協働活動に対しての支援や助言を行うことができる。遊佐町地域学校協働本部で行う年5回の「**地域学校協働活動推進員連絡会**」で、**中学生の「地域連絡員」と打合せをしたり各地区での活動状況の紹介をし合ったりして、積極的に地域と学校の橋渡しをできるようにしている。また、必要に応じて、それぞれの地域学校協働活動推進員が地域連絡員と直接話し合いをすることもできる。**
中学生が各まちづくり協議会のイベント(住民運動会、夏まつり、フェスタなど)で、会場準備や後片付け、競技役員補助、軽食の調理補助や販売、場内アナウンスをするなど、地域住民と一緒に運営を担う機会を大切にしている。
- ◆ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進
小中学校運営協議会委員と地域学校協働活動推進員が参加する年2回の「**地域学校協働活動推進会議**」では、**他地区で活躍している地域学校協働活動推進員や元地域おこし協力隊の方を講師にした研修会**を行っている。グループワークでは、**地域の方と学校との自由な協議を行うこと**で、様々な活動を工夫することができる。



成果・効果

- ◆ **地域連絡員の自主的な活動により、まちづくりセンターと学校とのつながりが密になり、地域行事や活動に参加する子どもたちが増えた。**
- ◆ **小中学校における生活科や総合的な学習での地域学習に、多くの地域の方が関わる**ことができた。また、子どもたちが地域の抱える課題に向き合い、**中学生では地域行事に自分たちの企画を提案**することができた。
- ◆ **地域の方と日常生活でも積極的にあいさつをし合う子どもや、豪雨災害時には避難所で自らできることを進んで行う子どもたちも見られた。**

地域や社会をよくするため何かをしてみたいと思いますか。(全国学調 生徒質問紙)
→肯定的な回答が全国平均より高い
R5 当てはまる 30.3%(全国19.6%) どちらかといえば当てはまる 42.7%(全国44.3%)
R6 当てはまる 26.3%(全国26.4%) どちらかといえば当てはまる 52.5%(全国49.7%)

福島県田村市

学校

田村市立常葉幼稚園・小中学校

学校運営協議会

常葉幼稚園・小中学校運営協議会

令和2年6月26日 設置

委員構成

常葉幼小中PTA役員(現・元会長)
地域住民
常葉地域学校協働コーディネーター
幼稚園長・小中学校長
地域の有識者 など12名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部

田村市地域学校協働本部

子ども・教職員・保護者・地域が共に創るウェルビーイング（幸せ感・充足感）の実現

背景・取組概要

- ◆ 東日本大震災以降、本県では少子高齢化の進展や人口減少の急速な進行により、地域や家庭の教育力の低下や、学校における学級の小規模化又それに伴う統廃合の問題が、適正な教育環境を維持する上で大きな課題となっている。地域と学校が協働して、これらの課題の解消に取り組み、**学校や地域の教育活動の魅力化**を図っていく必要がある。
- ◆ 常葉地区の幼小中の学校運営協議会は、今年度で5年目を迎えている。「子どものウェルビーイング」の実現のためには、「教師のウェルビーイング」を確保し、それを家庭、地域と共に広げ共有していく必要がある。すべての教育活動について「**対話から信頼を高めていく**」ために、今年度は教育目標をさらによりよいものにするために「**熟議を複数回**行い、地域・学校・保護者の関係がより深いものになり、学校経営が改善されると同時に、**子どもが成長し、地域が元気になるという視点を大事**にする。併せて幼小中の学びについて**系統性・連続性のある教育を目指し**、保護者、地域と共に教育目標やビジョンを明確にする。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆ 「**対話による信頼感向上のための熟議**」を核にした学校運営協議会
年6回の協議会の中核に「熟議」を据え、**学校教育目標や学校経営ビジョン**について保護者、地域の方々と共に話し合う場を設定し、**令和7年度の教育課程に反映**する予定で取り組んでいる。
(4月25日・文科省CSマイスターとの研修会「コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な推進」)
(7月5日・**第1回ミニ熟議：「子ども、家庭、地域のウェルビーイングの実現」**の研修会と感想交流会
常葉地区青少年健全育成市民会議等地域含めて40名が参加、文科省CSマイスターからの助言)
(8月20日・**第1回熟議：「常葉地区の子どもたち、学校(園)、地域をどのように育てたいですか」**
のテーマのもと、45名が参加)
(12月13日・**第2回熟議：「子育てあるある」**のテーマのもと、60名が参加)
- ◆ **支援する者、される者の両者が幸せになり、充足感が持てる地域学校協働活動**
各ボランティア活動に参加される方が、また活動したいと思えるような環境づくりの推進。特に各活動においてボランティアの支援を受けるだけでなく、各活動の事後に**子どもからの感想や意見をフィードバックする機会(事後の感想記入や職員との振り返りの場の設定)**を作ることで、活動の広がり(例：そば打ち体験から家庭科でのソバ粉を使ったスイーツ作り、そばの種まきから地域の名産エゴマ作りの提案、夏祭りの実施等)が**子どもから提案され、支援を受けるだけでなく双方向の交流**になっている。
- ◆ **コミュニティスクール、地域学校協働活動、幼小中一貫教育の三位一体的推進**
幼小の架け橋プログラム、小中教員の乗り入れ授業、全国学力・学習状況調査の向上へつなげる授業研究会、小中合同行事等への学校運営協議会委員の参加機会を作り、現場での意見交換を教育課程の編成に役立てている。
また、今年度複数回実施している熟議の場に常葉地区青少年健全育成市民会議のメンバーや常葉公民館の職員等の**重要な地域関係者が参加**していること、進捗状況について学校等へ田村市地域学校本部のメンバーが視察に来る等の特徴的な取組について、**他の中学校区へも活動の広がり**を見せている。



【第1回熟議の様子】

成果・効果

- ◆ ①常葉地区幼小連携、②小中一貫教育の推進の両方に関して学校評価の項目に好影響が見られる。(①は幼小の架け橋プログラムの検討へ学校運営協議会委員も参画、②は学校評価の項目
例：合同授業研究会の継続や共通通徳の実施によるA評価 小R4・50%→小R5・89.5%、中R4・18.2%→中R5・64.3%)
- ◆ 多様な地域学校協働活動のボランティア協力もあり、「夏祭り」時には全児童が登校(217名)し、不登校児童0名：「R6.9.9現在」が続いている。
- ◆ 熟議の継続開催により、教師、保護者、地域の方々が**【もっと、お互いの事を理解して子どもたちのためになることをしていきたい。】**等の感想が寄せられている。

茨城県水戸市

学校

水戸市立浜田小学校

学校運営協議会

浜田小学校学校運営協議会

平成19年4月1日 設置

委員構成

- ・地域学校協働活動推進員の役割をもたせた地域コーディネーター
- ・住みよい浜田をつくる会会長
- ・保護者代表
- ・民生児童委員
- ・商店街代表（プロジェクト委員）
- ・見守り隊代表
- ・読み聞かせ代表
- ・有識者（元校長・プロジェクト委員）など 10名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

浜田小学校区地域学校協働活動ネットワーク

地域の『もの・人・こと』とかかわって、「みんな・明るく・元気に・楽しい」学校～子供たちにとっての「ふるさと」づくり～

背景・取組概要

平成19年度から2年間、文部科学省から「コミュニティ・スクール推進事業調査研究校」に指定されて以来、学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールを推進している。浜田小学校区の地域社会の課題として、地域社会の結びつきの希薄化、人材の流失などが挙げられ、「新たな共同性・循環型のまちづくり」を進めてきた。そこで、「子供は小さな地域づくり人」という意識のもとに、学校運営協議会では、教育の目標を“地域の『もの・人・こと』とかかわって、「みんな・明るく・元気に・楽しい」学校”として『子供にとっての「ふるさとづくり」』を目的にコミュニティ・スクールを推進し、そのための事業を実施してきた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

浜田小コミュニティ・スクールの目標・目的を達成するために、学校運営協議会の下部組織として「地域連携プロジェクト委員会」を設置している。学校運営協議会では、基本的な考えが検討され、実働部隊として各プロジェクト委員会が組織され、管理職以外の学校職員を配置するとともに、多くの地域住民が参画している。これにより、管理職以外の学校職員と地域住民が忌憚のない意見を出し合い、コミュニティ・スクールの事業をスムーズに行っている。学校運営協議会で協議した学校支援策として、学校だよりを兼ねたコミュニティ・スクールだよりを委員が作成したり、テスト採点の補助を地域ボランティアに依頼したりするなど、教員の「子供と向き合う時間」を確保している。プロジェクト委員会での事業として、商店街を舞台としてハロウィン、備前堀を活用した子供灯籠流しなどがある。学校運営協議会は、年3～4回、プロジェクト委員会は年10回程度開催されている。また、学校だよりを兼ねたコミュニティ・スクールだよりを年5～6回作成し、地域内全世帯に、回覧ではなく、配付することにより、子供がいない世帯にも浜田小コミュニティ・スクールの仕組みや取組を理解してもらうよう工夫している。

◆地域学校協働活動

令和元年度からは、地域のまとまりの強化とともに子供にとっての「ふるさとづくり」をねらって、年1回、「タウンフェスティバル」を開催している。原案は本町商店街で考え、商店街、住みよい浜田をつくる会、PTA、学校職員、備前堀まちづくり協議会などからなる実行委員会で細部にわたって検討している。当日は、学校からは子供神輿やプラスバント等が参加し、地域コーディネーターの声かけで、社会福祉協議会や各スポーツ少年団等もブースを出し、地域のにぎわいやまとまりに寄与している。平成11年度から始めた読み聞かせでは、学期1回は寸劇を取り入れ、学校職員も出演し、地域を題材にした絵本を取り上げることで、子供たちが「地域」を身近に感じるようになった。家庭科の授業などでは、地域コーディネーターの橋渡しで、女性会や食生活改善推進委員によるミシンの使い方や調理実習の支援をしている。

また、地域コーディネーターを中心に、規約をつくり、浜田小学校区地域学校協働活動ネットワークを組織し、ネットワークの目標を“子供たちの「ふるさと」づくりのために”とし、少なくとも年1回は会議を開催し、各団体の情報交換や意見交換等をして、各団体同士の結びつきを強め、持続可能な取組を推進している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

地域学校協働活動ネットワークの複数のメンバーが学校運営協議会の委員となっており、学校運営協議会での協議についてネットワーク会議で報告され、活動がより具体的になるとともにネットワーク会議での課題等が学校運営協議会で取り上げられ、目標、課題等が共有されている。学校運営協議会委員が作成しているコミュニティ・スクールだよりに、守秘義務があることなどを明記したネットワークの規約を掲載し、常に個人ボランティアを募集するなど、幅広い地域住民の参画が得られる工夫をしている。地域コーディネーターが教頭及び校務分掌に位置付けられた地域連携コーディネーター（地域連携担当教員）と密に連絡を取り、役割を分担しながら活動を進めている。



成果・効果

保護者アンケートより				
指 標	年	そう思う	どちらかとい うとそう思う	肯定割合 合計
学校は、コミュニティ・スクールの地域連携プロジェクト事業を通して、子供にとっての「ふるさとづくり」を推進している。	H29	65.3%	30.7%	96.0%
	R5	88.1%	11.9%	100%
地域の「もの・人・こと」を教材にした学習や地域での行事は子供にとって効果的なことである。	H29	56.0%	37.2%	93.2%
	R5	50.0%	47.7%	97.7%

全国学力学習状況調査・質問紙より（令和5年度）	
指 標	肯定割合 全国との比較
将来の夢・目標がある	+ 15.3%
人の役に立つ人になりたい	+ 4.2%
地域、社会をよくするために何かしてみたい	+ 0.9%

※コミュニティ・スクールの取組を肯定的に捉える保護者が100%となった。

【地域住民・保護者の声】

- ・地域密着の行事は子供と地域が一体となり、みんなで子供を育てることに繋がると思う。
- ・地域に密着した行事は子供たちにとって「この地域で暮らすことができてよかった」と感じられるものだと思う。
- ・これからも地域とのつながりを大切にする子供たちの心豊かな学校生活を続けてほしい。
- ・教育活動を通して、勉強だけでなく、大切ないろいろなことを確実に学んでいると感じている。

茨城県牛久市

学校

牛久市立ひたち野うしく中学校

学校運営協議会

ひたち野うしく中学校学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
青少年市民会議委員
行政区長
学識経験者
元学校評議員
地区社会福祉協議会委員
教職員
など 20名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員4名(4名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

ひたち野うしく中学校
地域学校協働本部

学校を核とした地域づくりの推進 ～地域の居場所づくりに向けた取り組み～

背景・取組概要

◆協議会の中に授業参観が位置付けられており、授業後教職員と共に子供たちの学びについてグループ協議を行っている。その結果、協議会委員は生徒や教師の実態など学校理解を深めている。学校と地域の連携・協働が継続的に行われてきたことで、学校課題だけでなく、地域課題の共有や解決に向けた協議が行われるようになった。新興住宅地であるため地域コミュニティづくりが課題。本校の教育目標である「夢や目標をもち 生き生きと学ぶ生徒の育成」の実現のためにも、子供たちが地域で活躍できる場や多様な大人と関わる機会を増やすことで、自己有用感や地域の一員としての自覚を高める必要があった。

→ **地域の居場所づくりを通して、子供と大人が協働する学校を核とした地域づくりを目指す。**



授業後のグループ協議の様子

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

将来の地域の担い手となる生徒の育成と地域のつながりの希薄化の一体的な課題解決に向けて「**地域の居場所づくり**」について協議を行った。その結果、地域の居場所づくりとして、校内にある**地域活動室の有効活用**を進めることとした。**子供たちの活動の場**も取り入れた**地域の居場所づくり**として「ひだまりカフェ」の実施や、子供たちの**放課後の居場所**として「自主学習室の開放」を、**子供たちの地域での活躍の場**として「ふれあい祭り」の企画・運営にも子供たちが参画することになった。

◆地域学校協働活動

「ひだまりカフェ」では推進員が企画したワークショップや、生徒達が授業で育てた野菜の販売が行われ、**地域住民の居場所**につながった。「自主学習室の開放」には4日間で139人の生徒が参加した。「ふれあい祭り」の**企画・準備は、休み時間を利用して地域の方と一緒に**生徒達が行った。当日は地域の子供たちが賑わう取組となった。



地域活動室での「ひだまりカフェ」の様子



地域活動室での「放課後自主学習」の様子



小中学生によるお祭りボランティアの様子

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- ・協議会の前には会長が中心となって**学校と事前打ち合わせ**を行うことで、学校や地域の課題をもとにした議題が選定されている。
- ・地域学校協働活動推進員が学校側の**要望や学校の課題、教育目標を十分に理解**した上で、協議会委員に説明したり意見を聞き取ったりして学校に伝えている。また、授業支援ボランティア等、地域住民との連絡・調整役を担っている。
- ・他校とのコミュニティ・スクール情報交流会を開催し、各校代表者が**協議内容や取組をPDCAサイクルに合わせた報告書として紹介**。好事例を参考にすることで一体的実施を進めている。

成果・効果

- ◇生徒が自分たちの考えた企画や運営を実現できたことで、「自分たちが地域の役にたっている」という実感を得られた。
- ◇地域の活動に参加することで、地域への理解や住民とのつながりができ、地域の一員である自覚が芽生えた。
- ◇地域の方との関わりが増えることで、感謝の気持ちが芽生え、地域参加や地域貢献を考える生徒が増えた。

【参加した地域住民の声】

・子供たちの一生懸命学ぶ姿や終わった後の感謝の言葉に感動した。
・日ごろ中学生と関わる機会がないため、今の子供たちの自然な姿を知ることができた。中学生の頼もしさを感じた。
・大人では思いつかないアイデアで、お祭りを盛り上げようと企画してくれた。地域の子供たちが集うとても良いお祭りになった。子供たちが積極的に地域に出て活動してくれて嬉しかった。

【生徒たちの声】

・家より集中して学ぶことができた。勉強ができる環境を作ってくれてありがたい。
・地域の方に説明するのは緊張したけど、実際に野菜を買ってくれて喜んでもらえて嬉しかった。
・準備は大変だったけど、地域の方から感謝されたり褒められたりしたので、やってよかったと思った。

	指標1	指標2	指標3
	自分は人の役に立っていると感じることがある	日頃から地域の一員であることを自覚して生活している	地域とのつながりの大切さを考え、地域の行事や集まりに進んで参加しようと考えている
R4	75.0%	74.0%	56.5%
R5	75.4%	78.1%	68.8%
全年対象（生徒アンケート）			

栃木県

学校

栃木県立益子芳星高等学校

学校運営協議会

益子芳星高等学校学校運営協議会

平成31年 4 月 1 日 設置

委員構成

PTA会長
同窓会会長
自治会長
地域中学校校長
町役場職員
地域企業取締役
地域教育機関の長

など 11 名

会議回数

年間平均 4 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 4 名 (3 名)

地域学校協働活動

益子芳星高校地域学校協働活動

地域社会の未来を担う人材の育成を目指した地域学校協働活動

背景・取組概要

1. 背景
本校は、益子高等学校と芳賀高等学校との発展的統合によって、平成17年 4 月に益子芳星高等学校として開校した普通科男女共学校である。栃木県の第三期県立高等学校再編計画の中で、三学級特例校となり、地域の特色を生かした科目の充実が掲げられ、地域とともにある学校づくりの一層の推進が求められている。
2. 目標や目指す姿（学校）
スクール・ミッション：多様な学習機会や地域と連携した社会体験活動を通して、地域社会の未来を担う人間力を備えた人材を育成する学校
3. 目標や目指す姿（地域）（「第 3 期まじこ未来計画」より）
地域社会に参画する人財づくり：一人ひとりが地域社会の一員としての自覚を持ち、将来のまちづくりの担い手として、関心や参加意欲のある人財の育成

工夫・ポイント・特徴的な取組

1. 学校運営協議会
・委員は、学校運営協議会の他に、生徒の探究学習発表会に出席し、**探究学習の成果について意見を述べている。**
また、一日体験学習など本校をPRするイベントについて実際に**生徒の発表を聞き、工夫すべき点などについて助言している。**
2. 地域学校協働活動
・益子町と包括連携協定を締結し、**町の支援の下、生徒が主体となった多様な活動を展開**
（例：町が協定を結んでいる「良品計画」とコラボし、陶器市用エコバックのデザイン作成、マルシェの開催）
・益子陶器市ボランティア
ボランティア団体「益子塾」と連携して、陶器市会場の案内や募金活動、清掃活動を中心に実施
今年度からは関係団体と連携し、来場者向けのアンケートも作成した。
・総合的な探究の時間での地域学校協働活動
町の事業である「まじこ未来大学」に参加し、フィールドワークなどとおして、**地域課題の解決に向けた探究活動を実施**
他にも、益子の特産品をPRする製作物の作成、公民館大会での講座の企画運営を実施
3. コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
・**学校運営協議会の委員を兼ねる地域コーディネーターが複数いる**ことで、学校運営協議会の議論を踏まえた連携活動の実践が図られ、「社会に開かれた教育課程」の実現に寄与している。
・学校運営協議会の委員に、総合的な探究の時間の発表会や探究活動の様子を見てもらうことで、**取組の成果と課題を共有することができ、課題について学校運営協議会の中で協議を行うことができています。**



まじこ未来大学での取組の様子

成果・効果

- ・地域学校協働活動の取組が増加し、**地域とのかかわりを積極的に持とうとする生徒が増えた。**
また、それらの取組を通して、**自己肯定感や自己有用感が向上した生徒がみられた。**
「地域と連携し、地域社会に貢献していると思う生徒の数：98%」（令和 5 年度 学校評価アンケート）
- ・高校と地域が連携した取組の意義を地域側・高校側ともに感じられるようになったことで、学校運営協議会を中心に、地域と連携した取組のアイデアなどについて話し合われるようになった。
（社会に開かれた教育課程の実現）

6 本校は、ボランティア活動等への積極的な参加等を通して地域と連携し、地域社会に貢献している。



（上段：令和 4 年度 下段：令和 5 年度）

群馬県吉岡町

学校

吉岡町立吉岡中学校
吉岡町立明治小学校
吉岡町立駒寄小学校

学校運営協議会

吉岡町学校運営協議会

平成30年12月19日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
PTA代表
自治会長代表
主任児童委員
教育委員
学識経験者
など 17名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員3名(3名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

吉岡町地域学校協働センター

地域とともにある学校を目指し、生徒の自己肯定感や自己有用感を育む取組

背景・取組概要

◆隣接する前橋市につながる橋の建設と、道路の拡張整備によって、近年は大型商業施設が建ち並び、町の様子が大きく変わった。町の人口はこの10年間で約2,400人増え、高い人口増加率を維持する全国的にもまれな地域となっている。しかし、町が活気づく反面、地域住民のつながりが希薄になってきた。以前のような「地域の子どもは地域で育てる」町を取り戻すために、地域人材を多く学校に招いたり、地域活動に子供たちを参加させたりすることで、子供たちが異年齢交流を通して非認知能力を育むとともに、地域住民相互のつながりを強めて町を活性化させたいという願いがある。

→子供たちの活動を核として地域活性化を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

子供たちの多様な学習の場を支えるために、年間5回、吉岡町の目指す子供たちの姿について、委員の思いを出し合っている。具体的には、「よしおかの子育成プラン」から、進んであいさつができる子供の育成を目指して、学校、家庭、地域で班別協議をした。その結果、学校では児童会・生徒会を中心とした啓発活動。家庭では、リーフレットの作成と「行ってらっしゃいの日」の創設。地域では「あいさつの日」を創設したいという声が上がった。

◆地域学校協働活動

地域での人手不足が課題となる中、自治会からの要望を受け、地域学校協働活動推進員が中学生を対象にボランティアを募っている。「吉中ボランティア」として、地域や町、小学校の行事に中学生を派遣する仕組みとして着実に定着し、多くの依頼に応じて活動している。この活動により、地域住民のボランティア参加が増加し、地域行事が活性化。生徒は地域社会に貢献することで自己肯定感を育むとともに、地域との結びつきを深めている。生徒たちの積極的な関与によって、地域社会全体の連携が強化され、一体感が深まっている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会と地域学校協働センターの共通役員を6名配置し、吉岡町が目指す子供の姿の実現を共通の目的として、熟議を重ねている。また、共通役員の他のメンバーもオブザーバーとして参加しており、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が相互の活動を支え合っている。



成果・効果

◆生徒が地域のために活動する姿は好評で、地域の方々は、これまで以上に活躍の場を作ってくれるようになった。9割を超える生徒が「進んであいさつをしている」と答えているように、生徒の主体的な活動が増えている。

◆事後アンケートで依頼者からは「中学生が来ると、地域の大人も生き生きと活動するのでありがたい」などの好意的な声が寄せられ、生徒からも「地域の方がたくさん褒めてくれて嬉しかった」と、地域の方々との関わりを通して、自己肯定感や達成感を味わっている。

学校評価

「私は、学校や地域で、進んであいさつをしている。」

「そう思う」「まあまあそう思う」と回答した生徒の割合
令和4年度 89.3% → **令和5年度 91.4%**

群馬県川場村

学校

川場村立川場小学校
川場村立川場中学校

学校運営協議会

川場村学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
社会教育委員
保護者・PTA関係者
社会福祉協議会・民生児童委員
青少年育成推進員
商工会長
文化協会長・スポーツ協会長
校長・教頭・学社連携教諭
など 21名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名(2名)

地域コーディネーター 1名(0名)

地域学校協働本部

ふれあい学習推進協議会

「川場村ふるさと人材（グローバル人材）」育成の取組

背景・取組概要

村では「**川場の子どもは川場の宝**」を合い言葉に、これまで教育に熱心に取り組んできた。しかし、少子化や人口減少に伴う教育の後退が危惧される中「村の発展と平和の礎は人づくり」という思いから、自らの力で村を支える「志」をもち、故郷に軸足を置きながらグローバルに活躍できる人材「**川場村ふるさと人材**」を育成することが重要であり、**学校と地域が連携・協働した取組が必要**であった。→学校や地域において、地域の大人との交流や、子ども同士の学び合いなどを通して、「**豊かな心に支えられた確かな学力**」、「**故郷への強い愛着と自ら支えようとする意欲**」、「**自らの考えを発信しようとするコミュニケーション力**」をもつ**人材を育成する**。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

【川場村学校運営協議会】

「川場村ふるさと人材」の育成に向けて、「川場村で育てたい子ども像」や「川場村ふれあい学習」について熟議を行っている。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員が「チャレンジウィーク」、「弟子入り教室」、「月曜遊び場」、「水曜学び場」、「川場中未来塾」、「おもいっきり探検隊」をコーディネートしている。地域未来塾活動「水曜学び場」と「川場中未来塾」では、**小中9年間を通した地域未来塾活動**により学習習慣の確立を図り、「おもいっきり探検隊」は、**年間20回を超える体験活動**を提供している。また、**ボランティア団体「子ども応援隊スマイル」(登録者は約150人)**が組織され、登校時における児童生徒の見守りや、小中学校の授業支援などを行っている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

地域学校協働活動推進員2名が学校運営協議会委員を兼ねており、協議会で話し合われたことと地域学校協働活動をつないでいる。また、小中学校の学社連携担当教諭と地域学校協働活動推進員で月1回の「地域連携会議」を行い、学校の教育目標や活動のねらいを共有した上で、地域学校協働活動を実施している。「地域連携会議」により、**総合的な学習の時間の計画が見直され、地域の伝統工芸を小中学生が学び、継承するとともに、販売ルートを構想**するなど、新たな取組の可能性を見いだすことにつながった。



成果・効果

- 様々な活動に関係団体や住民が関わることにより、**多くの村民に「みんなで子どもを育てる」意識が浸透し、人口3,000人余りの村において、1年間で延べ3,400人以上の村民が活動に参加した。**
- 放課後子ども教室では、**小学生時代に参加した児童が成人し、支援員として関わるなど、ふるさと人材のサイクルが生まれた。**
- 「弟子入り教室」は文化協会から指導を受けた中学生が、地域の芸能祭において成果を発表するなど、**後継者を育てるきっかけとなった。**
- 多くの地域住民が、学校教育に関わるようになり、**地域の教育力の活性化**につながった。

埼玉県所沢市

学校

所沢市立松井小学校

学校運営協議会

所沢市立松井小学校 学校運営協議会

令和5年4月1日 設置

委員構成

- ①PTA、②後援会
- ③パトロール・ボランティア隊
- ④学校開放運営委員会
- ⑤民生委員・児童委員
- ⑥⑦自治会、⑧自主防災
- ⑨松井公民館、⑩まつば児童館
- ⑪学校図書館長
- ⑫ほかごまつい、⑬学校

13名

会議回数

年間：会議3回、学びの場3回

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名（1名）

地域コーディネーター 2名（2名）

地域学校協働本部

松井小学校 学校開放運営委員会

地域による不登校支援に向けた“大人の学び”を生かしたサポーター制度の構築

背景・取組概要

- ◆平成17年度から学校開放を利用するスポーツ団体やPTA等からなる学校開放運営委員会が地域学校協働本部の役割を担っており、放課後子供教室や環境美化活動、子どもフェスティバル等の**地域学校協働活動が盛んな地域**である。
- ◆コロナ禍以前に比べ、不登校児童が増えており、令和4年度には、校内教育支援センター的役割を担う「サポート・ステーション」を年度途中の2学期から学校独自で立ち上げたが、教員や支援員等の人手不足により、翌年度以降の継続が困難であった。
- ◆所沢市では、**令和5年度から学校運営協議会制度を導入**し、松井小学校がモデル校の一つとして取り組み始めた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会におけるアンケートの活用と熟議の具現化

松井小学校の学校運営協議会では、**毎回、会議を開催する前に、地域や保護者に議題に関するアンケートを実施し、その結果を踏まえ、熟議を展開**している。令和5年6月の第1回学校運営協議会では、学校や学区の課題について、アンケート結果をもとに話し合い、「不登校の増加」を重点課題とした。課題解決の方策について意見を交わす中、「地域による不登校支援ができないか。」との声が出る一方、「地域の立場で、不登校の児童に対する声の掛け方に不安がある。」との意見もあり、**熟議の結果、地域の大人が不登校支援について学ぶ場を設ける**こととなった。

◆地域・保護者・教職員等による学び「地域に開かれた校内研修」

令和5年8月、夏季休業期間中に、**地域・保護者・教職員を対象に、さまざまな児童に対する声の掛け方等を学ぶ講座を実施**した。講師に、所沢市教育センター指導主事と相談員を招き、不登校の実態を知り、児童への声の掛け方等、ロールプレイを通して具体的に学んだ。本講座には、民生委員・児童委員、放課後子供教室スタッフ等の地域住民や保護者が多く参加したが、実施前は受講者の見込み数が分からなかったため、**教職員の校内研修を地域に開く形式**とした。

◆学びを生かした「ふらっと(FLAT)サポーター」の立上げ

令和5年10月、第2回学校運営協議会にて、8月の**講座での学びを生かし、サポーター制度を立ち上げた**。「ふらっと(FLAT)サポーター」という名称には、子供とFLATな目線で支援してほしいという願いと、地域の方が散歩等の途中で、ふらっと学校に立ち寄りてほしいという思いを込めた。サポーターの人数も立上げ当時の20人から50人ほどに増え、不定期ではあるが、校舎内の見守りや、さまざまな児童の支援に当たる姿が見られるようになってきた。



成果・効果

- ◆サポーターが、不登校児童を直接支援するケースは稀であり、現時点で不登校の状況に大きな改善は見られないが、**地域の方が来校する機会が増え、休み時間等に地域の方と児童が関わり合い、ふれあう光景が見られる**ようになってきた。
- ◆学校運営協議会で地域行事の在り方等を熟議し、学校開放運営委員会（地域学校協働本部）で詳細を検討するサイクルが構築されつつあり、その過程で**団体や施設間の連携がスムーズになり、地域学校協働活動が、さらに充実**してきている。

R5 学校評価	学校運営協議会 制度の理解 (教職員)	地域人材との 積極的な連携 (教職員)
前期	76%	71%
後期	84%	92%

埼玉県小鹿野町

学校

小鹿野町立両神小学校

小鹿野町立小鹿野小学校、小鹿野町立長若小学校、
小鹿野町立三田川小学校、小鹿野町立小鹿野中学校

学校運営協議会

小鹿野町学校運営協議会

令和4年6月16日 設置

委員構成

学校応援コーディネーター
放課後子供教室コーディネーター
元PTA会長
PTA役員
民生委員
児童委員

など 20名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 20名(5名)

地域学校協働活動

両神小学校地域学校協働活動

学校と学校運営協議会、学校応援団等との有機的連携を通じた地域学校協働活動の一体的推進

背景・取組概要

- 小鹿野町は自然豊かで稲作体験など地域住民による子供たちへの**体験活動**が盛んである。また図書館や公民館など学校近くに社会教育施設があり、子供たちは地域の様々な行事に参加したり、地域の催事やイベントで学校が教育活動の発表をするなど、**学校と地域の結びつきが強い**。
- 小鹿野町の強みである「**地域と密接な町**」を活かす為に、学校運営協議会において、学校や学区の垣根を越え、小鹿野町として9年間一貫した教育を実施するための目指す児童生徒像や学校像について熟議を図り、**地域と共に歩む学校づくりを目指す中学校区の学校運営協議会**を設置。
- 『**めざす学校像、めざす児童像を地域で共有し、実現する地域学校協働活動**』を柱に掲げ、地域の子は地域で育てる教育環境を確立するため、より多くより幅広い地域の住民や団体・組織が有機的連携を通して小鹿野町の地域学校協働活動が一層充実することを目指した。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- 学校運営協議会を中心とした地域との連携**
本町では中学校区で学校運営協議会を設置している。協議会は小学校4校、中学校1校の学校関係者から組織されるが、自身の校区以外の教育活動については、どのような教育活動をしているか知らないこともあるため、十分な熟議を図るべく検討を重ね、学校運営協議会の流れを①「小鹿野町を目指す子供像・学校像を共通理解」、次に、①を受けて②「各学校の実践の共有」、②を受けて、③「各学校毎の取組について熟議」することで、「町が目指す姿に沿っているか」という視点での協議が可能となった。さらに、**各校で実践している教育活動を共有し、各学校の良さを自校に還元したり、地域学校協働活動を一層充実させる**為の方法についての熟議ができた。協議会を重ねるごとに学校運営協議会委員は「学校の代表」としてではなく、「小鹿野町の代表」としての参画意識をもって活動するようになった。
- 薬師堂マーケットの取組**
「**かつてにぎやかな縁日や市が立っていた薬師堂を再現することで自分たちの住む地域を活性化させたい**」という児童の思いに、明治大学商学部中川ゼミの賛同で実現に向けて準備が進められた。檀家、同町地域おこし協力隊、企業・農家、町役場の各課も全面協力した。児童が作成したオリジナルのキーホルダーやおみくじの他、地元企業も地域の特産品等を出品するなどし、**当日の参加者は200人を越え、盛大な催し**となった。薬師堂マーケットで得た売上金は、木製のベンチを作成するなど、薬師堂復興のために活用している。
- 両神山登山**
両神小学校の学区内には、埼玉県で唯一**日本百名山に選定されている両神山**がある。古くから山岳信仰の霊峰として知られるこの山には、以前は小鹿野高校、旧両神中学校の生徒が登山し、心と体を鍛え、郷土愛を育んできた。両神中学校が統合により閉校し、平成28年には両神小の5、6年生がはじめて両神山登山に挑戦。その後、コロナ禍の中断を経て令和4年に再開された。自然公園指導員や山岳救助隊員、小鹿野警察署、小鹿野町役場職員の協力のもと、児童の安全を確保しながら地元の名峰を登山することで、**郷土への誇りや愛着、地域とのつながりを深めることができる取組**である。



成果・効果

- 学校運営協議会において、「**小鹿野町が目指す子どもの姿や学校の姿を実現するための地域参画**」というテーマのもと年間を通して熟議を図ることができた。
- 小鹿野町立両神小学校では、埼玉県が実施した学習状況調査における「今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心をもっていますか」という質問項目に対し、**全ての学年が県の平均値を大きく上回った**。

	R4		R5	
	埼玉県	本校	埼玉県	本校
4年	75.5	66.7	64.9	84.6
5年	72.8	92.8	69.0	77.8
6年	63.5	100.0	76.2	100.0

埼玉県

学校

埼玉県立大宮工業高等学校

学校運営協議会

埼玉県立大宮工業高等学校 学校運営協議会

平成31年4月1日設置

委員構成

保護者・PTA関係者
地域自治会長
地域小学校長
地域中学校長
企業代表
大学教員
校長

など 10名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 0名(0名)
※マイスター・ハイスクールCEOを1名
配置し、学校と企業、地域等の
連携を強化

地域学校協働活動

大宮工業高等学校 地域学校協働活動

地域連携教育

背景・取組概要

- ◆目指す学校像「日本を支え 世界で活躍する 人間性豊かなエンジニアの育成」(全日制)、「心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校」(定時制)を掲げ、工業の高度な専門教育に加え、技術を利用する人へ配慮するエンジニアの育成を行っている。その一環として、地元地域と連携した「協働教育」の充実を目的とし、平成31年に学校運営協議会を設置。以後、**自校の教育活動の充実と地域の小中学生へのものづくりへの興味関心の育成を行っている。**
- ◆学校運営協議会設置当初より、工業教育の専門性を高めると共に地域との繋がり強化に資する委員でバランスよく構成して、工業高校の専門性を地域に還元している。更に、近年では、マイスター・ハイスクール事業を基軸とし、地域連携・専門性向上を強化した取組をしている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

マイスター・ハイスクール事業や創立100周年について、情報共有、見学の機会を設定した他、地域、企業、学校の連携の円滑化や生徒募集のアイデアについてグループ協議を行うなど、協議会の運営を工夫し、協議を充実させている。協議から、地域課題の解決に向けた取組(小学校の修繕)、学校説明会の新たなアイデアや生徒提案の「私服DAY」の取組がスタートするなど、課題解決や協議、協働活動を通して**地域との緩やかなネットワークを形成**している。

◆地域学校協働活動「地域連携教育活動」

「ものづくり教室」(平成25年から)に始まり、学校運営協議会の熟議や提案、コーディネートにより活動は発展・充実している。今年度は、「小学校チャレンジ・スクール」「3Dプリンタ教室」「プログラミング教室」「LEDイルミネーション教室」を開催。**毎年、多くの地域小学生が参加し、委員が見学・巡回を行い、取組の様子を共有するとともに、新たなアイデアが活動へと結びついている。**

また、「中高連携STREAMS教育プログラム」では、高校生がプログラム開発し、「ロボット設計図づくり」「自動停止ロボットのプログラム」を**高校生が中学生に教え、ロボット作成に取り組んでいる。これまでの大学との連携からさらに一歩進んだ取組**となっている。

それぞれの取組で、学校運営協議会委員が仲介をし、**児童館・公民館等とも連携し、地域の小中学生のものづくりへの興味関心を継続的に育て、地域とともにある学校づくりを行っている。**

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会で、地域課題について、共有・協議の結果から、地域の学校の修繕を通じた実践的な学びが行われている。また、マイスター・ハイスクールCEOのコーディネートにより、多数団体の協力を得て、地域、企業、大学等が参加する進路フェア(キャリアデザインアゴラ)を開催している。更に、委員申出で、地域の中学校生徒が参加するなど、ものづくりへの興味関心・キャリア教育を充実させている。



成果・効果

◆【学校関係者評価】

「地域小学校、中学校との交流事業、地域への働きかけ等を通じ、長年にわたり「地域に開かれた学校」に努められていると思います」との高い評価を得ている(R5)。

◆【豊かな人間性を備えたエンジニアの育成】

参加者から非常に高い評価を得ていると共に、地域の小中学生のものづくりへの興味関心を高めている。さらに、学校運営協議会設置の目的である**「協働教育」の充実は、地域連携教育活動の種類、回数が増えることで実現し、学校と地域で豊かな人間性を育んでいる。**

埼玉県戸田市

学校

戸田市立戸田南小学校

学校運営協議会

戸田南小学校学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

町会関係者
PTA関係者
学校応援コーディネーター
公共施設の代表

など 10名

会議回数

年間平均5～6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名 (0名)

地域コーディネーター 3名 (1名)

地域学校協働本部

南っ子サポーター

学校運営協議会をハブに家庭・地域が後押しをする学校における働き方改革

背景・取組概要

- 学習指導要領が求める新たな学びに向けた授業改善、子供たちの健やかな育ちを真剣に考え、働き方改革を最優先にとの考え方のもと、市を挙げて教育DXなど業務効率化を進めるとともに、校長としても様々な業務改善を推進してきた。
- 令和5年8月に中央教育審議会が教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）が発出されたが、市教委や学校主体で取り組めることにも限界が見えてきたところで、**保護者や地域住民、企業など社会全体が一丸となって課題に対応する必要**がある。
- 目指す学校像に「家庭・地域と一体となって子供を育てる学校」**を掲げ、「地域に開かれた学校」として地域との交流を重視することを宣言し、「学校の壁」を低くするとともに、できることは直ちに行うという考え方のもと、地域住民等が参加する学校運営協議会を核とした取組を進めてきた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校運営協議会委員には授業見学、学校行事への参加の案内等を含めて積極的に情報提供している。最近では**子供たちを交えた熟議の実施**や、**総合的な学習（PBL）の成果を学校運営協議会で発表**する場を設けるなど、子供たちの学習の成果や成長を見ていただく機会も設けている。

学校における働き方改革などセンシティブなテーマを取り扱う際には、**市教委任用のCSディレクターの派遣**を要請し、双方を取り持つ第三者的立場からファシリテートしてもらっている。また、学校における働き方改革に関するテーマは**教職員を交えた拡大大学校運営協議会での熟議の実施を含め、継続的に取り組む**など重点的に取り組んでいる。

◆地域学校協働活動

登下校の見守りをはじめ、運動会や音楽会等の学校行事の運営等について地域の方の支援を受けている。日々の**地域学校協働活動の様子は学校のSNSで発信**している。また、地域からの提案を契機に**校内に地域掲示板を設置し、町会や子ども会等からも地域の情報を発信**している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

持続可能性の確保や、現場のリアルな課題を吸い上げ、学校運営協議会で議論し実働へと円滑に繋がられるよう、**地域学校協働活動のコーディネーターの代表に学校運営協議会委員を委嘱**している。

成果・効果

- ◆学校・学校運営協議会委員等からの積極的な情報発信により、地域住民・保護者や関係機関等の理解と協力が得られやすくなっている。**学校運営協議会での議論を契機に新しい支援**に繋がったり、**多くの児童が子ども会の活動に参加するなど活発化**している。
- ◆学校と家庭・地域の相互理解促進・信頼関係の構築により、**学校運営協議会での本音の議論、取組の見直しやスクラップが可能**になっている。実際に、働き方改革をテーマとした熟議の結果を踏まえ、昨年度から入学当初の1年生の登校後や休み時間の見守りや給食準備、清掃などの生活支援を地域の方に依頼した。また、学校ボランティア募集のチラシや学校における働き方改革推進に係る手紙の町会回覧の実施、定時退勤weekの設定、留守番電話への切替え時間の見直し等も実現している。一方で、委員の声から校内に地域の情報を発信する掲示板を新設したり、地域の方が生き生きと活動する場を増やしたりすることにも繋がった。
- ◆令和5年度学校評価（教職員）では「**学校は、地域の教育力を教育活動に活用している。**」の項目で肯定的回答が**100%**であった。



千葉県

学校

千葉県立下総高等学校

学校運営協議会

下総高等学校学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

市教育長
市教育委員会職員
JA組合長
市商工会議所会頭
大学教員
専門学校校長
義務教育学校校長
農業法人代表
保護者
同窓会長
直売所理事
地元企業社員
市議会議員
校長 など 15名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働活動

下総高等学校地域学校協働活動

学校と地域が一体となって生徒を育てる

背景・取組概要

地域の中で子どもたちを育む取組を推進することにより、子どもたちの非認知能力を高め、よりよい人生を送るために必要な生きる力を育てる。子どもたちが地域で活動することにより、地域が元気になる。

工夫・ポイント・特徴的な取組

■学校運営協議会

年3回協議会を開催している。学校教育活動支援・地域連携推進・広報活動推進の3つの分科会を設け、分科会での話し合いを踏まえ、全体会での熟議を深めている。

【学校教育活動支援】

- ・3年生の進学・就職試験における**面接練習では、委員が面接官役となって指導**している。
- ・各学科代表生徒による課題研究発表会に出席してもらい、講評を委員にお願いしている。

【地域連携推進】

- ・地元印旛沼漁業協同組合の協力を得て、**園芸科では利根川の特定外来種（アメリカナマズ）を原料とした液肥の開発**を行い、レタスやメロンの栽培に使用し、成果を上げている。
- ・成田国際空港株式会社から第三滑走路造成工事に伴う、**伐採木チップの提供を受け、畑の被覆材等に利用しエコ野菜の栽培**に取り組んでいる。その収穫した野菜を成田国際空港株式会社の**社員食堂で『下総高校DAY』を設けて、食材として使用**してもらったり、園芸科生徒が自ら販売を行ったりしている。
- ・**3学科で隣地にある義務教育学校との交流**を積極的に行っている。
園芸科：生徒が小学生のさつまいもの植え付けや芋掘りの手助けをする。
自動車科：生徒が小学生のレスキューロボット作製の補助をする。
情報処理科：生徒が中学1年生のプログラミング学習の補助をする。



【広報活動推進】

- ・委員が**学校との橋渡しとなり、地元ショッピングモールでの学校紹介**を兼ねた3学科合同のイベントが実現した。
- ・**学校紹介のチラシ『小御門かわら版』を委員が企画・編集**を行い、中学校訪問等を通じて、直接中学生に手渡されるとともに、駅や市役所、公民館などに設置し、本校の教育活動について市民への発信源となっている。
- ・地元FMラジオ局「ラジオ成田」に生徒や職員が出演して、学校での取組を紹介している。
- ・中学校や外部での高校説明会等の機会に、生徒が自分たちの取組を発表している。

成果・効果

- 生徒たちは外部での発表会や学校説明会等では、積極的に自分たちの取組を発表し、**コミュニケーション能力や表現力の向上**が見られた。
- 小・中・特別支援学校との交流では、生徒がお兄さんお姉さん役となって手助けをすることで、**自己有用感が高まり、それが生徒たちの自信につながった。**
- これまでの教職員の丁寧な指導の積み重ねと、学校運営協議会委員の方による面接練習等で、進路決定率が高まった。
(令和3年度94.2%【導入前】、令和4年度98.9%、令和5年度100%)

千葉県柏市

学校

柏市立土南部小学校

学校運営協議会

土南部小学校運営協議会

令和2年6月 設置

委員構成

ふるさと協議会会長
 青少協会会長
 PTA会長
 主任児童委員
 元学校評議員
 青少年相談員
 学区中学校長
 小学校長

計 8 名

会議回数

年間4回程度

地域学校協働活動推進員等数
 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1 名
 (1 名)

地域学校協働本部

土南部小学校地域学校協働本部

～地域の力を学校に～ みんなでつくる楽しい学校

背景・取組概要

- ・柏市南部地域は従来より、ふるさと協議会や青少協等の地域団体のつながりが強く、「子どもたちのためなら」と、協力を得やすい土台があった。
- ・大切なのは「**地域の子どもを地域で育てる**」という**大人の意識**。
 学校はもちろん、家では保護者が、外では地域の大人が関わりながら、みんなで育てていくことで、子どもたちが「南部の子」として一体感を持ち、地域と共に9年間の義務教育を有意義に過ごし、胸を張って次のステップに向かえるようになってほしいと考えた。

⇒そこで、「**～地域の力を学校に～みんなでつくる楽しい学校**」を合言葉に協議を開始した。

工夫・ポイント・特徴的な取組



教職員への聞き取り

校長が主体となり、教職員へ「地域の人たちに手伝ってほしいこと」についてアンケートを実施。



アンケート結果を整理

「学校における働き方改革 特別部会資料」を参考に、

- ①基本的には学校以外が担うべき業務
- ②学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務
- ③教師の業務だが負担軽減が可能な業務 の3つに振り分け、委員へ共有し協議。
 ⇒「それは学校がやるべきことでは？」という忌憚のない意見もあった。



学校参観を実施

学校運営協議会で校内参観を実施。
 実際の学校現場を委員全員で確認・共有。



地域の力を学校に

学校として欲しい力と、地域の力を組み合わせ組織立て
 ①安全 ②環境 ③学習 ④生活 の4グループとした。



成果・効果

・登下校の安全対策、プリントやドリル等の丸付け、業間・昼休みの見守り、校内整備（花壇・除草等）、安全パトロール等、
学校に「地域」が入ることが、子どもたちにとっては日常となり、学校にとっては欠かせないものとなっている。

・昔遊びやミシン実習の補助等、**教育課程においても学校支援ボランティアとして多くの地域住民が参画。**
 近隣のコミュニティ・スクールと協働した稲作体験や、研修講師に地域人材を活用する等、社会に開かれた教育課程にもつながり始めている。

千葉県市川市

学校

市川市立第四中学校
市川市立中山小学校
市川市立若宮小学校

学校運営協議会

市川市立第四中学校学校運営協議会
市川市立中山小学校学校運営協議会
市川市立若宮小学校学校運営協議会

平成29年4月1日 設置

委員構成

- ・対象学校の地域住民。自治会・町会長、元PTA会長、近隣企業等
 - ・対象学校の保護者。主にPTA本部役員。
 - ・対象学校の運営に資する活動を行なう者。主に地域学校協働活動推進員。
 - ・学識経験を有する者。
 - ・対象学校の校長。
 - ・対象学校の教職員。
- など 最大15名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

- 第四中統括的な地域学校協働活動推進員1名(1名)
- 第四中地域学校協働活動推進員2名(0名)
- 中山小地域学校協働活動推進員2名(2名)
- 若宮小地域学校協働活動推進員2名(1名)

地域学校協働本部

第四中ブロック地域学校協働本部

家庭と学校と地域をつなぐ

背景・取組概要

【背景】

コミュニティ・スクール設置(平成29年)以前より、第四中ブロックでは、『9年間を通して子どもたちを育てる』を基本方針とした学校づくりを目指していた。その中で学校間の連携だけではなく、**地域とともに開かれた学校づくりを行い、地域と連携、地域と力を合わせる場としての学校**であることを目指している。

【取組概要】

- ①学校や地域の情報をまとめてカレンダーとして発信することで相互で「知る・つながる」ことができる『**コミュニティカレンダー**』の作成、発行をしている。
- ②第四中ブロックの様々な地域人材が集まり、学校のこと、地域のことについて、共有、熟議する場として『**地域とともにある学校づくり交流会**』を行っている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

①コミュニティカレンダー

平成30年7月から始め、『子どもに関心を持ち、子どもたちにとって良い環境をつくり、地域全体が暮らしやすく、地域の活性化につながるように』という願いを込めて作成、発行をしている。**令和6年7月で第20弾**となったが、この願いは変わらずに続いている。コロナ禍では、学校や地域の情報集めがなかなか進まず、発行ページが少なくなったこともあったが、現在では、内容も充実している。掲載している内容として、

- ・3か月分の四中ブロックの学校行事、地域行事、市川市の行事
 - ・ブロック内の学校の様子、児童生徒数、校長先生、教頭先生の名前
 - ・地域の公民館の行事、ベルマークなどボランティア募集、地域行事の詳細など
- 多くの情報が掲載されていて、全児童生徒の家庭、地域の自治会などに配付をし、「学校、地域の情報がよくわかり、カレンダーを毎回楽しみにしている。」という声もあり、**コミュニティカレンダーが地域に浸透している。**



②地域とともにある学校づくり交流会(含3校合同学校運営協議会)

令和元年度から『地域とともにある学校づくり交流会』という形でスタートした。第四中ブロック3校の合同学校運営協議会を兼ねて実施をしており、**学校運営協議会委員だけでなく、各校のボランティアの方々、公民館、教育委員会、地域学校協働活動推進員などが参加している。**

内容として、各学校の紹介や三校での取り組み、市川市少年センターから防犯や子どもからの相談に関する報告を行っている。

また、交流会では、子どもたちにとっての危険箇所や危険な行動について意見交換を行い、**地域全体で見守りを行うことなど確認した。地域の方々が見守りを行う際に、身元が分かりやすいように令和5年度にリストバンドを作成し、安心して子どもたちに声かけができるようにしている。**



成果・効果

○地域との連携として、コミュニティカレンダー、地域とともにある学校づくり交流会でお知らせしている**ボランティア活動の中での児童生徒の参加が顕著に多くなっている。**(市川市教育委員会が発行しているボランティア活動証明書の発行数で比較)

発行数推移：令和元年度1件⇒令和3年度16件⇒令和4年度23件⇒**令和5年度169件⇒令和6年度(9月現在)76件**

○市川市内全小・中学校を対象にした学校評価アンケートの結果(令和6年6月実施)

保護者質問⇒**学校は保護者や地域の方々と共に、子どもを育てる取組を進めていると思いますか。肯定的な評価(※注釈)が全体の83%**

児童生徒質問⇒**学校の活動で、地域の方たちと共に学ぶ機会がありますか。肯定的な評価(※注釈)が全体の55%(市44%)**

※肯定的な評価とは、4段階の評価の中で、4.そう思う3.ややそう思うを選択した者の割合

東京都杉並区

学校

杉並区立桃井第二小学校

学校運営協議会

桃井第二小学校学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
商店会会長、役員
弁護士
校長経験者
大学教員、元高等学校教員
青少年育成委員
会社経営者
杉並区スポーツ推進委員
12名

会議回数

年間平均10回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 2名(2名)

地域学校協働本部

桃井第二小学校支援本部ももにわ

地域の教育力を生かし、子供たちに豊かな教育活動を提供し、未来を担う人材を育成する。

背景・取組概要

◆これからの子供たちには、自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となる素地を育むことが求められている。

→これらの力をはぐむために、学校運営協議会と地域学校協働本部を中心に、広く地域の教育力を活用し、子供たちに豊かな教育活動を提供し、未来を担う人材を育成する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校運営協議会の運営は、ファシリテーターとなる委員が中心となって行っている。子供たちの思いを学校経営に生かすため、毎年委員と6年生との意見交換会を行っている。昨年度は、児童と委員が、それぞれにテーマを出し合い話し合いを進めた。委員からは「未来を考える」をテーマとして提案し、学校や地域がこれからどうあってほしいかという視点で話し合った。本年度は、「わが町荻窪とコラボして私たちができること」について、意見交換を行った。本取組は、6年生の総合的な学習の時間の活動につながった。

◆地域学校協働活動

校長の「児童の体を動かす機会を増やしたい」という考えに基づき、授業前の45分間校庭で遊ぶことができる「朝にわ」を実施。地域コーディネーターは、安全のための見守りをする地域のボランティアを探して依頼した。町会、民生委員、スポーツ団体の指導者など幅広い分野の方から協力を得られた。

見守りだけではなく、一緒に遊ぶことが多世代交流にもつながり、保護者や学校の先生方以外の大人が近くで見守ってくれていることを子どもたちも喜んでいる。

また、星空観察や夜の学校探検といった、子どもたちの心に残るような特別なイベントも、地域の方の協力のもと実施することができた。

学校運営協議会では、朝にわでの子供たちの様子や地域の方々の見守りについて報告を行い、改善点やより良い実施方法について意見交換を行い、実際の活動にも反映した。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働本部のメンバーが複数、学校運営協議会の委員としても活動しているため、連携はとても図りやすい。会議情報の共有や事業の依頼などもスムーズに行うことができた。「CS子どもと大人の交流プロジェクト」として、地域とのコラボレーションなどの意見も実現化のために学校運営協議会が相談して実施することができた。これからも子供たちとともに考え、ともに歩み、地域の方々と新たな繋がりにっていくように努めていきたい。



成果・効果

◆子供たちの意見を学校経営に生かしたいとの校長の要請を受け、学校運営協議会委員が話し合い、6年生との意見交流につながった。この意見交流会を実施することによって、子供たちに自分たちの考えが学校運営に生かされるという意識が育ち、よりよい学校を創っていかうという意識につながった。児童からは「地域の人と交流ができて楽しかった」という声があがり、委員からは、「子供たちと直接触れ合うことによって学校の実情を知ることができ、地域の役割を考えるための参考になった」との意見をもらった。委員に学校・地域コーディネーターが2名入っていることによって地域学校協働本部との連携がスムーズになっている。学校運営協議会の計画が地域学校協働本部の協力によって実践されるなど、地域で学校を支える仕組みが作られている。

◆令和5年度に実施した教育調査では、「子どもは、学校生活を楽しんでいる」の設問に対する保護者の肯定率が81.8%と、区平均(75.2%)よりも高い数値を示した。

東京都板橋区

学校

板橋区立緑小学校

学校運営協議会

緑小学校コミュニティ・スクール委員会

令和2年4月1日 設置

委員構成

PTA関係者
保護者
町会関係者
放課後児童クラブ関係者
青少年委員
地域学校協働活動推進員
グリーンボランティア
校長・副校長
など 11名

会議回数

年間5回

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員6名(2名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

緑小学校支援地域本部

ビオトープの設置と維持管理を軸とした子どもたちとともに考える環境教育の実践

背景・取組概要

○緑豊かな緑小学校の特徴を生かした環境教育をさらに推進するために、学校敷地内で自然を体験できる場所があることが望ましいと考え、校庭改修のタイミングでビオトープの設置を検討した。また、これをきっかけに子どもたちが地域住民との協働・対話を通じて、「課題発見・解決学習」を深めることをめざした。

→自然体験活動を軸に、地域一体となって環境教育に取組み、持続可能な社会の担い手を育成する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

○地域一体となったビオトープの設置・維持管理

◆コミュニティ・スクール委員会（CS委員会）

ビオトープの設置及び維持管理について、子どもたちが主体となって管理し、地域がそれをバックアップできる体制を構築するために、地域と学校がCS委員会でアイデアを出し合った。また子どもたちから、総合的な学習で作成した「ビオトープの未来図」の実現のため、CS委員会へ協力の依頼があり、その実現に向けて子どもたちと共に熟議を重ねた。さらに、ビオトープ設置後のCS委員会で「レッツビオトーク（ビオトープとLet's Talkをかけた造語）」の企画が発議された。「レッツビオトーク」は休み時間に子どもたちと地域住民、教員が集まり、生き物を観察するイベントで、自由参加にもかかわらず、現在まで月1回定期的な開催につながっている。

◆地域学校協働活動

ビオトープの維持管理や子どもの環境教育のさらなる推進のためにCS委員会に地域学校協働活動推進員2名が委員として出席している。協働活動の実働部隊として、地域住民にボランティアへの参加を呼びかけて、ビオトープで使用する腐葉土づくりや、周辺への植林、階段や橋の設置などの美化活動を継続的に調整している。また地域住民をゲストティーチャーとして招き、小学校周辺の環境に馴染むビオトープ作りやビオトープの発展に向けた学習にも寄与している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

子どもたちが親しみやすいビオトープにするために、CS委員会で熟議を重ねて出たアイデアを元に、地域学校協働活動推進員が地域の方々の協力を依頼して、知恵が多く詰まった取組を実施した。その例として、地域の木工クラブとともに、ビオトープの目印となる「看板」を子どもたちがイメージした絵を元に作成したり、陶芸クラブとともに多くの生き物が住むことができるような生き物の隠れ家となる筒（焼き物）作りを行った。また地域住民のボランティアによる協力の元、ビオトープの維持管理、環境保全活動や「レッツビオトーク」のイベントを継続的に行っており、ビオトープを通して自然とのつながりだけでなく、人と人とのつながりも育んでいる。

○ビオトープの取組から派生した「課題発見・解決学習」

令和4年度よりCS委員会での発案を元に、学校支援地域本部が通訳ボランティアを集めて実施している、「オンラインによる海外の小学校との交流授業」にて、子どもたちが自主的にビオトープの紹介をテーマとすることを決めて、発表した。
ビオトープを通じた環境学習で得た知識を元に、「生き物の楽園」をテーマにした第二ビオトープの設置について、子どもたちが主体となって地域住民の支援の元に取り組んでいる。



成果・効果

◆令和4年4月にビオトープが完成し、2年半にわたり地域住民の参画を得て、子どもたちと共に維持管理が継続的に行えている。また環境教育の場としての役割だけでなく、学校と地域をつなぐ取組として浸透している。

◆CS委員会と地域学校協働本部が両輪・協働で地域住民を巻き込んだ取組を実施する体制がより強固となった。ゲストティーチャーや学校支援ボランティアを招いた授業や、地域人材の人脈を生かした教育活動にもビオトープの取組が結びついている。

◆子どもたちはビオトープに「生き物のシェアハウス」と愛称を付けるとともに、5年生が学習発表会において全校生徒に向けビオトープについてまとめて報告し、4年生には管理について冊子にしたものを引き継ぐなど、持続可能な活動の担い手として活躍している。



東京都三鷹市

学校

連雀学園（三鷹市立第四小学校、第六小学校、南浦小学校、第一中学校）

学校運営協議会

連雀学園コミュニティ・スクール委員会

平成19年9月10日 指定

委員構成

校長・PTA関係者・保護者
地域学校協働活動推進員
地域コーディネーター
民生児童委員・青少年委員
学習サポート団体、放課後子
供教室、放課後児童クラブ関
係者
住民協議会・町会 など26名

会議回数

年間平均10回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 4名（3名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

連雀ジョイナス

連雀文化祭「笑顔満祭～連雀ジョイナスフェス」

背景・取組概要

連雀学園が目指す子ども像として「学び続ける人」「共に生きる人」「心と体を鍛える人」を掲げている。その目標に向けて、連雀学園の子どもたちにどんな力が必要か、どうすれば身についていくか、そのために学園・学校、家庭、地域がそれぞれどんなことができるのか、どんなことをしてみたいかを学校運営協議会において議論して進めた。その中から、**連雀学園の子どもたちに育てたい力として、令和5年度は「チャレンジする力」「協力する力」に重点を置く**とともに、地域学校協働本部において、**連雀学園の子どもに関わる地域の大人がつながる場づくり**を目指し、小・中学生が発表や作品展示できる場として、「笑顔満祭～連雀ジョイナスフェス」を開催した。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆コミュニティ・スクール委員会（学校運営協議会）（以下「CS委員会」という。）

連雀学園の教育目標で目指す**子ども像の共通理解を図る**ため、令和5年度は、「連雀学園の子どもたちに私たちが願うこと」をテーマに**CS委員と教員との熟議**を実施、その結果をまとめ、毎回の委員会ですらに議論を深めた。また、子どもたちに「学校で友達とやってみいたいこと」についてアンケートを実施し、分析した。

◆連雀ジョイナス（地域学校協働本部）

協議と活動がより一体的に行われるよう、令和4年度に地域学校協働本部として、**CS委員会委員を中心に**「連雀ジョイナス」を立ち上げた。また、学校と地域とのつなぎ役を担うスクール・コミュニティ推進員（地域学校協働活動推進員）を事務局長とし、CS委員会、学校、連雀ジョイナスの全体調整や地域団体等とのコーディネートのも更なる強化を図っている。子どもたちに育てたい力「チャレンジする力」「協力する力」が発揮できるような場づくりを目指すとともに、**事業実施を通して、既存の関係団体だけでなく、新たな地域団体や関係者とのつながりが構築された。**

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

CS委員会委員が連雀ジョイナスのメンバーの中心となることで、委員会での協議内容を反映しやすくなり、また、活動・取組の目的や具現化にあたっての課題をCS委員会での議論に反映することができ、**より深く一体化した議論につながっている。**また、委員にとっても、支援・活動が身近に感じられることで、学園の教育目標など全体の協議についても当事者意識が高まるとともに、より理解しやすくなり、協議全体が活発になっている。さらに、スクール・コミュニティ推進員（地域学校協働活動推進員）もCS委員会委員となっており、CS委員会と学園・学校の連携を強化している。

成果・効果

◆実施にあたり、**中学校生徒会とも打ち合わせを重ね**、また当日も小・中学生が発表や作品展示に参加（ステージ参加者約200人、作品展示約300点）するとともに、**中学生ボランティアが運営に携わるなど、子どもたちの「チャレンジする力」「協力する力」の醸成に寄与した。**

◆学園・学校に関わるさまざまな地域団体も展示や発表を行ったことで、**地域の相互理解**につながった。

◆事業実施を通して、連雀学園が目指す子ども像をCS委員会として改めて考えるきっかけとなり、**CS委員会での議論の中から、令和6年度から学園全体での新たな指針づくりにつながった。**



CS委員と教員との熟議



当日の様子



中学生ボランティアと一緒に準備する様子

神奈川県

学校

神奈川県立あおば支援学校

学校運営協議会

あおば支援学校学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

・学校長

・NPO代表理事

・地域学校協働活動推進員 2名

・保護者

・自治会長 2名

・大学教授

・福祉事業所職員

・企業関係者 ・行政関係者

・近隣小学校長

・医師

計13名

会議回数

年間平均 5 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 2名 (2名)

地域コーディネーター 1名 (0名)

地域学校協働本部

地域学校協働本部あおばまる

地域とともに歩み、地域に貢献する

背景・取組概要

・あおば支援学校は基本理念「思いを紡ぐ 優しいあおば」を掲げ、「一人ひとりの学びと確かな学びを支える」「**地域とともに歩み、地域に貢献する**」ことを柱に、認め合い、助け合い、支え合う共生社会の実現を図っていくことを目指している。

・令和2年コミュニティ・スクールとして開校、特別支援学校ならではのテーマ・課題にそった委員が学校運営に参画、創成期ならではの仕組みづくりや地域連携の基礎を築いた。翌年には地域学校協働活動推進員を任命し、子どもの豊かな体験と学びを実現するため、教職員一人ひとりに寄り添い、地域とつなぐコーディネートを行っている。さらに保護者会・卒業生の保護者との関係も良好で、学校を核に生涯にわたって地域とつながるプログラムづくり、場づくりを検討している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆熟議をいかした、学校運営と地域連携

夏季休業期間中に教職員の研修を兼ね、学校運営協議会を開催し、保護者、地域・行政関係者も参加し、拡大熟議を行っている。(令和6年度140名参加)

令和6年度は「**卒業後の生活について考えよう**」「**交通安全と防災について考えよう**」「**子どもたちに体験させたいことを考えよう**」というテーマを設定、若手教員がファシリテートし、グループに分かれ熟議を行った。まず初めに現状・課題について確認し、その後「すぐできること」「来年やること」「将来の夢」に整理、アクションプランを作成。最後にグループ発表しテーマごとにまとめ、全体共有している。

熟議で出された主な意見により、すぐに動きだすことも次年度の学校運営方針に盛り込むサイクルもできている。熟議を体験することにより、誰もが当事者としての意識が高まっている。

◆学校と地域をむすぶ「あおばまる（地域学校協働本部）」

1階玄関横のコミュニティルームが地域学校協働本部を兼ねており、日常的に人と情報をつなぐ交流の場である。教職員が気軽に相談できる関係が構築されており、農園での生徒の活動や外部講師を招いての音楽の授業が実現、児童生徒の体験の幅がひろがっている。地域学校協働活動推進員は教職員と丁寧に打ち合わせを行い、授業の目的を確認、地域の団体・人をつなぎ、当日の伴走支援を行っている。福祉とまちづくりという異なった強みを持つ推進員が、学校運営協議会の協議に基づきチームとして活動、教職員だけでなく保護者やボランティアからも信頼され、CSと地域学校協働活動の一体的推進の要になっている。

◆生涯にわたり地域とつながる仕組みづくり

特別支援学校卒業後を考え、在学中から地域とつながる体験を多くすること、卒業後も生涯学習の場として通いつづけたり、卒業生や保護者のつどう場が必要であり、そのための仕組みを整えている。

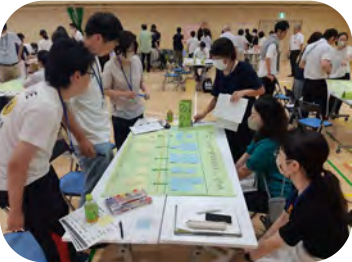
成果・効果

◆学校運営協議会とあおばまるが、保護者や教職員、地域との関係を構築することに大きな役割を果たしている。

◆熟議を経て、教職員の学校運営協議会と地域学校協働本部への理解が深まり、積極的に地域と連携協働するようになった。その結果開校当初から環境整備・学習支援・通学支援等多くのボランティアが活発に活動、連携する地域団体・大学・企業・行政等の数も著しく増えた。

◆スポーツフェスタの開催内容・時期を再検討、保護者・地域主体で運営できるよう学校運営協議会で協議を続けている。

	R3	R4	R5	R6
連携団体数	43	60	71	93
登録ボランティア数	15	33	73	94



新潟県

学校

新潟県立阿賀黎明高等学校

学校運営協議会

阿賀黎明高等学校学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

阿賀町教育長
地元企業代表
地元中学校長
社会教育委員
保護者・PTA関係者
など 6名
その他、会議には、地域コーディネーター、新潟県教育委員会、阿賀町教育委員会、地元支援団体など多数参加

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名（0 名）

地域コーディネーター 1 名（0 名）

地域学校協働本部

阿賀黎明高校魅力化プロジェクト

地域と協働し、地域を共につくる人材育成

背景・取組概要

新潟県の東端に位置する阿賀町は急激な人口減少、少子高齢化に直面している。その阿賀町にある唯一の高校として、地域の文化や自然を学びながら、地域が抱える課題に正面から向き合い、地域の人たちと協働して地域の活性化に主体的に取り組む人材育成を目指す。

→ 学校運営協議会が目指すこと

・地域と学校が協働する体制づくり

・生徒が主体的に地域について学び、地域課題について考える多様な教育活動の設定

工夫・ポイント・特徴的な取組

① 学校運営協議会
年3回開催し、6名の委員以外にも、教育委員会やPTA関係、様々な立場の地域の方々など総勢20名程度集まり、教育活動はもちろんのこと、生徒募集や生徒指導、進路指導など学校運営全般にわたって議論を重ねている。令和5年度はスクール・ポリシーの策定において中心的な役割を果たした。また、熟議は毎回テーマを決めてグループ討議形式で行っており、町の「阿賀黎明魅力化プロジェクト」や、高校の「総合的な探究の時間」や学校設定科目「地域学」の方向性に影響を与えるものとなっている。

② 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト
地域コーディネーターが中心となり、町営塾や寮のスタッフ、阿賀町教育委員会、阿賀黎明探究パートナーズ（地域住民等による生徒活動の伴走支援団体）など、生徒の活動を実際に担っている方々が集まり、生徒一人一人の様子や活動内容について情報共有、意見交換を毎月行っている。生徒指導の面において関係者間の連携を深めることができるとともに、様々な取組について議論を交わしながらより良い内容をつくり上げていく、大変効果の大きい組織体となっている。

③ 阿賀町さいこうプロジェクト
「総合的な探究の時間」で生徒が取り組む地域連携活動。地域と学校が協働して内容を考え、地域の有志による阿賀黎明探究パートナーズの方々が生徒と伴走しながら活動を行っていく。
1年生：「ちよこプロ」と称し、探究型学習のサイクルを繰り返し、問いの発見や実際の活動、振り返りを体験する。中でも、9月に実施する校外福祉体験では、高齢化率が高い阿賀町の現状と課題を直接知ることができ、2年生のプロジェクト実践へとつながっていく。
2年生：「あがまちゼミ」と称するプロジェクト実践を1年間かけて行う。自らの興味・関心と阿賀町の文化や課題を掛け合わせたプロジェクトを企画・実践し、そこに阿賀黎明探究パートナーズが伴走する。
3年生：2年生でのプロジェクトの発表や振り返り、まとめをとおして自己の生き方や進路について考えていく。



成果・効果

◆ 学校の様々な教育活動について、単なる「連携」から、地域と学校が「協働」して取り組む形ができた。

◆ プロジェクトの実践や発表において、生徒は地域の方々と主体的に、積極的に行動するようになり、それが学校行事など他の活動においても発揮されるようになった。

◆ 学校運営協議会が学校から地域側への働きかけの場ともなり、地域行事が学校行事と結びついたりこれまで以上に高校生が関わる機会が増え、地域活性化に資するものとなっている。

新潟県上越市

学校

中郷小学校・中郷中学校

学校運営協議会

さとまる学園CS委員会

平成24年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
行政職員
保護者・PTA関係者
民生児童委員
商工会（青年会）

など 17名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員名10名(3名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

中郷区さとまる学校

「自己有用感を合言葉に！」～地域と学校で連携した教育活動～

背景・取組概要

地域愛を感じ、将来地元を担う人材に育てるには、学校と地域のつながりが必要であると考えたことから、「自己有用感を合言葉に！」を指針に、地域、学校、行政で連携しながら、子どもたちと地域の人に関わる取組を行い、地域の子どもたちを地域で育てることに力を注いでいる。
→学校と地域で連携し、子どもたちが「自己有用感を高める」取組を実施する

工夫・ポイント・特徴的な取組

- 学校運営協議会（さとまる学園CS委員会）
「自己有用感を高める教育の推進」を、地域全体で共有しており、子どもたちが自身や友達を大切し、また地域を愛するような取組を大事にしている。学校運営協議会では、取組の一環として、地域の人にも参画する通学路の危険箇所の確認について協議しており、学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員、学校、行政等の協力のもと、子どもたちと地域の人と一緒に危険箇所の確認を行うフィールドワークが、毎年春に実施されている。
当地域の学校運営協議会は、地域学校協働活動推進員のほか、PTA会長、町内会長、民生委員・児童委員、まちづくり振興会、行政職員など、団体の役員や地域住民代表で構成されているため、多角的な視点で協議できるほか、協議された課題や学校が連携を希望する事柄に対して、即時に人材を動かし、学校を支援する体制ができています。
- 地域学校協働本部（中郷区さとまる学校）
学校運営協議会で出された課題の解決や学校が連携を希望する事柄の実現に向けて、企画・運営を行うほか、学校と地域間のコーディネーターを務め、地域住民の参画の呼びかけや講師派遣を行っている。町内会会員や企業、青年会、行政など、多くの組織・人が活動に参画しており、地域活動の中心となる人材が若いことが強みとなっている。
今年度のフィールドワークでは、地域への参画を呼びかけ、24の町内会から参加いただいたほか、当日の司会・運営を行い、地域の人と子どもたちの交流を図った。
- コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的実施
学校運営協議会委員の複数のメンバーが地域学校協働活動推進員を兼任しており、情報共有が図られているほか、多様な事業を学校運営協議会や地域学校協働本部、学校、行政で連携して取り組んでおり、活動の様子や課題について常に共有を図っている。



成果・効果

- 地域の人と関わりながら、自他や地域の安全のために活動することで、「自己有用感」を育み、自分を認める事と同時に他人を認めることの意識づけが子どもから大人までが出来るようになってきている。かわりあう力、支え合う力、認め合う力が増した。
- 地域、学校、行政との連携が円滑に行われていることにより、学校や地域のニーズに対し、スピード感を持って対応出来るようになった。また、参画する地域の人が所属する組織・団体が多様であるほか、若者が増えたことで、活動内容の幅が広がった。

新潟県長岡市

学校

長岡市立中之島中央小学校

学校運営協議会

中之島中央小学校学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員兼コミュニティ・スクールディレクター
保護者・PTA関係者
民生児童委員
安全ボランティア
コミュニティーセンター長
保育園・こども園長
学習ボランティア
学校長

計10名

会議回数

年間4回

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名(1名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部

中之島中学校区
地域学校協働本部

地域の力を学校の力に 学校の力を地域の力に

背景・取組概要

◆当校の強みは、学校運営協議会委員の発想力と行動力にある。中之島地域は、歴史、文化、環境、人材などの教育資源に恵まれており、日頃から委員と教職員とが連携・協力し、様々なリソースを創意と工夫で学びに変え、子供たちの成長の一助としている。

→**学校と地域が連携・協働し、子供たちと地域の方の幸せを創る。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

教育目標の達成と教育活動の充実のために、年4回行っている。第1回目の主な内容は、○学校経営方針の理解、○地域との連携の在り方、などであった。

◆教職員との連携

①「CSD（ディレクター）とのミーティング」

CSDの席を職員室内に常時設置するとともにCSDの不在時には地域連携担当職員等と情報交換ができるように「CSD依頼ノート」を作成し、**学校と地域のニーズを踏まえた授業プランニング**を行っている。その結果、児童が地域の活動（緑化活動、大風合戦、産業まつりのイベントなど）に積極的に参加する機会が増え、**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進**が図られている。

②「中之島の宝を語る会」

学年主任が委員である地域住民に対して、**地域素材を基にした総合や生活科の学習構想や地域の方への願い等を発表**する。その後、**熟議をし、教職員と委員で単元づくり**を行うことで単元構想が充実し、**社会に開かれた教育課程の実現**につながっている。

③「地域巡検」

教職員が地域を知り、地域に学ぶため、委員のガイドで夏季休業中に地域巡検を実施した。教職員の異動が多かった今年度は、**「地域の人・もの・こと」からその素晴らしさや価値を発見**することができ、授業づくりに大変有効だった。

◆教育環境の整備

地域学校協働本部の複数のメンバーが中心となり、**3年がかりで学校林（元気森）を整備**し、子どもたちの遊び場や学習の場として活用されている。



成果・効果

◆学校での地域学習（防災学習・伝統文化・農業体験）では、教科としてのねらいに沿うだけでなく、地域のニーズにも応える形で単元を構成しており、**学校と地域がパートナーとして、様々な活動が進められる**ようになってきている。

◆**学校や地域への愛着に関する肯定的な回答**が子供・保護者ともに**90%を超えて**おり、休日に行う地域貢献活動（ボランティア）に自主的に参加する児童が増えるなど**子供が地域に主体的に関わっている**姿が多く見られるようになった。

指 標

学校や地域が好きだ（肯定的な回答）

	子供	保護者
R 5	93 %	94 %
R 6	93 %	93 %

石川県野々市市

学校

野々市市立館野小学校

学校運営協議会

館野小学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

保護者・PTA関係者
民生委員
家庭教育サポーター
大学教授
保育園園長
学校関係者（校長・教頭）
7名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名（0名）

地域コーディネーター 1名（0名）

地域学校協働本部

野々市市地域学校協働本部

学校にかかわるすべての人々のウェルビーイングの実現に向け

背景・取組概要

◎ 子供は地域の宝であり、将来、地域を担う子供達をどのように育てていくのか、館野小学校にかかわるすべて人々が、共通の目標・ビジョンを持ち、一体となって子供達を育てていくことは、**子供の豊かな育ちを確保するとともに、地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていく**ために必要なことであった。

◎ 住民が地域学校協働活動を通して「子供の教育に関する当事者」になり、子供も大人も共に、学び合い、成長できる取組である。

学校にかかわるすべての人々が、様々な活動を通して子供達の成長や笑顔にふれ、ウェルビーイングの実現につなげる。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

「地域から愛される学校づくり」「教職員の多忙化」「自己肯定感の向上」などをテーマに**熟議を開催**している。解決に向け、地域が子どもに積極的にかかわることが重要であり、**地域人材を活かした体験活動や地域での挨拶運動の徹底、学習支援ボランティアの活用が確認した。**

◆地域学校協働活動

地元、**和菓子店と協働で、子供のアイデアを活かした最中を新規開発**し、バザーや店頭で販売をした。また、野々市市教育委員会では、**家庭教育や学校・地域社会に貢献する活動に取り組む企業等を登録する制度「野々市市学校・家庭・地域応援企業」**に登録した企業が、ミシンがけ支援や学校の駐車場の白線ひきを実施した。

◆社会教育主事経験者のノウハウ

地域学校協働活動推進員と学校長は、それぞれ**市や県の元社会教育主事の経験を活かし、マネジメント能力・ファシリテート能力・コーディネート能力を発揮し、地域や学校の課題解決を図る**とともに、公民館と連携し作品交換し、相互に展示会を開催したり、外部人材を積極的活用を図った。

◆学習支援活動

・学校が長期休業中（春・夏・冬）の年3回、**地域の公民館を活用し、学習支援ボランティアによる「公民館算数自習室」**の開催や、**学校でつまずきのある子供達への学習支援を実施している。**

・**海外生活が長く、日本語が苦手な子供へ、地域在住の外国人が日本語を支援している。**

成果・効果

<指標1> **学校に来ることが楽しくなるように組織的に対応している**【子供・保護者】
※外部人材の積極的に活用し、体験活動を充実させた。

<指標2> **自分には良いところがある**【子供】
※様々な体験を通して達成感の高まりや地域活動を通し地域からも認められた。

<指標3> **時間外勤務時間の変化 46.9 h (R3) → 40.3 h (R5)**
学習支援ボランティア等を導入後、時間外勤務時間が年平均14%減少した。

	指標1（楽しい）		指標2(自己肯定感)
	子 供	保護者	子 供
R3	85.2%	86.7%	80.0%
R6	90.5%	93.3%	91.2 %

※R3とR6前期の学校評価アンケートでのAB評価の比較



企業による駐車場の白線ひき



開発した最中の試食



公民館で学習支援

石川県能美市

学校

能美市立寺井中学校

学校運営協議会

寺井中学校学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

C Sディレクター（元 P T A 会長）
地元企業の役員3名
女性協議会地区会長
同窓会理事
八幡神社氏子総代
P T A 会長
学校職員 3 名 など 計 1 1 名

会議回数

年間平均 4 回程度

地域学校協働活動推進員等数 () は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名（0 名）

地域コーディネーター 1 名（1 名）
（CSディレクターが兼任）

地域学校協働本部

のみスク寺井

「自立した生徒の育成をめざした学校・家庭・地域の連携」

背景・取組概要

◆地域や社会と関わりながら、自ら未来を切り拓く子供を育てるために、自立した子供の育成を学校と協働している。子どもが、まず地域の多様な大人と関わる中で地域のよさを再発見し、身近な大人の考えや生き方を学ぶ機会を通して、自ら気づき、深く考え、行動し、あきらめずにやり遂げるという自立心を高めることをめざして、取組を行っている。

⇒**自立した生徒を育てるために、学校・家庭・地域との協力体制の足掛かりを目指す**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・年3回と臨時的に1回、委員と学校職員と情報交換を行って、子供の自立心を高めるために、学校運営協議会ではどんな活動したらよいかと意見交流している。
- ・毎年行われている体験学習講座の実施に当たって、将来においてつきたい力について考え、講座の内容を検討している。職場体験では、受入れ事業所と学校とのつなぎを行い、より多くの方々が地域の子供達を理解するよう広めている。その他、学校の課題や困り感を聞き、学校が必要な教育活動に地域人材を派遣して、学びの充実に向けた活動も行っている。



◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- ・体験学習講座・・・**令和6年度も25講座開催**した。将来の職業を考える機会と地域理解につながるよう、地域の企業、事業所や人材を学校とともに検討し、依頼した。九谷焼の伝統工芸士や和菓子職人、建設業界のドローン体験など幅広く体験できた。3年間でいろいろな体験をすることで、将来を描くことができることを期待している。
- ・職場体験・・・・・・コロナ禍で受入れを辞退された事業所もあり、学校とともに受け入れ先の見直しを行った。委員から新たな事業所に働きかけて依頼し、子供達の教育環境の充実に努めた。
- ・学びの充実・・・子供達にとってコロナ禍で学習体験が少なく、実習的な学習の定着に課題が見られる面があった。特に家庭科の実習面で課題が見られたので、地域人材を授業サポートとして依頼した。**「のみスク寺井」のネットワーク**を基盤に地域の方々に声をかけ、参加いただいた。手縫いと裁縫の実習において延べ30人程の地域人材がサポートを行い、アドバイスをしながら、技術の向上に努めた。また郷土に伝わる「笹寿司づくり」も地域の方に依頼して体験することができた。

成果・効果

- ・地域の方が学校の中で子供達と接する機会が増えたことで、地域においても子供から挨拶する姿が見られるようになってきた。アンケート結果からも地域の中の一員という気持ちが向上している。子供達も学校生活においても自発的な活動が増えてきた。
- ・体験活動講座は、協議会委員のつながりでいろいろな人材に依頼し、多様な講座を開くことができた。将来の職業について考える機会になった。
- ・地域住民も同じ目標や課題の向かって協働活動に取り組むことを通して、一体感が深まり、新たな地域づくりができています。

* 地域の方を通して地域にどんな気持ちを持ちましたか？（複数回答 計232名）
 ・地域に興味を持った・・・・・・・・61.6%
 ・地域の方と知り合いになった・・・28.9%
 ・地域行事に参加したい・・・・・・34.1%
 ・地域をもっと学びたい・・・・・・30.2%

山梨県甲斐市

学校

甲斐市立双葉西小学校

学校運営協議会

双葉西小学校学校運営協議会

平成24年4月1日 設置

委員構成

山梨大学教授
 青少年育成双葉地区民会議
 民生児童委員
 おやじの会
 ふたすけおはなし隊えがお
 学校支援地域会議から（学習
 支援部・体験活動支援部・安
 全支援部・子育て支援部・環境
 整備部・広報部）
 地域コーディネーター
 現旧PTA役員
 学校教職員 計20名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働活動

双葉西小学校地域学校協働活動

地域とつむぐ授業～米作りを通して考えよう～

背景・取組概要

本校では学校応援団や保護者・地域住民の協力で、地域とつむぐ授業に取り組んでいる。年間のべ500名以上の方にお世話になり、本物に触れ、地域への愛着心を育む活動となっている。中でも生活科、総合的な学習の時間として1年生からさつまいも、ジャガイモ、大豆、大根等を栽培し、その集大成が5年生の米作りとなっている。その米作りは地域の有志の厚い指導のもと、籾蒔き、田植え、稲刈り、脱穀、精米と一通りの米作り体験活動を行っている。かつて学校の周囲にも多くの田があったが、近年の地域開発や住宅建設で、年々その数は減ってきている。地域の産業として支え続けた農業について課題意識を持たせるため、当該学年で学習中の米作りを取り上げ、米作りについて把握する。その後、米作りについて資料を集め、課題を見出し、その課題を自分事として捉え、今後の米作りが活性化するよう今の自分にできることは何かを考える。アドバイザーとして地域の各専門家を招聘し、各グループごとの仮説を検証し、発表会を行う。

工夫・ポイント・特徴的な取組

「米作りを通して考えよう」

- ・学校応援団の指導の下、籾撒きから精米まで実際に米作り体験を行う。
- ・地域の米作りの課題に向き合い、今の自分たちができることを考え提案する。
- ・グループごと地域のアドバイザーから助言を受け、実現可能な解決方法（仮説）を考える。
 ①農家 ②農業事務所 ③お米マイスター（保護者） ④U T Y（テレビ山梨）
- ・J Aの職員を審査員として米作りを盛んにするための発表会を行い、講評してもらう。



米粉を使った料理



未来の農業散布機模型制作



地域の米CM作り



農業体験

米の種別比較試食会



成果・効果

- ・生活の中からみつけた課題の解決を探る中で、農業や食育についての関心が高まった。
- ・学習していることが実際の社会生活に関わりを持ち、価値ある取組につながる充実感を味わった。
- ・地域学校協働活動として専門の大人の力を借りることで、より生きた実践・本格的な体験へとつながることができた。
- ・地域のために今の自分たちができることを真剣に考えることで、地域への愛着心がより深まった
- ・地域の良さを確認し、世代を超えてともに良い地域づくりを継続していく心構えが持てた。

山梨県

学校

山梨県立笛吹高等学校

学校運営協議会

笛吹高等学校学校運営協議会

令和5年4月17日 設置

委員構成

地域代表
PTA会長
同窓会長
山梨大学大学院教授
山梨学院短期大教授
笛吹市教育長
笛吹市総合政策部部長
笛吹農業協同組合
山梨県建設業協会
笛吹青年会議所
石和温泉旅館協同組合
笛吹市立石和中学校校長
笛吹市立石和南小学校校長
笛吹高校校長・教務主任

会議回数

全体会は年間3回

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター1名(0名)

地域学校協働活動

探究授業のカリキュラム開発
における活動

社会に開かれた教育課程の実現に向けて

背景・取組概要

- ①笛吹市唯一の高校で、「生涯を通じて生きる力の基礎となる『主体的に学ぶ力』を育て、地域に根ざし、地域に貢献し、地域のリーダーとなる人材を育成する」ことを目指している。学校のはじまりは明治28年に遡り、今日まで129年の歴史がある。この間、校名変更、2校への分離、再統合などを経て笛吹高校としては15年目となる。現在は普通科・食品化学科・果樹園芸科・総合学科（4系列5コース）の総合制高校である。学校の教育目標の実現には地域に開かれた教育課程を推進し、市域との連携を強化することが必須である。
- ②探究を軸とする地域課題解決型の授業を特色とする本校にとって、地域連携の充実がカリキュラムの鍵となる。3学科8クラス規模の生徒がそれぞれ地域の多様な主体と協働する教育活動を推進する体制の構築が必要であり、地域学校協働活動の推進が必須であった。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- 学校運営協議会の部会での課題解決
地域連携チーム：各教科・探究活動での地域連携の検討・支援
評価検証チーム：学校評価にかかわる検討・検証
広報チーム：笛吹高等学校の特色づくりの検討・広報活動
生徒育成チーム：生徒育成にかかわる検討・研修会の実施
- 「笛吹高等学校 学校運営協議会必携」の作成
学校運営協議会委員に「笛吹CS必携」を配布して、学校運営協議会の意味、笛吹高等学校のスクールミッションや教育目標、年間行事などを共有する。厚紙カラーA4版16ページ。内容は、山梨県学校教育指導指針・学校運営協議会の概要・笛吹高等学校グランドデザイン・令和6年度具体的取組事項・学校運営協議会委員・組織図等・課題の整理・各チームの取組・年間計画など。
- 小中学校との継続的交流
中学校「総合的な学習の時間」へ生徒・教員の参加、小中学校との合同研修会の実施、本校校内研修会に小中学校の教員を招待、キャリアパスポートの利用についての検討会、「服のカプロジェクト」などで小中学校での高校生のプレゼンテーション授業。陸上部、ラグビー部、野球部、すいれき太鼓部など部活動での生徒間交流を、地域の教育委員会と連携し、継続的に実施。
- 高校生世界農業遺産サミットの開催
山梨県峡東地域の果樹農業システムが世界農業遺産に選ばれたことから、本校で「高校生 世界農業遺産サミット」を開催、令和5年度は県内5校で、令和6年度は全国の高校生参加のもと、各自が探究していることについて小グループで発表しあい、意見交換する時間と、世界農業遺産の価値、活用方法、高校生にできることの意見交換、発表をする。令和7年度は海外の高校生の参加も計画している。
- 生徒が育てた地域の特産品であるシャインマスカットを台湾に輸出、販売して農業経営全般について学ぶ教育の推進。
- カーバリアーの設置で登下校の安全確保：地域との要望も有り、自転車置き場から通学路の間にカーバリアーを設置しヒヤリハットを解消。
- 保護者による、中学校の保護者への学校説明会の実施：本校保護者が中学生の保護者に対して学校説明をする。
- 学校評価の評価項目の検討と改善：改善案として定量的な表現への変更。



成果・効果

- ◆部会（4つのチーム）を組織し、課題ごとに熟議を行うことで、迅速かつ柔軟に課題解決に対応できる。また、高校に対する意見や要望が話しやすくなり、地域の意見が反映されやすくなった。
- ◆教科横断型のSTEAM教育「笛吹グローバル」や「総合的な探究の時間」を通じて、継続的な地域連携をしており、年間で100人を超える外部人材と連携している。また、交流型やワークショップ型の講演会、生徒が現地を訪問してのインタビューやプロトタイプ作成等の体験活動の充実が実現した。地域の大人や小中学生など異年齢の人との交流が、高校生の学習意欲や主体性の向上につながった。
- ◆学校運営協議会必携を作成することで、新任の委員を含む全委員が年間の役割を理解し、積極的に関わることが可能となった。また、学校のグランドデザインが確実に共有されたことで、高校生のキャリア形成のサポートや、長期ビジョンに向けての支援を受けることができた。

長野県高森町

学校

高森町立高森南小学校
高森町立高森北小学校
高森町立高森中学校

学校運営協議会

高森町小中学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

地域コーディネーター
学校・保護者・PTA関係者
農業経営者
商工会代表
区長会代表
教育長、教育長職務代理
教育委員
社会教育委員
民生児童委員
など 20名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名

地域コーディネーター 7名(2名)

地域学校協働本部

高森町CS地域学校協働本部

高森町全体で高森の子どもを育てていく

背景・取組概要

- ◆学校と保護者及び地域住民等との信頼関係を深め、地域の創意工夫を生かした、よりよい教育の実現に取り組むために、高森町小中学校運営協議会を設置した。**それぞれの学校の子どもの様子や地域学校協働活動の様子を共有し、目指す子どもの姿実現のためにできることについて考え、行動できる**ようにする必要があった。
- ➔高森町全体で高森の子どもを育てていく

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・町内の小中学校がその運営に関して相互に密接な連携を図るため、**町内3つの学校についてそれぞれ一つの運営協議会を置き、さらに町として一つの運営協議会を置いている**。年4回の会議で、各学校で特に大切にしていきたいことや、様々な教育課題（不登校、子どもの居場所、子どもの自己肯定感や自己有用感の向上、目指す子ども像実現のための具体的方策等）について協議している。また、子どもたちの姿から協働活動を振り返り、今後の方向について協議している。



◆地域学校協働活動

- ・町内3校それぞれのコミュニティ・スクールで年間の学習計画が作成され、学習テーマ、地域との連携・協働の具体や育んでいきたい力などを**見える化**している。**地域ボランティア**は高森町小中学校運営協議会の**地域コーディネーターが組織化し、どの学校にも行ける**ようになっている。約120名登録。**学校支援ボランティア総会・研修会**を行い、文科省CSマイスターなどを講師に迎え、支援から協働へと進めるように**学び合っている**。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- ・**地域ボランティアの複数のメンバーが学校運営協議会委員**となっており、**協議内容を具現化**していく活動が行われている。

【春休み子どもカフェ】

学校運営協議会にて議論されてきた、**子どもの居場所づくりについて、具体的に取り組んだ**活動。子ども達どうし・地域と子どもたちの**関係づくり**も目的の一つとし、町の福祉センターや区民会館など、町内4カ所を会場として、小学生を対象に、宿題サポート、遊び、食事の提供を行った。社会教育委員、地域ボランティア、中学生・高校生・大学生の学生ボランティアがスタッフとして運営した。今後は、**地域が家庭や子どもたちの様子を知り、地域全体で支えていく機運を創り出す**ことにつなげていきたいと考えている。



成果・効果

- ◆学校運営協議会の振り返りの議論の中で、地域学校協働活動のひとつである「みらい懇談会」と「高森の時間（総合的な学習の時間）」を通して、**追究力や発表力の向上**が見られ、学習の達成感が**子どもの自信**につながっているという指摘があった。令和5年度アンケートによると、中学校では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」について肯定的な回答が**73.9%から94.0%に上昇**、「自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいたか」について**73.9%から95.2%に上昇**。また、「学習を通じて、地域や社会を良くするために何かしてみたいと思うか」について**59.1%から89.2%に上昇**した。
- ◆学校運営協議会にて議論されている不登校児童生徒への支援が**具体的（教育支援センターの設置）になり**、そこでの活動を通して元気になっていく児童が増えた。

岐阜県郡上市

学校

郡上市立大中小学校

学校運営協議会

大中小学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

地域自治会長
公民館役員
地域保育園園長
社会教育学識経験者
地域コーディネーター
PTA会長
など 10名

会議回数

年間平均8回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 8名(4名)

地域学校協働本部

おおなかつよし

できることで、ゆるく、楽しく、つながる「おおなかつよし」

背景・取組概要

学校教育目標「ふるさとを愛し、未来を拓く子へ進んで学ぶ 仲よくする やりぬく」の具現に向けて、子どもを未来と考え、「持続可能な地域のために、将来ここにいなくても、ふるさと大中を想うことができる人になってほしい。」という願いのもと、活動を展開している。

特に、「おおなかつよし」では、子どもたちと大人、また大人同士が出会う場や機会を設定し、子どもたちが地域の人やその思いに触れる協働的な学びを実施することで、地域のよさを知り、ふるさとを大切に想い、ふるさとや地域の人のために自分たちでできることを考えて行動することができる。また、そうした活動を通して大人や子どもが出会い、顔見知りになり、地域のつながりが広がっていくことを目指している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

〈ゆるいつながり〉



「**できることで」「できる人で」「できる時に」**というスタンスの活動を継続することで、無理のない取組を実施している。



「楽しかった」「学校に行ってもいいんだ」から、**「次も」「仲間を誘って」**と、内容や人が広がるよう活動を継続している。

学校運営協議会の会議だけでなく、**各活動に応じたグループで自主的に声をかけ合って打ち合わせ**を行い、思いや願いを交流し、活動の具体について相談している。活動に応じたメンバーで協議することで、ねらいや計画を共有している。

〈ゆるいつながりによる季節感ある取組〉



生活科や総合的な学習の時間における継続的な取組の中で、**「子どもたちに季節を感じてほしい」「こんな体験をさせたい」という地域の方の願い**を受け、その実現に向けて協議し、実現可能な形で実施している。
(焼き芋作り、田植え、昔の遊び体験、神楽の伝承、野菜作り、郷土料理作り、コンポストの活用など)

〈地域貢献活動としての公民館活動への参画〉

学校運営協議会メンバーによる公民館行事への協力の呼びかけに応え、夏祭りなどの催しを提案し、その準備を行い、行事当日も運営を体験することで、**地域に貢献していることが実感できる活動**を実施した。



成果・効果

- **学校と地域が一体となって子どもたちを育てようという意識**が高まっており、学校からの相談だけでなく、地域からの子どもの学習・活動への提案が増え、実現している。
- 全校児童に実施したアンケートでは、「地域のよさを感じたり、地域を大切に想っている」と回答した児童が、R6には97%になった。また、「地域の人から学ぶ学習は、楽しい・ためになる」と回答した児童は、99%に達している。
- **人のつながりが広がり、活動や学びの中身も広がり、発展**している。また、継続していることで、子どもたちと大人、大人同士が顔見知りとなり、ともに活動する楽しさや喜びに繋がっている。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合(%)
(全国学力・学習状況調査 質問紙調査 番号25)

R4	R5	R6
60.0	89.5	93.8

岐阜県下呂市

学校

下呂市立下呂中学校
下呂市立下呂小学校

学校運営協議会

下呂小中学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
自治会連合会長
主任児童委員
青少年育成推進員
社会教育委員
PTA会長
学校職員
学識経験者
社会教育主事 など 25名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 3名 (3名)

地域コーディネーター 2名 (2名)

地域学校協働本部
下呂小中地域学校協働本部
(チームねやこねり)

寝屋子学習

背景・取組概要

- ◆ 学校目標「ひとり歩きできる子」の具現に向け、地域と学校の願いを共有してそれぞれの強みを生かすことで、学校運営協議会が主体となって、年間を通した職場体験学習を地域が担うことができないか考えた。

→これまでの職場体験に、地域の願い（下呂の担い手を地域で育てる）を込めて、地域・学校・家庭が連携・協働して「下呂の担い手」を育てていく「寝屋子学習」の実施

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆ 寝屋子学習とは
 - ・中学生が働くことを通して、地域の大人と1対1で繋がり、地域に魅力を感じる。
 - ・1年を通してお互いの都合の合う時間に、その時に出来ることを取り組む。
 - ・共に働き、共に語り、子どもも大人も学び、気付きを得る。
 - ◆ チームねやこねり
 - ・地域学校協働活動推進員が中心となり、受け入れ事業所の有志と学校職員が集い、寝屋子学習がより良い活動になるように推進していく。（年間2～3回実施）
 - ・ねやこねりを通して検討された活動として、寝屋子と寝屋親との対面式的実施、事業所とのマッチング、寝屋子学習発表会、事業所登録制度の導入、寝屋親への行事の招待についての検討等。
 - ◆ 願いの共有と役割の明確化
 - ・地域の願い・・・人口減少、地域の担い手不足が深刻。地域を活性化したい。
 - ・学校の願い・・・ひとり歩きできる子。地域の資源を活用して多様な他者との中で子どもたちを育てたい。
- 地域**では、豊富な人材を活用できるようチームねやこねりが受け入れ先を探し、子どもたちが地域に出て学びを体験することで、地域の活性化につながる。また、**学校**では、寝屋子学習や成果発表会、寝屋親の行事の参観などを通して、地域とのつながりが深まったり、多様な他者との学びから子どもたちのひとり歩きにつながりたりすることができる。**家庭**では、寝屋子学習でのわが子の姿を話題にして、地域とのつながりについて考えを深めることができる。



成果・効果

寝屋子（生徒）の感想から

- ・学校では得られない経験をすることができ、**コミュニケーション能力が向上**した。また、得意なことをさらに伸ばすことの重要性や、今の自分にできることを考えるきっかけになった。**自己有用感が高まり、自分の成長に喜び**を見出した。

寝屋親（事業所）の感想から

- ・生徒の取り組む姿勢は非常に真摯で積極的で一生懸命であった。楽しみながら学ぶ姿は非常に好感がもてた。コミュニケーション力が高く、質問を積極的にするなど、学びたい気持ちが強く感じられた。彼らの素直さと熱意は、**寝屋親である地域の大人たちの学びにもつながり、元氣と活力をもらった。**

愛知県瀬戸市

学校

瀬戸市立長根小学校

学校運営協議会

長根小学校学校運営協議会

平成31年4月1日 設置

委員構成

地域連携担当教職員
（教務主任、事務職員）
地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
自治会関係者
公民館関係者
地区社会福祉協議会関係者
高等学校校長
など 11名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
（ ）は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名（2名）

地域学校協働本部
地域学校協働本部
「長根っ子サポートステーション」

学校・家庭・地域でつくる持続可能なコミュニティ・スクール

背景・取組概要

◆「子供たちの自己肯定感や学習意欲の向上」、「保護者や地域住民、教職員等の子供を取り巻く全ての主体のやりがいの創出」、「持続性のある関係づくり」、「信頼関係の深化」を目指した。そのために、多面的な仕組みを整え、教育活動の中で多世代の地域住民と子供たち一人一人のふれあいの機会を継続的に設ける必要があった。

→ 子供たちの自己肯定感を育み、地域住民や教職員の当事者意識に働きかけ、ウェルビーイングな教育環境づくりを目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

不登校等の問題から、子供たちの主体性や学習意欲について、年に3回開催する協議会において意見交換を行っている。学校経営の重点項目である○主体的・対話的で深い学びの実現、○自他肯定の姿勢の醸成、○さわやかな挨拶の励行（地域学校協働活動・CSの発展）を共有し、「相互の声かけや挨拶」を大切にしている地域であることから、教育活動への地域の参画を提案した。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員は、学校からの「プリントの丸付けに地域の参画を得たい」との声を受け、教室で行われる身近なふれあいは、相互の信頼関係を深める機会になると考え、募集や声かけ、シフト割等を調整し「ねこ丸隊」と名付けた活動が実現した。週1回始業前10分間に定期的に行われる「ねこ丸隊」の活動は、子供たちの学習意欲を引き出し、皆の笑顔につながっている。

また、家庭科サポーター、校外学習引率サポーター、図書室サポーター、保健室サポーター等を募り「できる人が、できるときに、できることを」をスローガンとして持続可能な関わり方に取り組んでいる。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働活動推進員は地域と学校の連絡調整はもとより、ボランティアの募集、集約、シフト編成、活動当日の指示・支援等に取り組むとともに、入学説明会でコミュニティ・スクールや地域学校協働活動について保護者に説明したり、学校運営協議会を運営したりするなど、中心的な役割を担っている。地域学校協働活動推進員2名のうち1名は中学校の推進員を兼務し、地域連携担当教職員2名とともに学校の窓口として、小中学校間の連携も図っている。

成果・効果

- ◆地域住民との身近な関わりにより、自己肯定感や学習意欲の良好な変化が見られる。
- ◆保護者や地域住民が、定期的に教育活動に関わることで、学校への理解が深まり、子供たちの笑顔にふれることで声かけの質が向上したり、他の活動への参画が促進されたり、当事者意識が高まっている。（令和6年度ボランティア登録数66名）
- ◆子供たちの学習意欲向上の変化を目の当たりにし、教職員のやりがいにつながっている。



指標1	指標2
●自分にはよいところがあると思いますか (肯定的な回答)	●意欲的に授業に取り組んでいる (肯定的な回答)
R2 R5	R2 R5
<u>76% ⇒ 91%</u>	<u>84% ⇒ 88%</u>
(全国学力・学習意欲状況調査より)	

愛知県半田市

学校

半田市立宮池小学校

学校運営協議会

宮池小学校学校運営協議会

平成31年4月1日設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護司
教育委員
民生児童委員
PTA関係者
公民館・区民館関係者

など 10名

会議回数

年間平均 6 回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1 名 (1 名)

地域コーディネーター 0 名 (0 名)

地域学校協働本部

宮池小学校地域学校協働本部

地域とともにある学校・学校とともにある地域を目指して

背景・取組概要

地域・子供・家庭が無理なくつながり、子供たちが自己肯定感を高められる仕組みづくり

- ◆子供を取り巻く生活環境が時代に合わせて目まぐるしく変化し、遊びや体験活動の中で様々な人たちと関わり、豊かな心を育む機会が減ってしまった。保護者の経験値低下も危惧されている。
- ◆学校は多忙化の中で様々な教育課題を抱え、日々対応に追われている。
- ◆地域は学校や家庭との連携の必要性を認識してはいるものの、何をすればよいか悩んでいる。
- ➡共通の思いをもつ地域の人たちが、「地域の子供たちを、学校とともに一緒に育てよう。困っている保護者に寄り添おう」と、仕組みづくりに着手した。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施
 - ・学校運営協議会の委員を兼ねる地域学校協働活動推進員は、学校運営協議会委員と、その活動に賛同する地域の人たちとで構成される「宮池小応援団」とをつなぐコーディネーターを務めている。
 - ・令和2年度には「宮池子どもサポート会議」を立ち上げ、学校運営協議会後に学校が抱える課題解決の手立てについて協議を重ね、「宮池小応援団」につないでいる。また、応援団に以下の5部会を立ち上げ、委員が部会長となり活動を推進している。
 - ①宮池小学校区なんでも相談窓口部会 ②子ども食堂部会 ③ママ（パパ）たちのおしゃべり部会 ④子どもの居場所づくり部会 ⑤就労支援部会
 - ・令和6年度からは地域の方を講師として「こどもわくわく体験プロジェクト」を年間3回実施している。
- ◆地域学校協働活動（特徴的な取組）
 - ・「宮池小応援団」の子ども食堂部会が中心となり、毎月第4土曜日に家庭での食事に困っている子供に食事と交流の場を提供しようと始められた。時には、地元飲食業者から使用しない食材の提供を受けるなど、地域と一体となって「子供たちの体と心の栄養を応援する居場所づくり」が推進されている。
 - ・食事の前に、風車作りやキャッチボールマシン作り等の工作の時間を取り入れ、様々な大人と関わる仕組みをつくり、地元への安心感や地域を大切にしようとする心や夢を育んでいる。
- ◆学校運営協議会
 - ・宮池小学校学校運営協議会には、半田市から任命される委員の他に、顧問(前会長)、オブザーバー(地域活動団体、宮池小応援団長、地元大学生等)も参加し、持続可能な運営を目指している。
 - ・児童会役員と上記メンバーとの懇談会を設け、グループワークを通して、学校生活の課題や地域への思いを直接意見交換する機会を設け、反映させている。
 - ・年に6回開催する会のうち、3回は研修会を位置付け、学校の課題に関連する内容について、地域で活躍する人や地域団体を講師に招き、理解を深めている。



成果・効果

- ・課題解決のための様々な活動を通して、子供たちにとって「知っている人」が増え、**地域の人たちへの安心感が増し、伸び伸び生活している。**
- ・地域に支えられていることを実感し、**地域に興味をもったり、地域行事に積極的に参加したりする子供たちが増え、**地域の人たちからも喜ばれている。
- ・様々な活動に、**地元の大学生からお年寄りまでが気楽に参加できる仕組みや地域住民同士の関係性ができ、これらの活動が地域の人たちにとっての「生きがい」**にもなっていると言える。



三重県名張市

学校

名張市立錦生赤目小学校

学校運営協議会

錦生赤目小学校学校運営協議会

平成30年4月1日設置

委員構成

自治協議会関係者
市民センター関係者
民生委員・民生児童委員
地域コーディネーター
放課後児童クラブ関係者
P T A 関係者

など 14名

会議回数

年間平均 5 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

錦生赤目小学校地域学校協働本部

子どもたちの「やりたい！」を育てたい～2つの地域力が一つになって～

背景・取組概要

本校は10年前、市の学校規模・配置適正化により、赤目小学校と錦生小学校が統合してできた学校である。両地域の歴史・自然・人などの環境に恵まれ、児童の学びがさらに深まるような機会を増やしたいと学校運営協議会や各地域等で協議を重ねてきた。

コミュニティ・スクールの取組が両地域をつなぐ接着剤のような役割を果たせるように、名張市のコミュニティ・スクール3本柱の一つ「地域貢献の場作り」として以下の取組を行った。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

①運営委員全員の意見を吸い上げ、交流しやすい工夫として、委員一人ひとりがタブレットでアプリを使って会議に参加。

②6年生の児童全員と学校運営協議会委員との懇談会を実施。

③教職員全員と学校運営協議会委員との懇談会を実施。

学校が取組を報告するだけでなく、どの立場であっても、学校運営の参画者であるという当事者意識を持って委員が参加できるように、熟議のテーマ設定や話し合う方法の工夫をした。学校運営協議会は地域行事を盛り上げていくためにも、地域と子どもをいかにつなぐかということを話題にした。その中で、子どもたちが「赤目夏祭り」「錦生地区運動会」「あかめフェスティバル」の運営に参画することで、学校が目標とする「主体的に考えて行動する子の育成」を目指した取組を進めた。

◆地域学校協働活動

学校運営協議会には各地域行事を主催するそれぞれの地域づくり組織の会長が委員として加わり、地域コーディネーターと各会長とが連携し、行事に関わる子どもスタッフの募集をかけた。

中学校の学校運営協議会でも同じ話し合いが持たれ、中学生にも募集をかけることで、小中学生がフェスティバルの企画段階からアイデアを出し合い、行事を運営する場を設定した。このことから子ども主体の取組の実現へとつながることができた。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

名張版コミュニティ・スクール3本柱の一つ「学校支援の充実」に係る取組として、CSカレンダーを基に各学年の学習内容に応じて、地域住民や保護者のボランティア、ゲストティーチャーが来校している。地域行事の「あかめフェスティバル」では子どもたちがボランティアの支援を受けながら育てた野菜の販売を行うことができた。また、同イベントでは、子どものアイデアから生まれた「赤目夏祭り」で案内放送やブースの運営を担い、子どもたちの豊かな体験・学びにつながった。

成果・効果

以前はコミュニティ・スクールの目標として「日本一のあいさつあふれる学校を目指す」を掲げ、地域、家庭と連携してあいさつ運動などに取り組んできた。地域の様々な行事に参画する機会が増えたことで地域住民との関わりも増え、あいさつも自然にできるようになった。また令和6年度は、児童の委員会活動に「地域おこし委員会」を位置づけ、活動日には地域づくり組織役員の方も参加し、地域への行事参加やP R、スタッフ募集を働きかける児童の委員会として機能し始めている。地域・保護者・教職員、そして子どもたち各々が当事者としてできることを考え、参画していこうという主体性が向上した。



令和6年度全国学力・学習状況調査 児童質問調査より

指標 1	指標 2
地域の行事に参加している (肯定的回答)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う (肯定的回答)
R 4 4 8 %	3 8 %
R 5 6 5 %	9 0 %
R 6 質問なし	7 4 %

三重県四日市市

学校

四日市市立神前小学校

学校運営協議会

コミュニティかんだき

平成23年4月1日 設置

委員構成

- ・連合自治会代表
- ・地域諸団体代表
- ・老人会【仙寿会】
- ・地域住民代表
- ・学童保育所運営委員
- ・保護者OB など 10名

会議回数

年間平均8回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名 (0名)

地域コーディネーター 1名 (1名)

地域学校協働活動

神前小学校地域学校協働活動

地域とともにある学校づくり

背景・取組概要

神前小学校区は、子どもたちの地域・保護者と学校づくりビジョンを共有し、「学校」・「家庭」・「地域」が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを進めている。

神前小学校区は、子どもの健全育成に大変熱心な地区である。子どもたちを巻き込んで行う地区の行事もたくさん行われている。人権教育がさかんで、「神前人権・同和教育推進協議会」については50周年を迎えたところである。「かんだき地区人権文化育成協議会」の活動などさまざまな活動があり、おとなとこどもが協働した取組を通して、地域づくりに貢献したり、人とのつながりを深めたりしている。「地域に学ぶ・人と取り組む活動」の推進も行っている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

学校運営協議会

年8回程度の「神前小学校学校運営協議会」を開催している。校長の示す「学校づくりビジョン」の実現に向け、主体的に協議を進めている。児童の授業参観等も通して、「学校」「児童」「教職員」の強み・弱みについても協議し、児童育成を図っている。

地域学校協働活動

神前地区人権・同和教育推進協議会（※以下、同推協と記載）や民生委員、社会福祉協議会等との連携を通して、その人たちの思いを知ること、児童も自らの生き方を考える機会となっている。さらに、児童が参加する文化祭や人権のつどいなどを通して、自分たちの学びを発表する場が位置づけられている。

コミュニティ・スクールと地域学校協働の活動

地域の文化に触れたり、野菜や餅米などを一緒に作る活動等を通して、自ら興味をもち、地域への愛着を感じる学習へとつながっている。さらに、年5回の「環境ボランティアの日」を設定し、児童とともに学校の美化・整備にもつとめている。



成果・効果

- 「人と出会い・地域の人から学ぶ」をテーマに取組を進めた。地域の人から学んだことを全校のなかまに伝えようとする姿も見られた。「全校で語ろう会」を実施したり、自分たちがまなんだ人権学習の発表をしあったりした。
- 学校運営協議会のコーディネートのおかげで、各学年の児童が地域から学ぶ取組や地域の人と関わり、繋がれる場づくりをしてもらった。その点から、地域の行事へ参加する児童も多くみられるようになった。【全国学力・学習状況調査結果→「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」肯定的意見：神前小89.3%、全国83.5%】
- 地域と学校の双方が協力し合う関係が確立しており、地域から学校への支援だけでなく、学校から地域（自治会活動や同推協活動に児童が参加）に発信する取組も活発になった。
- 「コミュニティかんだき」の運営委員の教育活動を支援する姿を見て、保護者の中にも学校行事やボランティア活動に参加する人が増加した。加えて、児童が卒業したのちも、地域協力者として本校に関わり続けている人も少なくない。

滋賀県米原市

学校

米原市立米原中学校

学校運営協議会

米原中学校学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
体育文化後援会
学識経験者
保護者
地域代表
民生児童委員
など 7名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 0名 (0名)

地域学校協働本部

米原学区地域学校協働本部

人と人をつなぎ 学びと学びをつなぐ 学校を地域とともにつくる

背景・取組概要

◆本校では地域の力を活用し、人や社会に貢献できる生徒を育てることを目指している。そのためには地域全体が一丸となって、人と人とのつながりを大切に、学びと学びをつなぐ場を創出し、推進する必要があった。そこで、保護者や地域住民が協力しながら学校の取組に参画することで、めざす生徒像や学校教育目標に向けて学校と地域が協働する仕組みを作り上げていこうと考えた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

年に4回開催している。そのうち2回は小学校と中学校が合同で開催し、農園活動や収穫感謝祭、喫緊の課題（交通安全や制服検討）などで、地域が一体となって取り組める事業を進めている。今年度は地域の課題であった通学状況の見守りについても提案し新たな活動を始めた。

◆地域学校協働活動

・学校支援地域本部ができた時の「支援は校園の環境整備から」という思いを引き継ぎ、今も日常的に環境整備を行っている。
・推進員が地域に広く人材を募集し、現在は80名ほどのボランティアが登録している。その中の10人ほどが中心となり、月2回程度定例会を開催し、活動について熟議している。学校行事として行っている愛校作業や生徒会活動に参画することで、教育活動や学校行事が円滑に行われるように尽力している。
・推進員を中心に職場体験学習の事業所開拓や巡回を行うことで、子どもたちの学習の深まりや学校の働き方改革につながる活動となっている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施が成功には不可欠

学校運営協議会の会長と地域学校協働活動推進員を兼務していることで情報共有等が円滑に行われている。また、毎月2回、学校運営協議会委員と地域ボランティアや関係者が集まり、定例のリーダー会を開催している。年度末には、地域ボランティアと各校園の関係者が一堂に集まり、交流を深めるとともに月ごとの活動や次年度の活動の充実につないでいる。

【農園活動】地域人材の専門性を生かして、農園委員会の活動を行ったり、総合的な学習や家庭科の調理実習を行っている。また、地域の方と一緒に収穫物の販売などの活動をする中で、地域の魅力を理解するとともにシビックプライド（地域の誇り）を醸成している。

【収穫感謝祭】日頃の感謝を含めて農園活動の収穫物をふるまっている。また、学区内の認定こども園、小学校の園児児童も参加している。各校園の発表を見ることで保護者や地域、子ども自らが成長した姿を感じる機会としている。小中の学校運営協議会メンバーや園の関係者が参画し、企画・準備・運営している。

【地域の交通安全・防災拠点】会議の中で登下校時の危険性についての意見があった。そこで生徒、保護者や地域ボランティアと協働し「まいばらいおん」「まいばらぼうや」などのオリジナル飛び出し坊やの制作・設置や、交通見守りの実施などを行っている。また、市の防災訓練の会場として学校の中庭にある農園のかまどベンチを活用し、防災危機管理課などの関係機関とも協力して防災訓練を行っている。

成果・効果

- 収穫感謝祭では地域の方と子どもたちが焼き芋を食べながら、意見交流を行った。
- ・地域の感想「普段の農園活動や収穫感謝祭で子どもたちの生き生きとした姿を間近に見られて大変嬉しい。」
- ・生徒の感想「様々な活動を通じて、地域みなさんに育ててもらっていることを肌で感じた。」
「自分たちが地域にできることは何かを考える機会となった。」
- 「教育環境や校内美化活動等に力を入れている」「家庭や地域との連携がうまくいっている」について、学校評価の数値が年々高まってきている。



収穫感謝祭で各校園の発表を見る様子



	教育環境や 校内美化活動等に 力を入れている。	家庭や地域との 連携が うまくいっている。
R5	3.3/5.0	3.2/5.0
R4	3.2/5.0	3.1/5.0
R3	3.1/5.0	3.0/5.0
R2	3.0/5.0	2.9/5.0

京都府相楽東部広域連合

学校

相楽東部広域連合立南山城小学校

学校運営協議会

南山城小学校学校運営協議会

令和2年5月13日 設置

委員構成

地域コーディネーター
協働活動サポーター
民生児童委員
区長会
PTA
青少年育成協議会
JA理事

など 8名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 2名(1名)

地域学校協働本部

南山城地域学校協働本部

地域社会と学校が連携・協働し、子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動

背景・取組概要

- ◇人口減少や少子高齢化が急激に進む南山城村において、地域社会全体で子どもを包み込み、子どもの成長を支援するとともに、大人と子どもがともに地域を創生する取組を進める必要があった。
- ◇平成19年より京のまなび教室「Ya! まなびclub」として子どもの学習活動や体験活動の支援を進めてきたが、令和元年度に新たに南山城地域学校協働本部運営委員会を創設し、地域全体で子どもをはぐむ体制づくりができています。令和2年度には南山城小学校学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けての体制が整い、取組が始まった。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◇学校運営協議会

地域コーディネーターや協働活動サポーターが委員になり、学校における子どもの様子の参観や交流に加えて、学習活動、体験活動に取り組む子どもの様子や活動状況について、情報共有や協議等がなされている。設置当初には、学校運営協議会と地域学校協働活動が両輪で進むように、地域学校協働本部との合同研修会を実施した。

◇地域学校協働本部運営委員会

地域学校協働活動を推進するために年間3回程度の運営委員会を開催している。学校運営協議会委員が地域コーディネーターをはじめ複数含まれている中、小学生(児童代表)も委員となり自分たちの学校や地域の良さを意見を発表する機会を作っている。子どもの思いやニーズを考慮した活動計画を地域コーディネーターが中心となって考え、大人と子どもが一体となった取組が進められている。直近のテーマは①「地域のことを話し合おう!」②「地域学校協働活動の活性化について」などで、地域の課題を解消し、魅力を伸ばし、子どもたちの学びや成長に活かすとともに、地域の活性化の活動についても考えている。



◇コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

学校運営協議会や地域学校協働本部運営委員会で協議された内容をもとに、3つの部会(学校教育支援部会、Ya! まなびClub、家庭教育支援部会)に分かれ地域学校協働活動が進められ、地域で子どもをはぐむ地域づくりに向け、効果的に機能している。

学校支援活動では、子どもたちが地域の産業を学び、体験することで、地域の良さを実感する活動となっている。

Ya! まなびclubでは、仲間づくり・つながりづくりの観点から、村単独事業に加え、近隣町村との合同事業も実施している。

家庭教育支援部会で実施されている子育て講演会では、親同士の情報交換や悩み相談等有意義な交流がなされ、子どもだけでなく親の学びの機会となっている。



成果・効果

- ・地域の方が子どもとふれ合い、協働する活動を通して、子どもたちが地域を知り、地域に愛着を持つきっかけとなっている。また、「子どもたちから元気もらった」と地域の方々の笑顔が増え、学校と地域にWIN・WINの関係が構築できてきた。
- ・子どもが多く地域の方に支えられていることを実感し、「ふるさと南山城」を誇りに思い、自分たちができることについて考えるようになってきている。
- ・南山城村だけでなく、笠置町・和束町の相楽東部3町村合同で取り組む事業もあり、広域につながる輪が広がっている。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働本部が連携して取り組むことで、実施してきた体験活動や行事の意義を改めて振り返る機会となっている。
- ・保護者の学校評価で「地域に開かれた学校」に関しての設問に対して、令和3年度以降98~100%の肯定的な回答を得ている。

京都府福知山市

学校

福知山市立川口中学校
福知山市立上川口小学校

学校運営協議会

川口ブロック学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

地域コーディネーター
保護者・PTA関係者
民生児童委員
地域移住者
地域企業経営者
自治会長
老人会
公民館
など 12名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 2名(1名)

地域学校協働本部

心の教育実践活動川口ブロック

みんなで！！子どもたちの夢を育む川口ブロック

背景・取組概要

平成20年学校支援地域本部事業として川口地域教育協議会が発足され、地域のボランティアが中心となり地域の達人から「伝統」や「はたらく」ことについて学ぶ機会として、「川口学区みんなの登校日」～夢・希望・活力、地域と学校応援プロジェクトが実施されてきた。10年間の取組後、学校運営協議会の発足を機に解散をしたが、その取組の情熱や成果が今も引き継がれている。

学校運営協議会において、地域と学校が連携して子どもたちの成長を支えていきたいという地域の方の情熱や、ふるさとを愛する子どもたちを育てるため、学校と保護者及び地域住民の関わる機会を増やしたいという意見を具現化した取組を計画して実施している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

年に4回、学習参観や学校行事の機会を利用して会議を行っている。会場を小中学校交互にし、児童・生徒の参観や、委員と教員が一緒になって熟議をする機会を設けている。直近のテーマは○地域の方と関わる中で、子どもたちを育てていくためにできることは何か。○どのような学校をめざすのか。地域と連携してどのような学校づくりを行えばよいか。などである。少子高齢化のため、地域住民が学校や子どもたちと関わる機会が少なくなっていることから、地域住民が学校へ行く機会、一緒に活動できる取組を増やすこと等を提案された。

◆地域学校協働活動

小中学校が合同で実施する運動会・体育祭「みんなのスポーツフェスティバル」は4年目を迎える。中学校運動場で実施する合同練習会には、学校運営協議会委員も参観し、意見交流を行っている。本年度は、未就学児や地域住民も児童生徒と一緒に参加する種目を増やすなど、地域が一体となって楽しむ1日となっている。

また、地域コーディネーターが、小中学校において「地域の方々から学ぶ」ため、地域人材をコーディネートしたり、コーディネーター自らも川口の魅力を発信したりする活動が年間を通じて行われている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域公民館長が地域コーディネーターとなり、福知山市全体で取り組まれている「心の教育」実践活動のブロック活動と連動しながら、学校運営協議会や各学校から出た意見・要望の具現化を図るために、コーディネートをしている。また、「心の教育」実践活動として、地域の各種団体へ声をかけ、あいさつ運動や花いっぱい運動、地域の祭り等が実施され多くの児童生徒も積極的に参加している。地域の方と関わる中で子どもたちがふるさとに愛着を持つとともに、地域の活力にもつながっている。地域の子どもは、地域で守る・育てるという気風が高まり、子どもたちは安心・安全に過ごすこともできている。



成果・効果

◆学校運営協議会の熟議を通じて、地域と学校が一緒になって子どもたちを育てていくためのアイデアが生まれ、少しずつ実現することができている。

◆地域の方々から学んだり、一緒に活動したりする機会が増えていくことで、「ふるさと川口」に愛着を持ったり、自分の住んでいる地域に誇りを持つ子どもたちが増えている。

大阪府富田林市

学校

富田林市立小金台小学校
富田林市立明治池中学校

学校運営協議会

彩和学園運営協議会

令和6年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働本部代表
主任児童委員
(以上、地域コーディネーター)
地域住民代表
大学教員
小・中学校保護者代表
小・中学校代表

8名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 3名(2名)

地域学校協働本部

すこやかネット明治池

地域とともに創る彩和の教育コミュニティ ～育てよう！社会で生きる自分らしさ～

背景・取組概要

- ◆ 明治池中学校区では地域住民が学校教育と地域づくりに高い関心を持ち、20年以上に渡って学校を核とする様々な地域活動が行われてきた。令和4年度、小中一貫校「彩和学園」が開校したが、それまで培われてきた地域と学校の連携を生かして「地域の子どもを地域で育てる」風土を確立するためには学校運営協議会制度の導入が望ましいと考え、令和6年度にコミュニティ・スクールとなった。
- ◆ 学園の教育目標は、先行き不透明な社会を生き抜く子どもたちが、**社会とのつながりの中で**主体的に考えて行動し、自分らしさを発揮する力を身につけることである。この目標の達成には地域社会と学校がつながることが不可欠であると考え、**コミュニティ・スクールを生かした地域学校協働活動を確立したい**。それにより「**地域に根ざす学園づくり**」と「**誰からも愛される〈ふるさと明治池〉づくり**」の両方が実現する「**彩和の教育コミュニティづくり**」を進める。

工夫・ポイント・特徴的な取組

□「社会で生きる自分らしさ」を育てる地域学校協働活動

◆ 寺子屋プロジェクト

地域学校協働本部「すこやかネット明治池」の発案で、放課後の子どもの居場所づくりである「寺子屋プロジェクト」に取り組んでいる。「すこやかネット明治池」メンバーを中心に地域ボランティアがスタッフとなり、1～9年生が放課後のひと時を共に過ごしつながれる場をつつた。誰でも参加できる安全・安心な居場所をめざし、不登校児童生徒へも活動を紹介している。大人による学習支援やみんなで楽しむレクリエーションなどを通じて、子どもどうし、子どもと大人の交流が深まっている。

◆ コミュニティ・スクールの取組みを支える「ひだまりネット」

彩和学園では9年間の学びを貫く柱として「未来科」を位置づけている。「未来科」では、地域人材・地域資源を生かして探究的な学習の充実を図りたいと考えた。他の教科でも同様のニーズがあったため、**コミュニティ・スクールであることを生かして子どもの活動を地域が支援するしくみづくりをめざして、子ども支援地域ステーション「ひだまりネット」**を立ち上げた。

「ひだまりネット」は、地域の人々に地域学校協働活動への参画を広く呼びかけてボランティア登録リストを構築し、学校からの教育支援の要請に応じて協力者を募って学校へつなぐシステムである。地域コーディネーターが責任者としてひだまりネットの運営にあたりるとともに、地域ボランティアの交流等を企画している。(図1)

このように子どもの活動への地域人材の参画が進むことにより、**学びの深化・充実と「ナナメの関係」づくり**が進んでいる。

□ 彩和学園運営協議会と地域学校協働活動の一体化

このように、地域学校協働活動に関わる地域コーディネーターが彩和学園運営協議会の委員であることで、活動の一体的な実施が可能になる。例えば、地域コーディネーターの一人は地域学校協働本部「すこやかネット明治池」の代表であるため**活動プランをより具体的に提言でき、彩和学園運営協議会において協議・助言を行うことができる**。また**委員は「すこやかネット明治池」の全体会議で彩和学園運営協議会の協議内容を直接周知し、反映させることができる**。

さらに、彩和学園運営協議会では学校の取組みの事後報告に留まらず、これから取り組もうとする活動について事前に意見を求めるようにしている。各委員の知見に基づいて「**熟議**」が行われ、共有されている。



(図1) ひだまりネットのしくみ



成果・効果

- ◆ 彩和学園運営協議会に地域コーディネーターが参画することで地域にできることについて具体的に協議でき、地域と学校の協働がさらに進んだ。
- ◆ 学校運営のPDCAに地域人材が委員として関わることで、地域と学校が一体となったカリキュラムマネジメントを行えるようになった。
- ◆ ひだまりネットの構築等によって子どものニーズと地域の支援をつなぐ仕組みが明確になったことで、教職員に、地域の力をより生かそうとする意識が高まった。同時に彩和学園運営協議会を通じて『「できる人が、できる時に、できるだけ」子どもたちに力を貸す』という理念が共有されることで、地域人材が学校支援活動に参加しやすくなった。
- ◆ 放課後や週末に地域の活動に参加している児童生徒の割合が高く、子どもの主体的な参画が進んでいる。
(R6全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査より)

	地域の活動に参加している割合	
	小学校	中学校
彩和学園	6.9p	13.0p
全国平均	4.4p	3.9p

大阪府

学校

大阪府立高槻支援学校

学校運営協議会

高槻支援学校学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

大学教員
高槻商工会議所
保護者・PTA関係者
高槻市障がい福祉課
社会福祉法人 花の会
高槻市立中学校校長
6名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 3 名 (0 名)

地域学校協働本部

たかつき元気広場

校内ガーデニングと行事支援

背景・取組概要

◆障がいのある児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、社会の一員として育てるために、地域・家庭・学校が協働活動を行う学校づくりを目指した。そのためまず、子どもが多様な大人とやりとりする機会を増やし生活経験を広げ、主体的に行動できるようにする必要があった。
→**子供の可能性を伸ばす学校づくり、子供たちと大人が力を合わせ協働する地域づくりをめざす。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

高槻支援学校はめざす学校像に「本人・保護者・地域社会の願いや期待に応える学校」を掲げており、インクルーシブ教育システムの構築を進めている。保護者や地域に信頼される学校づくりのため、学校運営協議会は、保護者や地域のニーズを把握してたかつき元気広場と共に子どもたちのために地域との協働活動を推進している。

◆地域学校協働活動

【学校支援活動】

①「ひまわりの会」(本校児童生徒の母親が中心となり、平成20年に発足した学校内ボランティア団体「子どもたちの笑顔のためにできる人ができることを」が目標)を中心とした花壇整備、清掃活動、出前授業、教材制作

②「おとんの会」(児童生徒の父親を中心としたボランティア団体。「児童生徒の生活経験を広げること、また母親の育児負担を軽減すること」が目標)を中心とした行事の際の受付・誘導、巡回相談

【放課後の居場所づくり活動】

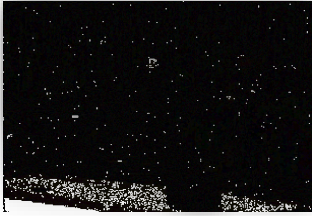
①「おとんの会」を中心としたファミリーコンサート、ピクニックや工作大会などの企画

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働本部のリーダーがメンバーの意見をまとめ、学校運営協議会委員へ助言することで、協議内容を本部に伝え具現化を図るとともに、本部での進行状況や課題を協議会で協議している。また、普段より、**地域学校協働本部のリーダーと学校運営協議会委員とが連絡を密にとっており**活動をスピーディーに支援する体制が整っている。



花壇整備活動



「おとんの会」によるファミリーコンサート



「ひまわりの会」による出前授業

	指標 1	指標 2	指標 3
	子どもは学校に行くのを楽しみにしている(肯定的な回答)	保護者のニーズを踏まえている(肯定的な回答)	学校生活の様子を知ることができている(肯定的な回答)
	保護者	保護者	保護者
R3	84.6%	90.5%	92.2%
R5	91.3%	92.7%	94.7%

兵庫県養父市

学校

養父市立建屋小学校

学校運営協議会

建屋小学校学校運営協議会

平成31年4月1日 設置

委員構成

建屋地域活性化対策委員会
校区自治協議会会長・庶務
校区民生委員（有識者）
たきのやっ子応援団（代表）
三谷こども園保護者会長
建屋小学校PTA会長
教職員代表
管理職

11名

会議回数

年間4回

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名（0名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

建屋小学校地域学校協働本部

コロナで薄れたつながりを「コミスク」でつないだ6年間 ～つながりの中で学びの主人公を育てる～

背景・取組概要

- ◆建屋小学校は、今年度創立20周年を迎える。統合当時122名だった児童数も、数年後には半分以下の50名を割り、複式学級を有する過小規模校となった。こうした状況を受け、平成30年に但馬初の小規模特認校制度を導入、平成31年にはコミュニティ・スクールを導入し、現在に至る。今年度は、児童数48名のうち17名が小規模特認制度を利用して通学。その割合は増加傾向にある。
- ◆「地域とともにある魅力ある学校づくり」を旗印にスタートしたコミュニティ・スクールであるが、コロナ禍により、強みであった地域とのつながりが希薄になるなどの課題が生じた。→ 改善のための方策①特認校・小規模校の強みを生かした実践 ②やぶ・ふるさとキャリア学習の充実

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆学校運営協議会 ～ コミスク6年目の挑戦！ コミスクの新たなステージへ ～
イングリッシュマラソンや秋季大運動会（地区との合同）、ふれあい田んぼでの米作りなど、学校行事の際にはコミスク委員がスタッフとして運営に当たっている。4月・9月の会議で学校の教育活動や各団体・組織の取組について熟議し、11月・2月の会議で「評価・検証」を行い、PDCAサイクルにより活動の充実と協働体制確立を図っている。重点は、①小規模特認校としての特色ある教育活動支援、②校区外・市外からの就学促進（広報活動、行政への働きかけ）、③先進校視察・視察受け入れである。
- ◆地域学校協働活動
 - ①学校の教育活動を支える「たきのやっ子応援団」（地域ボランティア）に、常時40名を越える地域ボランティア登録がある。
（校舎周辺の除草、通学時の見守り、ゲストティーチャー、授業支援 等）
 - ②地域コーディネーター・校区自治協議会を窓口、「やぶ・ふるさとキャリア学習」を組織的・系統的に推進している。
・現地ガイド・ゲストティーチャー・ふるさとキャリア学習会の講師招聘、笹（七夕集会）・もみの木（クリスマス集会）の調達等学習支援
- ◆学校・家庭・地域・関係機関の4者協働による「地域とともにある魅力ある学校づくり」
 - ①「ふるさとたきのや物語」（地域を題材にした創作劇）上演：兵庫県立ピッコロ劇団との連携
 - ②たきのやFestival（秋のオープンスクール）：校区民による作品展、カフェ、物品販売
※200名を越える来校者。校区外からの参加者あり。
※午後には「PTA親子講演会」を開催。
 - ③「たきのや大人の学校」（8回のうち4回は小学校を会場に開催）
7/1（月） 児童と一緒に社会や理科の授業を受ける受講者（右写真）
 - ④20周年記念行事（3部構成：地域・関係機関との協働体制強化）
秋季大運動会 → ピッコロおでかけステージ → 建屋フェスティバル
(9月) (10月) (11月)



成果・効果

- ◆小規模特認校の強みを生かした実践を重ねることにより、コロナ禍で希薄になった学校・保護者・地域のつながり“絆”と信頼が深まった。
オープンスクール来校者 R2: 418名 → R3: 244名 → R4: 457名 → R5: 577名
- ◆児童アンケート 「学校が楽しい・少し楽しい」と回答した割合 R3: 88.4% → R4: 95.1% → R5: 97.7%
- ◆R5保護者アンケート 「本校の教育活動がお子様や保護者の期待に込えているか」 肯定的評価 100%
「小規模特認校として特色ある学校づくりが進められているか」 肯定的評価 100%
「コミスクとして地域とともにある学校づくりが進められているか」 肯定的評価 97.7%

奈良県御杖村

学校

御杖村立御杖小学校
御杖村立御杖中学校

学校運営協議会

御杖村学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

学校協働実行委員会委員長
地域コーディネーター
保護者・PTA関係者
地域住民
教員経験者
学校管理職
教育委員会事務局員
など 14名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部

御杖村学校協働実行委員会

ふるさと「みつえ」 出会い・発見・探求・発信 ～ふるさとに誇りを持ち みつえを愛する子ども達に～

背景・取組概要

本村の児童・生徒は中学校卒業時の進路選択で、村を離れるケースが非常に多く、小・中学校とも「総合的な学習の時間」を基軸に「ふるさと」をテーマに学習を進めることを通じて、児童・生徒の御杖村を愛する心を育み、アイデンティティの形成を学校目標のひとつとして取り組んできた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・学校運営協議会以外にも委員の来校が複数回あり、諸行事に臨む児童・生徒の1年間のあゆみや生活を見守る体制が構築されている。
- ・学校の総括的行事である「学習発表会」を柱に据えた学校運営への協議が実施できる。

◆地域学校協働活動

- ・前身である「御杖村学校支援実行委員会」からの積み上げで、学校支援ボランティアの活動に学校への理解と厚みがある。
- ・広報「みつえ」における年2回の活動報告により、村内周知を行っている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- ・学校運営協議会の会長と学校協働実行委員会の委員長が同一であることに加え、地域コーディネーターも双方に参加しているため、円滑な協議運営体制を取ることができ、学校の教育課題や教育方針を理解し、活動に反映している。
- ・地域コーディネーターが常勤として事務局に位置付き、学校及び地域の現状に沿い、密に両者をつなぐ役割をしている。



成果・効果

◆児童・生徒

- ・地域の方々との関わりの中で多くの体験を通して、考えや思いを表現できる力が身についた。
- ・自分たちの「ふるさと」について地域の方々と交流を深めながら、主体的・能動的な学びを実践できた。
- ・「ふるさと」の新たな発見、学習意欲の向上、「ふるさと」を大切にしたいという意識を醸成でき、自分たちの地域やふるさとについてのアイデンティティの確立に迫ることができた。

◆地域・学校支援ボランティア

- ・学習に関わった地域住民（学校支援ボランティア）の生きがいにつながっている。
- ・学校教育への理解の深化や今後の継続的な支援につながる声が寄せられた。
- ・自ら新たな企画や活動内容の提案など、地域発信の自主的な活動が展開できた。

奈良県三郷町

学校

三郷町立三郷小学校、三郷北小学校
三郷中学校、南畑幼稚園

学校運営協議会

三郷町小中一貫コミュニティ・スクール

令和4年4月1日 設置

委員構成

P T A会長
保護者代表
学識経験者
教育委員
自治会関係
地域コーディネーター
地域住民
担当教員
など 14名

会議回数

年間平均2回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名（0名）

地域コーディネーター 4名（3名）

地域学校協働本部

三郷町学校支援地域本部

ひまわり畑プロジェクト ～ ともにそだつSDGs ～

背景・取組概要

三郷町では、子育て世帯の多くが町外からの転入世帯である。三郷町になじみがなく地域とのつながりが薄れつつある中、**まち全体で子どもの成長を支える土台作り**が三郷町に求められている。

三郷町の教育の基本理念を実現するために、地域に開かれた学校づくりに加え、地域住民と子どもが深くつながる取組が必要であることから、三郷町小中一貫コミュニティ・スクールで**ひまわり畑プロジェクト**を計画した。

ボランティアを中心に地域住民や子どもが協働で運営するひまわり畑は、「**育てて楽しい、観て楽しい**」誰もが何らかの形で参加できるまちのスポットとなるとともに、様々な課題を抱える子どもも**みんなが明るい気持ちで元気に学校生活を送ることができるようにとの願い**が込められている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

【三郷町小中一貫コミュニティ・スクール】

誰一人取り残さない、すべての子どもの豊かな成長を支えることや学校を取り巻く多くの課題を解決するため、それぞれの立場から様々な意見を出し合い熟議を重ねた。その結果、**学校、地域、子どものつながりを全ての土台**とするために、休耕田を活用したひまわり畑プロジェクトを多くの方が交流を深める取組として計画した。

【地域学校協働活動】

各校のボランティアは、地域住民からお借りした休耕田の耕運作業、草刈作業、ひまわりの種まき、種収穫イベントの準備等、縁の下での力持ちとしての役割を担っている。畑の畝づくりを行っている際は、通りすがりの農家さんが声を掛けてくださり、トラクターで畝づくりを補助していただいたこともある。子どもが学校の休み時間を活用したひまわりの水やり作業の実施を決めると、ボランティアは直ちにスケジュールを組み、道路横断等のサポート体制を整えることができた。こうしたボランティアのサポート体制が充実していることが、「私も参加したい」等の子どもの積極的な姿勢に繋がり、次の協働活動へと発展している。また、各種イベントが近づく、ボランティアが地域住民やボランティア活動から足が遠のいている方に参加の呼びかけ等を行い、**ひまわり畑プロジェクトをきっかけにボランティア活動への新規参加または再参加を募り、地域のつながりを強めている。**

【三郷町小中一貫コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施】

三郷町小中一貫コミュニティ・スクール委員となっている地域コーディネーターが各校のボランティアに事業の趣旨説明や畑の管理等について丁寧に説明を行っているため、各校ボランティアの事業に対する理解が深く、ひまわり畑の運営について追加の提案までいただくことができた。また、**地域コーディネーターは地域の事情に精通**しており、休耕田の情報についても速やかに収集を行ってくださったことで、ひまわり畑の候補地を絞り込むことができ、円滑な事業実施に結び付いた。

このプロジェクトは子どもたちが明るい気持ちで元気に学校生活を送ることができるようにとの願いを込めていることから、候補地となっている休耕田の中から通学路に面した田を選択することで、登下校の際に満開のひまわりを目にすることができ、畑の草刈りをするボランティアや地域住民と「おはようございます」「いってらっしゃい」「さようなら」等、様々な挨拶等を交わす交流の場となっている。

成果・効果

参加した子どもたちのアンケートから「楽しかった」「来年もまたやりたい」といった声がたくさんあるひまわり畑プロジェクトは、掲示物やSNS等での啓発に加え、収穫した種を児童生徒が小袋に詰めて公共施設で配布することで、より多くの地域住民にひまわり畑プロジェクトを知ってもらうことができています。参加希望や休耕田の貸し出しの問い合わせが寄せられていることから、ひまわり畑プロジェクトを通して、**地域の学校に対する関心の高さや地域住民の温かさ**を再認識することができた。こうした三郷町ならではの地域とのつながりを基に、三郷町はSDGs未来都市として誰一人取り残さない学校教育を実現すべく、**多種多様な課題を抱える子どもへの支援**にも力を入れている。学校、地域、教育委員会に加え、**地域住民からなるNPO法人とも協働しながら様々な理由で学校に来づらい子どもたちへの新たな支援・協働活動も走り出した**ところである。

ひまわり畑プロジェクトをきっかけにして、**子どもに関わる地域の方が増えてきている。**地域と学校・子どもがよりつながりを深め、三郷町の教育の基本理念である「ともにまなび ともにおもい ともにそだつ」を念頭に、地域の子どもの育むため、地域と共にある学校づくりを継続する。



奈良県

学校

奈良県立磯城野高等学校

学校運営協議会

奈良県立磯城野高等学校
学校運営協議会

令和4年7月1日 設置

委員構成

(1) 保護者
(2) 地域住民
(3) 学校の運営に資する活動を行う者
(4) 対象学校の校長
(5) 対象学校の教職員
(6) 学識経験者
など 7名

会議回数

年間平均 2 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 1 名 (1 名)

地域学校協働活動

磯城野高等学校地域学校協働活動

地域農産物を活用した加工食品開発プロジェクト～味間いもポタージュで地域の魅力発信～

背景・取組概要

本校は、農業系の4学科と家庭系の3学科からなり、少人数指導による高度な専門教育を展開している。地域との連携・協働を通じた学びを積極的に取り入れることで生徒自らが課題を発見し、解決する意欲や能力を育み、人と自然を環境の視点から学び、科学技術の進展や産業社会の発展に寄与できる学校を目指している。本校が所在する田原本町において、地域の特産物である「味間いも」が古くから栽培されてきたが、生産農家の高齢化等の理由から栽培面積が減少しているという課題がある。そこで、地域と学校が連携・協働して「味間いも」を使った製品を開発することで、地域の魅力を発信し、地域の活性化につなげた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

学校運営協議会

生徒たちが考えたレシピを元に製造された味間いもポタージュ2種類を学校運営協議会委員が試飲を行い、商品とする味を決定した。また、生徒たちが商品ラベルデザインを作成し、学校運営協議会委員にプレゼンを行い、委員の意見も取り入れながら、ラベルデザインを決定した。

味間いもポタージュの試飲会

地域学校協働活動

学校運営協議会委員のならコープ職員が、地域コーディネーターとして、学校と味間いも生産農家や食品メーカーとの間をコーディネートしている。教科「農業」において、地域の特産物を活用した学びを推進している。

食品メーカーとの打ち合わせ

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

社会に開かれた教育課程の実現に向け、教科「農業」における地域特産物の加工食品の製造及び販売を地域企業などと協働して行った。地域企業の職員が学校運営協議会委員（地域コーディネーター）として参画し、学校が所在する地域である田原本町において、地域の特産物となっている「味間いも」を教材として活用するように提案し、協議を通じて出された協働活動を実現するため、JAならけん川東営農経済センターや生産農家、食品メーカー等との連絡調整を行っている。

成果・効果

◆「味間いも」生産農家や食品メーカーと連携した取組を実施することで、生徒の地域に対する興味・関心が高まり、地域の魅力創造、地域の活性化、地域に貢献したいという思いが高まった。

◆地域と協働する中で、生徒の自信獲得や学ぶことの意義を実感できたことで自己有用感を獲得できた。

◆生徒らは、様々な地域の企業や団体と協働することで、「味間いもポタージュ」の商品化に向けたミーティングを実施し、活動内容をどのように伝えと相手に分かりやすいかを考えることでコミュニケーション能力を高めた。また、多角的な物事の見方ができるようになった。そして、進路実現の一助にもなっている。

◆味間いもポタージュ（レトルト商品）を、ならコープが宅配商品として販売したところ、生産した2000パックが完売し、多くの県民に「味間いも」の魅力を発信できた。特に地元である田原本町の方からの購買が多く、学校の特色を生かしながら、学校の魅力と共に地域の魅力もPRできた。

【生徒の感想】

○田原本小学校の子どもたちが、商品や私たちの活動の話に興味を持ってくれてうれしかった。

○学校運営協議会委員の意見】

○味間いもポタージュの試飲会での生徒達の真剣な表情や姿勢は、社会人レベルだと感じた。

○学校と地域・関係機関との連携・協働を積極的に進めており、生徒もそのことを理解し、地域とつながる大切さの認識が深まっているように思う。

○地域農家や企業との活動では、普段の授業では得られない経験ができた。

和歌山県

学校

和歌山県立南部高等学校

学校運営協議会

南部高校学校運営協議会

平成29年6月3日 設置

委員構成

地域住民
PTA関係者
行政機関関係者
他校種学校長
産業界関係者
福祉事業関係者
大学教員
本校校長
など 10名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部

一般社団法人日本ウェルビーイング
推進協議会

部会性を取り入れた地域と学校の連携強化

背景・取組概要

- ◆「食と農園科」という新しい学科の設置に、「調理コース」の新設など、本校独自の取組を進めてきたが地域でのこどもの数が減少していることもあり、本校への出願者数は年々減少傾向にあった。外部からは「学校で何をしているのか分からない」「PR不足」というような声も聞こえてきており、本校と地域とのつながりを強化し、地元住民に本校の活動を知ってもらい、地域と生徒と一緒に交流することで、双方が共に活性化していければという思いがあった。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆部会制を活用した学校と地域との連携・交流

＜菅本香菜ちゃんおむすびinみなべ・田辺地域＞

- 南高梅の名前の由来になっている本校を前面に出してPRをしていくため、梅と関連させた企画が無いが運営協議会にて協議し、みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会と一緒に旅するおむすび屋菅本香菜さんを招いてのイベント「ウメおにぎりイベント」を企画した。当日は本校の調理室を使用し、調理コースの生徒が参加した。運営協議会を通じて梅料理研究会・地元住民等にも声をかけ実現に至った。世代を超え、自分が作ったおむすびに対して想いを話し合い、「梅」の魅力を発見するなど、参加者が笑顔で同じ時間を過ごすことができた。運営に関しても運営協議会の方と連携・協働し地域住民とのつながりをつくることができた。

＜みなべSDGs未来カフェ＞

- 10代の子ども達と地域の大人がお互いにみなべ町に対しての想いを対面で話せる機会が持てればと、みなべ未来カフェ実行委員会と一緒に内容を検討し実施した。運営協議会より地元中学校に趣旨説明と参加依頼を行い、当日は中・高生と大人が円になり膝をつき合わせた状態でみなべ町に対しての意見交流を行った。これからの未来を創る中・高校生がどう考えているのか、年配の方は何を考えているのか。初対面の人同士ながら活発に意見を交わすことができた。

＜防災スクール＞

- 本校のある地域は海から近く、今後起こるとされている東南海地震では地震発生から数分以内に津波が到達する予想となっている。災害発生時にはスムーズな避難と安全確保はもちろん地域との協力体制が必要不可欠であるため、運営協議会の委員を通じ地元中学生の参加について調整をお願いした。運営協議会では自衛隊に協力をお願いして災害発生時に役立つ内容の講習を実施した。

成果・効果

- ◆学校の取組について報告をする場ではなく、委員それぞれが自分事として本校の活性化のために意見を出し合い、自分のできる事を探しながら積極的に協力してくれるようになった。
- ◆地域の方との交流が増えることで、本校での他の取組についても興味を持ってくれるようになった。イベントで生徒と話をした地元住民からはこどもたちとずっと話をする機会が欲しい。しっかりと将来について考えていて生徒に対するイメージが変わった。と応援の声を頂く機会が増えた。
- ◆地域・学校双方がお互いに敷居が高いように感じていたが、様々な活動を通して気軽に交流できることに気付くことができた。



鳥取県伯耆町

学校

伯耆町立八郷小学校

学校運営協議会

八郷小学校学校運営協議会

平成23年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
地域住民代表
保護者・PTA関係者
保育所保護者代表
保育所・中学校教職員
自校教職員
など 15名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 0名 (0名)

地域学校協働本部

伯耆町地域学校協働本部

大人と児童が力を合わせ、協働する地域づくり～八郷文化展の取組～

背景・取組概要

◆地域や自分に確かな自信を持ち「ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる」未来の担い手を育成するためには、児童が地域の様々な人と出会い、ともに行動し、多様な考えを知る機会を増やすことが必要と考えた。中でも、「八郷文化展」を企画・運営する活動に関わることで、自ら課題を発見し、主体的に考え行動する力を育てることができると考えた。
→**地域の大人と児童が力を合わせ、協働する地域づくりを目指すことで、未来の担い手を育成する。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

八郷文化展

- ◆八郷文化展のはじまり
地域住民の力を合わせ、**地域の文化財や地域住民の作品を一堂に集め展示し、児童が鑑賞することで、地域に誇りと愛着を持ってもらおう**と学校運営協議会の発案で、文化展が始まった。以来、学校運営協議会委員と地域学校協働活動推進員が地域に声をかけ、協力者を募り運営していた。
- ◆学校運営協議会にて
地域で子どもを育てる活動を推進するために、毎年夏休みに、委員と全教職員との熟議を行っている。直近のテーマは、○学ぶ楽しさ広げようプロジェクト、○地域大好き、八郷大好きプロジェクト、○ボランティア活動の推進と見直し、○**八郷文化展の開催、学校と地域、児童のつながりを深めるためになどで、児童が主体的に関わる文化展について意見交換を行った。**
- ◆八郷I会議で企画会議
初期の文化展では、児童は地域の方の作品を見るという受け身の関わりだった。回を追うごとに、地域の一員として自分たちも盛り上げたいという機運が高まり、**6年生が校内でアンケートをとり、それを材料に「八郷I会議」を開催し、委員と熟議し企画に関わるようになった。**児童が考えた体験コーナーを設置したり、年々地元住民の出品数も来場者数も増えたりするなど地元の活性化にも一役買っている。児童作品、卒業生作品、地域学習の成果物の展示、自宅で制作した児童の特技を活かした作品の出品など、児童の自己実現の場にもなっている。昨年度からは、卒業生が中学生ボランティアとして運営に携わっている。今後は「社会に開かれた教育課程」として、カリキュラムに位置づけた学びとなるよう構想している。



成果・効果

- ◆児童と学校運営協議会が力を合わせ、協働する地域づくりを目指すことで、児童の主体性や行動力が育つとともに、児童や保護者にふるさと八郷のひと・もの・ことに対する理解と愛着が深まった。
- ◆地域と学校、児童と学校運営協議会が連携し、学校という場を核として、地域の活性化を目指すことで、学校と地域の協働がより深まった。

	失敗をおそれず挑戦している	八郷には地域の良さが あり、誇りに思う
	児童	保護者
R4	75%	91%
R6	93%	100%

鳥取県南部町

学校

南部町立会見小学校

学校運営協議会

南部中学校区学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

保護者OB
地元企業関係者
地域おこし協力隊
社会教育委員
学校代表
有識者

など 10名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名(0名)

地域コーディネーター 1名(0名)

地域学校協働本部

会見小CS委員会

地域とともに歩む学校づくり

背景・取組概要

◆平成18年に県下初の学校運営協議会に指定されて以来、地域と学校の協働を推進する様々な活動を行ってきた。その後、令和3年4月に中学校区学校運営協議会が設置されたことにより、会見小CS委員会と改称し、校区学校運営協議会のめざす子ども像を実現するための地域学校協働本部として、現在も学校と地域をつなぐための重要な役割を担い続けている。

→「地域とともに歩む学校づくり」を支えるために不可欠な組織となっている

工夫・ポイント・特徴的な取組

★4者懇話会

校区学校運営協議会の活動方針のもと、**毎年3学期に学校運営協議会委員を含む地域、児童、教職員、保護者の方が一堂に会して直接子どもたちの意見や要望を聞き、意見交換を行う会を開催**している。昨年度は5年生全員が参加して「悪いことを見つけたら注意してほしい」「楽しいことを(地域のひと)一緒にしたい」「野球の出来る環境を作してほしい」などが出た。これを受けて児童を除く3者懇話会を開催し、**子どもの声をどう実現するかをテーマに連携した取り組みを熟議している。**

★GTA (Grandfather、Grandmother&Teacher Associationの略)

会見小学校運営協議会発足初期から組織された**祖父母と先生の会**。教育課程内に計画された活動に保護者がなかなか参加できない課題を解決するために組織されたが、**現在は祖父母に限らず地域住民全体に対象を広げている**。メンバーは苗植え、米作り、そろばん、裁縫、調理などの授業支援に多数関わっている。

★セカンドスクール (通学合宿)

異学年の子どもが地域の方々の協力を得て、青少年教育施設で一定期間宿泊まりし、自分たちの力で炊事や洗濯、学習などを行いながら学校に通う活動。新型コロナ以前は、**子どもの自立をねらいとして数日間の「セカンドスクール」と称する通学合宿を主催していた**が、コロナにより中断。現在は学校運営協議会と連携し、宿泊研修支援として復活、継続している。

成果・効果

◆教育課程の中に地域との交流場面が計画的に設定され、地域との協働が増えたことにより、毎年継続的にほとんどの子どもが「**会見の地域が好き**」と答えている。
◆「**地域の人と一緒に活動することが好き**」な子どもが例年8割を超えており、普段の授業における「**みんなと学習することは楽しい**」と感じる9割の子どもたちの下支えとなっている。



4者懇話会では、いくつかのグループに分かれ子どもたちと大人が意見交換を行います。



GTAが様々な体験活動を支えています。



指標1	指標2
会見の地域が好き (肯定的な回答)	みんなと学習することは楽しい (肯定的な回答)
児童	児童
R3 94%	89%
R6 93%	90%

島根県益田市

学校

益田市立西益田小学校

学校運営協議会

西益田小学校学校運営協議会

令和3年3月1日 設置

委員構成

地域コーディネーター

PTA会長・前会長

保育園代表者

放課後児童クラブ代表者

公民館職員

など 9名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部

西益田地区つろうて子育て協議会

いいまちにしますダ！つろうて子育てプロジェクト ～大人も子どももまちづくりの主体者になろう～

背景・取組概要

- ◆西益田地区は学校運営協議会の設置前から、学校と地域の連携・協働が公民館を中心に盛んに行われてきていた。地域学校協働本部にあたる「西益田地区つろうて子育て協議会」において、活動の見える化を行った際に、『子どもも大人も「まちづくりの主体者」になろう！』というスローガンが誕生した。この流れで、地域住民が学校運営に携わる“主体者”としての仕組みである、学校運営協議会が設置されることは、地域としてもごく自然なことであり、地域全体で子どもを育む取り組みをさらに進めるきっかけとなった。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆学校運営協議会
 - ・地域学校協働本部のスローガンを土台とした学校教育目標になるように整理をされ、西益田地区で目指す子ども像がより明確に共有された。
 - ・子どもたちが委員に「やってみたい」という想いをぶつける場を設けた。委員は子どもたちの考えを傾聴し、問いかけを行うなかで、子どもたちの考えが整理され、学び多き時間となった。今後は、委員でもある地域コーディネーターを中心に、実現に向けた動きをつくっていく。
- ◆地域学校協働活動
 - ・保育園児から高校生までが多様な地域資源（ひと・もの・こと）にふれることができる学びの場が体系的に作られている。縦のつながりの中で、子どもたちは上級生の姿をみて憧れをいただき、その連鎖が地域の中で起こっている。
 - ・地域で育った子どもたちからは「やってみたい」という想いが芽生え、上述した学校運営協議会で提案する動きが生まれている。
 - ・子どもたちを中心に共に活動していた保護者の「やりたい」が芽生え、教育に関する映画の上映会や学校図書室のリノベーションといった活動が生まれ、結果として子どもたちに還元されている。
- ◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働本部からの推薦を受けたメンバーが、学校運営協議会委員となっている。従って、日頃から子どもたちに関わり、地域での子どもたちの様子を理解している委員ばかりである。よって、学校運営協議会でも、子どもたちの名前を呼び合って、情報共有が行われ、学校だけではなく、多様な視点で子どもたちを真ん中に据えた熟議が行われている。



成果・効果

- ◆地域コーディネーター（社会教育コーディネーター）が子どもを中心に据えて、丁寧に学校と地域をつないでいくことで、それぞれのやりたいことが実現したり、それがさらにつながったりしている。
- ◆島根県学力調査（2023）では、「地域の行事に参加している」という問いで肯定的な回答群が66.7%（県平均54.5%）となっており、地域で活動することが当たり前の文化になってきている。
- ◆本校を卒業した中学生の職場体験面接時に「地域の活動で成長した」「地域に憧れの人がいる」など、地域に関する話を生徒が他の中学校よりも多く、地域で学び、成長した様子が見受けられる。

島根県雲南市

学校

雲南市立木次中学校、雲南市立木次小学校、雲南市立斐伊小学校、雲南市立寺領小学校、雲南市立西日登小学校

学校運営協議会

木次地区学校運営協議会

平成31年4月1日 設置

委員構成

- 各地域自主組織代表
 - 主任児童委員・民生委員代表
 - 社会教育委員代表
 - 企業代表
 - スポーツ少年団代表
 - 行政代表
 - 保こ小中PTA代表
 - 保こ小中教職員代表
- など 33名

会議回数

年間3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 4名 (0名)

地域コーディネーター 1名 (0名)

地域学校協働本部

木次地区地域学校協働本部

「一緒に話そう！」同じ目線で協働する地域へ

背景・取組概要

◆平成31年度に木次地区学校運営協議会を設置。「桜咲く15の春をめざして」を合言葉に、中学校卒業時の生徒像を学校・家庭・地域で共有し、そこに向かって対話を重ねながら「地域で子どもたちを育てていこう！」という一体感を醸成している。また、子どもをまんやかに置いた話し合いを進めるため、組織体制の見直しや会議内容の工夫を随時行っている。

→「めざす子ども像」を共有し、対話することを大切にしながら、同じ目線で協働する地域をめざす。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

以下の3点をポイントに、年間3回意見交換を行っている。また、学校運営協議会委員と中学校生徒との対話の時間を取り入れ、こどもの姿をまんやかに置いた話し合いを行っている。

〈共有〉こどもとの関わり（学校の中、外）で見える姿を共有しましょう

〈対話〉課題を見つけたり、何ができるのかいっしょに話して考えていきましょう

〈連携〉子どもたちの学びの充実のためにできることは連携して取り組みましょう

◆地域学校協働活動

木次中学校の生徒が地域を訪問する形でのボランティア活動「地域へGo toボランティア」を令和3年度より実施している。地域自主組織主催の行事や小学校の環境整備作業等の手伝いとして中学生の希望者が自主的に参加している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

こどもの教育活動に関わるメンバーを学校運営協議会委員として任命するとともに、地域コーディネーターも学校運営協議会の話し合いの場に参加し、地域学校協働活動の取組や児童生徒の様子を伝えることで、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図っている。また、「地域へGo toボランティア」に参加した生徒と委員が対話することを通して、子どもたちの声や思いを取り入れた取組へとつなげている。



成果・効果

- ◆生徒のボランティア参加者が年々増加し、令和5年度は延べ243名が参加、令和6年度は9月現在で延べ350人が参加している。また、中学生の姿をロールモデルとして、「中学生になったら自分もボランティアに参加したい」と考える小学生が出てきている。
- ◆生徒の地域への貢献意欲に関する調査について肯定的な回答が多くみられ、主体的に社会のために行動しようとする生徒が増加したと考える。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
※令和6年度 全国学力・学習状況調査より（肯定的な回答）

木次中	雲南市	島根県	全国
86.1%	84.3%	78.2%	76.1%

地域や社会をよくするために自分にもできることがあると思う
※雲南市児童・生徒実態調査より（肯定的な回答）

R3年度1年生	R5年度3年生
71.9%	78.1%

岡山県高梁市

学校

福地小学校・福地幼稚園

学校運営協議会

福地学園学校運営協議会

令和元年5月22日 設置

委員構成

保護者・PTA関係者
地域住民
元中学校校長
公民館長
地域学校協働活動推進員
など 10名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

地域コーディネーター0名(0名)

地域学校協働本部

福地地域学校協働本部

小規模校の強みを生かした、地域と学校の連携・協働

背景・取組概要

- ◆ふるさとを愛し、未来に向かって挑戦し、やり抜く児童の育成を目指した。そのために、小規模校の強みを生かし、地域とともに創る教育活動を行い、多様な大人とやりとりする機会を増やすことで、児童の非認知能力を育成したり、郷土愛を育んだりする必要があった。

→小規模校の強みを生かした、地域と学校の連携・協働

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

子供の主体的な活動を支えるために、**会の始めに児童が取り組みたいことについて、委員に発表する場を設けている。**その発表内容を受け、児童の思いを実現するために必要なことなどについて協議している。児童の発表内容は○地域資源を生かして取り組みたいこと、○楽しい学校生活をみんなで実現だ！プロジェクト、○地域の方と仲良くなるために、などである。その中で実現したのが「福地のコハク」の開発で、地元製菓や企業、高校等と連携し、PRの仕方や商品の販売等について学んでいる。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員のコーディネートの下、プール清掃や学習発表会の舞台の組み立てなど、多くの環境整備を行い、**学校の働き方改革へとつながった。**また、福地をもっと知ってほしいと紹介動画を作成する際には、地域の良さを話すことのできる地域住民をコーディネートし、自身も積極的に活動へ参加するなど、学習支援も熱心に行っている。**園児・児童共同で行う野菜植えや収穫作業においても準備から収穫までの段取りを行い、子供の飼育栽培活動を支援した。**

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員となり、協議内容をもとに、地域住民をコーディネートしながら活動へと展開している。児童の発表内容をもとに、学校運営協議会委員と教員、児童でワークショップを行い、それぞれの意見を交流しながら、地域と学校が連携・協働し同じ方向性で教育活動の充実を図っている。



成果・効果

- ・児童・教職員、保護者及び地域住民で熟議を行った結果、関係者のつながりが一層深まった。今後の学校園や地域の夢・理想の姿を共有することができた。
- ・児童が主体的に企画をしたことを地域学校協働活動推進員をはじめとした地域住民がサポートすることで児童の自己肯定感や自己有用感、社会性、コミュニケーション能力など非認知能力の向上が図れた。

岡山県美咲町

学校

美咲町立旭学園

学校運営協議会

旭学園学校運営協議会

令和5年4月1日 設置

委員構成

地域住民
PTA会長
地域学校協働活動推進員
自治会長協議会長
スポーツ推進員民生委員
教師OB
地元企業代表
校長
保育園長
教育委員会生涯学習課長
など 16名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 1名 (1名)

地域学校協働本部

旭学園地域学校協働本部

ふるさと旭をフィールドにした郷土学習 A C T (Asahi Create Time)

背景・取組概要

- ◆児童・生徒数の減少を見据え、小学校と中学校を統合し、令和5年度より義務教育学校となった。少人数であるため、学習や生活において多様な見方や考え方に合う機会が少なく、住居が点在していることもあり、友達同士の関わりも学校外では少ない。そのため、地域のさまざまな人と関わりながら、多様な見方に触れ、自分や友達、旭地域の良さに気づく必要がある。

→ふるさと旭をフィールドにした郷土学習 A C T (Asahi Create Time)

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

子供たちの豊かな学びや体験を充実させるために、地域学校協働活動推進員やPTA、教育委員会など多様な委員による会議を年6回行い、その中での熟議もテーマを決めて行っている。令和5年度には、生徒からの地域活性化に関する提案についてや、郷土学習 A C T (Asahi Create Time) の今後について等の協議を行っている。

◆地域学校協働活動

ふるさと旭に愛着をもち、地域と主体的に関わりながら、地域社会の発展・活性化に貢献しようとする郷土学習 A C T (Asahi Create Time) を、生活科及び総合的な学習の時間の年間指導計画の中に位置づけている。教職員と地域学校協働活動推進員が連携を図り、関連する地域や人材、見学先等、具体的な支援について相談し、実際のコーディネート地域学校協働活動推進員が担い、多様な地域住民が郷土学習に参加・参画している。また、土曜日教育支援「のびのびサタデー」や放課後学習支援「寺子屋あさひ」、英語教育支援など、郷土学習以外の地域学校協働活動も充実している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員となり、協議内容をもとに、地域住民をコーディネートしながら活動へと展開している。また、学校の校内研修に地域学校協働活動推進員が参加し、地域学校協働活動の重要性について教職員に説明を行い、地域と学校の連携・協働について理解を深めている。



成果・効果

- ◆地域の良さ・課題を取り上げた「地域活性化・貢献」の具体イメージを、旭地域の方々と共有することができはじめた。
- ◆地域学校協働活動推進員のコーディネートにより全学年で地域人材の参画ができた。
- ◆休日の活動は、地域のイベントとして実施するなど、地域学校協働活動との協働ができた。

⇒地域と学校の連携を図ることで、地域の役割が明確化され、子どもたちの自主的な活動を育むとともに教職員の負担軽減にもつながっている。

広島県尾道市

学校

尾道市立瀬戸田小学校
尾道市立瀬戸田中学校

学校運営協議会

瀬戸田小学校・中学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

小学校・中学校PTA役員
公民館長
放課後児童クラブ総括支援員
大学教授
元学校教員
地域住民

など 9名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働活動
瀬戸田中学校区
地域学校協働活動

地域と学校が共に支え合うコミュニティ・スクール

背景・取組概要

スクールミッション「地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展～コミュニティ・スクール事業の推進」
瀬戸田中学校区の強みは、地元の小・中・高校をかけがえのないものとして大切に思い、守り育てようとする地域の存在である。
「子どもたちは島の宝物」という思いをもって島内の1小1中1高の教育を充実してほしいという島民の切なる願いと、支援を惜しまない人々の存在がスクールミッションの実現を支えている。地域と学校のオール瀬戸田で未来を担う子供を育てている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

○学校運営協議会

本学校運営協議会では、継続して学校の教育活動に参画するためには、「頑張らない、無理をしない、続けられることをする」という意識が大切であると委員で共有している。年間4回行われる学校運営協議会の場に学校から出された課題や困り感を、委員が自分事として受け止め熟議を通して学校運営の改善につなげている。コーディネーターは、学校との連携を密にとりながら、教育課程内外の活動に多様で適切な人材がボランティアとして参加できるよう地域や商店街等に働きかけ、学校と地域のつなぎ役として欠かせない存在になっている。

○地域学校協働活動

学習支援の会は、「夏休み中地域に友達がいない。一緒に宿題をしたい。」という児童・保護者の希望や、宿題指導ができないという学校の困り感の解決策として学校運営協議会で計画し、委員とボランティアだけで運営している。元教師や退職後瀬戸田に移住した人が指導者となり、児童との触れ合いにやりがいを感じている。夏休み中の6日間、連日120人を超える児童が参加し、分からないところを教えてもらったり、作品の更なる工夫をしたりして宿題を完成させた。

○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会委員が地域学校協働活動に参加し、成果や課題を持ち帰り具体的な改善策が練られることで学校と地域の連携がより深まり、活動が改善され充実している。委員は、日常的に学校を訪問して情報の共有を行っているので、自分ができることはすぐに行動しており、学校運営協議会では自分事としての発言が交わされている。

例えば、地元商店街を元気にしたいという5年生の思いを受けたコーディネーターの働きかけにより、しおまち商店街応援プロジェクトが立ち上がった。「しおまち商店街パンフレット」の作成に商工会理事をはじめ商店街を挙げての協力が行われた。完成したパンフレットは、商店街各店をはじめ公民館やしまおこし課等に掲示されている。今後、商店街の包み紙にできないかと取組の発展を目指した計画が練られている。



成果・効果

- 「家庭では教えることが難しい科学研究や読書感想文などの指導をしてもらえるのでありがたい。地域に友達がいない。学習支援の会に行けば友達に会えるので、子供から行きたいと言ってくる。プールの地域開放日と重なったので、2倍楽しかったようだ。来年度も是非続けてほしい。」など、保護者から感謝の声も寄せられ、学校と地域の一体感が増している。
- アンケート(R5)の結果、児童の97.9%が“ふるさと学習は楽しい”と回答しており、生徒の82.9%が“住んでいる地域が好き”と回答している。このことから、児童・生徒は“ふるさとで学ぶ、ふるさとを学ぶ、ふるさとの人と学ぶ”ことの良さや、楽しさを感じていることが分かる。また、保護者の83.7%が“子供はふるさとが好きと思っている”と回答しており、地域と学校が協働して行う活動を保護者も好意的に受け止めている。

広島県三次市

学校

三次市立三次中学校
三次市立河内小学校・三次小学校

学校運営協議会

三次中学校区学校運営協議会

令和4年3月31日 設置

委員構成

PTA
三次市社会教育委員
三次地区自治連合会会長
河内地区まちづくり連合会会長
一般社団法人三次ビジョン2040
三次本通り商店街振興組合理事長
民生児童委員 母子推進委員
三次地区体育振興会会長
など 17名

会議回数

年間平均 4 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1 名（0 名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

三次中学校区 地域学校協働活動

コミュニティ・スクールを活用した「社会に開かれた教育課程」の取組

背景・取組概要

当中学校区は、令和４年度に三次市教育委員会からコミュニティ・スクールモデル校指定を受け、地域に開かれた学校づくりに先進的に取り組んでいる。また、以前から三次市においては、小中一貫教育の充実を図り取組を行う中で、当中学校区において「**みよし学園地域支援懇話会**」を開き、学校・地域・保護者を交え、**子供たちが20歳になった時になってほしい姿や中学校卒業時に身に付けておくべき資質・能力**について熟議を行った。その意見を整理し、「**主体性**」「**コミュニケーション能力**」「**協調性**」という身に付けさせたい３つの資質・能力を設定し、学校運営協議会を中心に学校・地域・保護者で協働しながら「**社会に開かれた教育課程**」の充実を図ってきた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会との熟議による社会に開かれた教育課程の実現

○三次中学校 第2学年 総合的な学習の時間「職場体験学習」
「地域に根付き、地域に貢献されている職業から学ぶ～自らの資質・能力をさらに向上させるために～」を目的として実施した。そこで学校運営協議会の方との熟議を行い、実施趣旨の確認や、身に付けたい資質・能力の確認を行い、各事業所への実施依頼を委員の方にしていただいた。単に仕事を体験するだけでなく「3つの資質・能力」についても意識してもらい、学校からも再度振り返りを行うことで、以前よりも充実した取組となった。

○河内小学校 第1・2学年 生活科「地域郷土学習」

1年生は「自然との関わりに関心をもつこと、地域の自然やくらしの良さに気づき大切にすること、自分たちの遊びや生活を工夫できること」、2年生は「地域にある野菜に関心をもつこと、世話をする中で、生命があることや成長していることに気づくこと、地域のよさに気づき愛着を持ち、継続的に育てることができる」を目的として実施した。事前に生産者の方と学習の目的や栽培にかける思いなどを熟議した結果いろいろな場面で協力をいただき、充実した取組を進めることができた。

○三次小学校 第3学年 総合的な学習の時間 「ふるさととはっけん～三次探検隊～」

三次唐蕎麦焼きを町おこしとして活動されている様子を調べる活動を通して、三次の良さを知り、自分の住んでいる地域に誇りを持つことを目的として実施した。学校運営協議会と学習の目的などを事前に熟議し取組を行った結果、児童は「三次唐蕎麦焼きは、三次の良さに誇りを持ってほしいという願いが込められて作られていた」ということを知り、今後多くの人に知ってもらうために自分ができることについて考えていきたいという思いをもつことができた。

成果·效果

- ・資質・能力について学校運営協議会と地域住民との熟議により策定したことにより、目指す子供像と身に付けさせたい資質・能力について意識の共有が図られた。
- ・**児童生徒による資質・能力の自己評価**では、特にコミュニケーション能力や協調性において、大きな向上が見られる。また、**保護者の学校満足度**が非常に高まっている。
- ・地域連携カリキュラムの検討の段階から、地域学校協働活動推進員が中心となって学校と地域をつ
- ・児童生徒が学習を通して地域づくりの取組に参画できる仕組みを作ったことで、当事者意識が高まり
- ・学校運営協議会での熟議を通して、学校・保護者・地域が一体となった取組の成果について評価す



身に付けさせたい資質・能力 R3とR5との比較		本校に入学してよかった	
コミュニケーション能力	協調性	生徒	保護者
+9.2pt	+15pt	93.6%	92.5%

広島県

学校

広島県立日彰館高等学校

学校運営協議会

日彰館高等学校学校運営協議会

令和元年 7月12日 設置

委員構成

同窓会会長
自治振興会連合会事務局長
地元行政職員
地元中学校長
大学職員
保護者・PTA関係者
など 7名

会議回数

年間平均 6 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名（0 名）

地域コーディネーター 1 名（1 名）

地域学校協働活動

日彰館高等学校地域学校協働活動

「衆縁和合」による教育活動の広がり

背景・取組概要

◆「自立・協働」を教育目標とし、自他の尊厳と価値観を認め、協働して物事を進める生徒、探究心を持って生涯にわたって学び続ける生徒の育成を目指す。そのため、地域や世界と関わる機会を増やし、多様な背景や価値観等に接し、尊重すること、地域の実情を知り、その課題を自分事として解決を考えること、これらを教育課程として編成するために多様な視点や人材、支援が必要であった。
⇒**吉舎をフィールドとした、「日彰館だから」「吉舎だから」できる学びの実現を「社会に開かれた教育課程」によって目指す。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆**学校運営協議会**
年6回開催する学校運営協議会では、育成したい生徒像の共有をもとに、地域の課題を探究的な活動の題材につなげる等の協議がなされ、地域と連携した教育活動の可視化・共有ができています。また、各委員には学校運営協議会への参加だけでなく、下記のような**本校の教育活動に直接的、間接的に携わってもらっている。**

- 大学職員の委員を講師とした「台湾講座」
- 自治振興会と連携したイベントのボランティア活動
- 地元中学校を中心とした吉舎地区の保育所、小学校、高校が連携した教育活動の推進 等

◆**地域学校協働活動**
過疎化が進む吉舎地区において、高校生により深く地域を知ってほしいという地域と学校の願いから、地元行政、自治振興会、活性化団体が、それぞれの立場で地域の課題と魅力を語ってもらう会をもっている。それを踏まえて、生徒が地域について知っていることをまとめ、フィールドワークを行っている。こうした取組は、留学生を招いて実施する国際交流イベント「吉舎おもてなしプラン」において、自分たちの文化や地域の魅力を紹介することにつながっていく。

地域の方からの学びが、地域の課題を自分事ととらえ、将来にわたって地域社会の維持・発展に寄与する人材の育成のスタートとなっている。

◆**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施**
学校運営協議会から出た協議内容を**各委員の所属等に持ち帰り、検討したり活動につなげたりしてもらっている。**

- 具体的に、下記のような活動として地域の活性化につながる取組となった。
- 同窓会：生徒を主体とした周年行事の実施、吉舎駅の活用
 - 三次市吉舎支所：第3次三次市総合計画における支所での取組における日彰館支援の検討 等
- また、吉舎地域では毎月1回、地域の行政、自治振興会、文化団体、学校など約30の団体が集まって情報交換会を行っている。そこで得た情報や人脈を教育活動の更なる充実に活用している。

成果・効果

◆学校運営協議会を軸に、**学校と地域がこれまで以上に協働**するようになり、その広がりができた。

◆**地域の良さに気づき、地域や学校に愛着を持つ**生徒が高い割合で存在し、地域を支える人材を育成できている。

生徒アンケート（３学年）の肯定的な回答		R3	R4	R5
指標1	地域に関する学習や地域活動を行うことで、地域のよさに気づくことができた	93.3%	92.6%	90.2%
指標2	通っている高等学校の地域が好きである	86.6%	89.7%	82.9%



山口県防府市

学校

防府市立佐波中学校

学校運営協議会

佐波中学校学校運営協議会

平成24年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
自治会会長
スポーツ協会会長
防府ユネスコ協会副会長
ほうふ幸せますコンシェルジュ
民生児童委員 保護司
小学校教員
など 15名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名(2名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

笑顔がつなぐみちざねっと

あたたかみがあり、ひたむきに未来を切り拓いていく生徒の育成

背景・取組概要

◆ R4 全国学力・学習状況調査の質問調査から、身近な大人への信頼や自己肯定感が低く、自信をもてない生徒が多いという実態が明らかになった。その反面、各教科の学びは自分にとって「大切で、役に立つ」と肯定的に捉える生徒の様子もつかむことができた。学びへの期待感をもち、よりよい自分へ成長したいと願う、佐波中生の前向きで健やかな気持ちを学校の強みと捉え、そこに光をあてたいと考えた。

⇒**生徒一人ひとりが自信をもって発信し、大きく前進する「学校づくり」「地域づくり」をめざす**

各教科に関する興味・関心等の状況

	好き	大切	授業理解	役に立つ	活用
国語	65.1 -0.9	91.9 -2.2	84.9 0.8	90.7 -0.2	
数学	48.8 -12.5	84.9 -3.6	72.1 -7.7	82.6 -3.3	50 0.3
理科	46.5 -24.1	80.2 0.1	62.8 -24.6	69.7 4.2	57 1.9

上段：佐波中・下段：県との比較

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

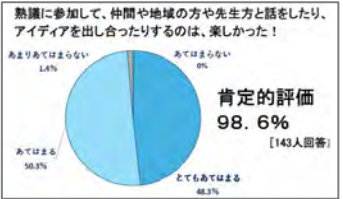
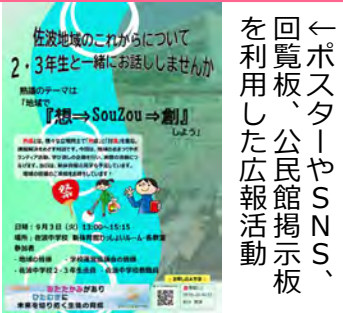
委員と生徒会役員による報告質問会、学年生徒全員が参加する熟議を、年2回ずつ行っている。学力熟議では、まず、生徒の学力の課題を地域と一緒に共有した。「苦手な分野をつまずいたところまで戻って学びたい」という生徒のリクエスト、「生徒の学力の課題は、家庭、地域の課題である」という地域の声が合致し、**「学び直し」**を企画・運営、リニューアルを続けて4年目を迎える。

◆地域学校協働活動

2、3年生全員参加による企画型の熟議を実施し、「公民館まつり」「コンシェルジュ体験で防府をPR」「佐波クリーン大作戦!」「子ども食堂」等の7グループで、企画から運営につなげる話し合いを行った。地域学校協働活動推進員は、地域の団体関係者のニーズを把握して、それぞれの企画が生徒主体の活動につながるよう働きかけや助言を行った。熟議で話し合った内容の実現に向けて、各関係者や地域連携教育担当教員との連絡調整を密にし、支援を続けている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

1つの小学校が2つの中学校に分かれて進学するため、**中学校区をひとまとまりにした地域協育ネット「みちざねっと」**の枠組みを活用し、**共通実践項目**を中学校区同士で共有することで、子どもたちの連続した育ちや学びをめざしている。今年度から、**隣接中学校区である「国府ふるさとネット」との合同協議会**を行い、各校の地域連携教育担当教員と地域学校協働活動推進員が中心となって、さらに大きな枠組みのなかで、学校づくりと地域づくりを一体的に実施している。



成果・効果

◆ 学力熟議から生まれた**「学び直し」**は、毎回多くの学習支援ボランティアが参加する大切な行事へと成長した。地域学校協働活動推進員や学校運営協議会委員が働きかけ、**活動は小学校や隣接中学校区に広がっている**。ユニット型研修への関心も生まれ、**授業改善**にもつながった。

◆ R6 全国学力・学習状況調査で、**学力とともに「学習が好き」と答える生徒の数値が大きく伸びた**。熟議の振り返りでは、「自由な発想がアウトプットされる素晴らしい討論で楽しかった」という地域の声も聞かれた。学校評価アンケートも、「行事や活動に生徒の主体性が生かされている」「地域の方と学んだり関わったりする機会を設けている」の項目が生徒、保護者ともに大きく上昇しており、**安心感のなかで生徒が自信をもち始めている手応え**を感じている。

	国語が好き	数学が好き
R4	65%	48%
R6	79%	69%

山口県岩国市

学校

岩国市立由宇中学校

学校運営協議会

由宇中学校学校運営協議会

平成22年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
民生児童委員
自治会長
社会福祉協議会関係者

など 15名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名
(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

結愛ネット

「運動・スポーツで、地域を元気いっぱい！」～由宇中学校区の取組～

背景・取組概要

【背景】

- ◆コロナの影響が続いており、地域における高齢者の健康づくりに関する活動が停滞しているという情報が、結愛ネットメンバーから学校へ寄せられた。(地域課題)
- ◆中学生が高齢者サロンを体験し、サロン参加者にインタビューする中で、地域の方が中学生との交流を望んでいることを知った。
- ◆中学校の文化祭で「文化祭ふれあい講座」(15講座)が開催され、生徒は「子どもと大人との学び合い」のよさや楽しさを体験した。

【取組概要】

- ◆学びの成果を地域のために活かし、地域課題を解決するため、生徒が高齢者サロンにて「多世代が楽しめる運動」を提案した。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆「子どもの学びプロジェクト会議」における熟議

由宇中学校区では、4小中学校の児童生徒が共通の課題について考えることで、地域連携を深めるとともに、小中の円滑な接続をめざす活動として、「子どもの学びプロジェクト会議」に取り組んでいる。令和5年度は、「中学校区の健康・体力向上のためにできること」をテーマに熟議を行った。熟議内容は、学校運営協議会委員や結愛ネットのメンバーとも共有されている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

学校と結愛ネット(地域学校協働本部)のメンバー(ゆうスポーツクラブ、由宇社会福祉協議会等)との連携・協働により、中学生による高齢者サロンにおける「多世代が楽しめる運動」の提案が行われた。中学生と一緒に元気いっぱい、笑顔いっぱいに活動する高齢者の様子や成果が他の高齢者サロンに広がり、令和6年度も、高齢者サロンにおける生徒と地域の方々による健康・体力向上のための取組が継続されている。

◆子どもの自己有用感を育む取組

生徒による高齢者サロンにおける「多世代が楽しめる運動」の提案のほか、由宇駅前花植えボランティアや子ども食堂ボランティア等、地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、子どもの自己有用感を育む取組が展開されている。



成果・効果

- ◆高齢者サロンにおける「多世代が楽しめる運動」の提案が、新たな地域貢献活動に位置付けられた。生徒との交流を希望する高齢者が増え、高齢者の地域活動の活性化へのきっかけとなった。
- ◆子どもと大人の学び合いによる地域学校協働活動の推進により、「地域の担い手」としての意識が子どもの中に芽生えてきたり、子どもの「郷土への誇りと愛着」が育まれたりしている。

山口県

学校

山口県立下関北高等学校

学校運営協議会

下関北高等学校学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

CSチーフ
市役所総合支所 次長
まちづくり協議会 会長
市商工会 支部長
観光協会 会長
民間団体 代表
中学校 校長
小学校 校長
など 15名

会議回数

年間7回
(内、部会4回)

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (0名)

地域コーディネーター 1名 (1名)

地域学校協働本部

つながりネット

地域とともに学校をつくる 子どもとともに地域をつくる

背景・取組概要

◆少子化や過疎化による生徒数の減少の課題を抱える本校として、学校の魅力化を図ることにより、地域から愛される学校・生徒として、スクール・ミッションに掲げる「地域・社会の発展を担う、人間性豊かな人材を育成する」目標の達成をめざす必要がある。
→ 地域社会や幼保・小・中との連携を推進することにより、地域を愛し、地域から愛される生徒の育成をめざす。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校設定教科「地域探究」における地域と連携した取組
「歴史・文芸」、「観光・産業」、「環境・自然」、「安全・防災」、「保育・福祉」のグループごとに、地元の関係機関等と連携し、フィールドワークや実習等のリアルな体験をしながら、多様な他者との協働的な学びの中で、探究活動を実践。

◆甦れ！通学のまち バック・ツー・ザ・フューチャー プロジェクト
卒業生等で構成される「北高夢ロード実行委員会」や「J R等と連携」し、地元河川における生物調査やクリスマス装飾、門松設置等の各種プロジェクトを実践。

◆今からネットプロジェクト
「幼保・小・中連携」の取組として、地元のこども園の園児とのおやつ作りや、小中高合同の清掃活動、本校生徒と小・中学生との「熟議」を実施。

◆ハロかぼプロジェクト
地元の花卉農家と連携して、ハロウィンで使用される観賞用のかぼちゃを活用した地域の活性化に向けた取組。研修会を実施し、マルシェを開催。

◆CSチーフ（地域コーディネーター）・CSサポーター（地域学校協働活動推進員）の積極的かつ効果的な活用
CSチーフとCSサポーターの協力により、「学校運営協議会」が活性化している。
また、両者により地域の関係機関等との連携が円滑に行われ、「地域探究」等のカリキュラム開発が図られ、学校運営の推進や教育課程の改善等に、とても役立っている。



成果・効果

◆学校運営協議会の活動を通じた学校と地域の効果的な連携・協働体制を構築することができた。

◆下関市北部唯一の普通科高校として新たに求められるミッションを、地域の実態とニーズを踏まえて明確にすることができた。

◆人口減少・人口流出など、学校の課題と直結する地域の課題の解決や地域の活性化に向けた取組を積極的に推進することができた。

	(本校では) 他の高校では体験できない特色ある教育活動に取り組んでいる。		(生徒の) 地域やそこに住んでいる人々への愛着や誇りが高まっている。	
年度	生徒	保護者	生徒	保護者
R2	43(87) %	33(79) %	48(86) %	29(74) %
R5	51(84) %	52(90) %	49(87) %	41(88) %

「そう思う」の回答割合 ※ () 内は肯定的な回答割合

徳島県

学校

徳島県立板野支援学校

学校運営協議会

徳島県立板野支援学校
学校運営協議会

令和3年4月26日 設置

委員構成

大学教員
社会福祉法人役員
県相談支援専門員
医療関係
地域住民・人権擁護委員
保護者・PTA関係者
校長
など 8名（令和6年度）

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名（0名）

地域コーディネーター 4名（3名）

地域学校協働本部
徳島県立板野支援学校
地域学校協働本部

地域資源を再生する特別支援学校の取組 ～「規格外にんじん」の活用～

背景・取組概要

- ◆学校教育目標 児童生徒一人一人の人権を尊重し、教育的ニーズに応じた指導をとおして豊かな生活を支援するとともに、積極的に社会に関わり、自己実現をめざす人間を育成する。
- ◆学習指導要領では、特別支援学校においても「社会に開かれた教育課程」を実現することで、地域や保護者とさらに連携を深め地域とともに児童生徒を育成することが求められている。そこで、学校運営協議会を設置して、地域や関係機関との双方向の情報共有を進めて児童生徒の教育活動を地域に広げ、地域での役割を積極的に担うように取組を広げていく必要があった。
→これからの特別支援学校の在り方として、**「地域に教育課程を開き、児童生徒が地域の資源を生かしたり、地域のよさを発揮したりする役割を担うことができる特別支援学校」を目指していく。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

板野支援学校では、令和3年度の学校運営協議会設置当初より、①安全・安心な学校づくり、②児童生徒に応じた教育活動、③保護者や関係機関等と連携した教育の推進等、学校運営協議会委員から、**「地域資源の活用を中心に、学校重点目標」に沿った様々な取組案や連携先等の紹介・提言**を受け、学校運営に努めてきた。令和4年度の学校運営協議会で、**学校近隣の畑で、地域の特産であるが、「規格外」として処分されている状況のにんじん活用が話題**となった。**委員より「規格外」にんじを、無償提供いただける地域の農園や、にんじんをパウダー化できる設備がある他の福祉事業所の紹介**があった。

◆地域学校協働活動

「廃棄にんじんを救おう チャレンジ！」の名称で、令和5年度より「規格外にんじん」再生の活動を始めた。さらに、他の福祉事業所よりパティシエを派遣いただき、生徒と共にパウダー化した「規格外にんじん」のレシピを開発して、校内のカフェで、にんじんスイーツの試作品を紹介した。

令和5年12月には、**近隣の道の駅「いたの」を会場として、にんじんパウダーを用いて調理したスープパスタ130食、にんじんクッキー50個を提供するイベントを開催**できた。イベント当日は、**生徒が一人一台端末で制作したポスターを掲示したり、これまで「規格外にんじん」の再生に取り組んできた生徒の様子を、県のキッチンカー「でり・ばりキッチン阿波ふうど号」のモニターで紹介**したりすることもでき、地域住民をはじめとする多くの方に特別支援学校の理解・啓発を進める機会ともなった。

令和6年度には、**「規格外にんじんを救おうプロジェクト！～Let's REBORN 板野支援学校～」と取組を改称し、中学部生徒も活動に参加して、学校全体の取組として進めている**ところである。



成果・効果

- ◆学校所在地である板野町の特産であるが、処分されてきた「規格外にんじん」の活用方策が、学校運営協議会が発端となり、また、**生徒の主体的な活動を通して、「規格外にんじん」の収穫・調理・加工、さらに道の駅「いたの」での提供へと、学校と地域がこれまで以上に協働するようになった。**
- ◆**地域住民を含む委員のネットワークを生かして、学校の取組に協力いただける農園や福祉事業所、また道の駅等を紹介いただき、生徒が役割を担いながら地域特産物のよさを改めて学ぶ機会となった。**



徳島県三好市

学校

三好市立池田中学校

学校運営協議会

池田中学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
公民館関係者
地域団体（青年会議所）
地域住民（元教員など）
小学校関係者
教職員

11名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 3名（3名）

地域コーディネーター 0名（0名）

地域学校協働本部

池田中学校サポーターズクラブ

ジオパークとSDGsによる人と環境にやさしい学校

背景・取組概要

本校がある三好市は、徳島県西部に位置し、過疎や少子高齢化により、人口減少が著しい地域である。そのような地域において持続可能な地域づくりを考えることや、課題を発見し、主体的に行動できる生徒の育成を目指した取組が必要であると考えた。

『ジオパークとSDGsによる人と環境にやさしい学校』を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

年に3回開催しており、そのうち1回は授業を参観し、生徒の様子について意見交換をする。直近のテーマは、○ポジティブな行動支援の取組、○学校支援活動、○地域と連携した取組などである。小学校関係者が委員に加わったため、小中学校の連携についても今まで以上に検討していくこととなった。

◆地域学校協働活動

三好市が推進しているジオパーク構想と連携した、郷土学習や防災学習を推進し、行政や防災士会など、地域と連携・協働した取組を進めている。フィールドワークを含めたジオパーク学習の学びから、毎月25日を「池田城の日」と定め、学校周辺の史跡の清掃活動を生徒と教職員が行っている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働本部のコーディネーター（地域学校協働活動推進員）が学校運営協議会委員となっており、学校のニーズに応じた支援活動につながるよう、ボランティアに声かけをしコーディネートしている。コーディネーターの中には、公民館関係者もあり、公民館の講座参加者にも学校のニーズを説明し、支援活動の拡充につなげている。



成果・効果

- ◆三好市が推進するジオパーク構想と学校の郷土学習のねらいがマッチし、学校と地域の連携・協働により地域を大切にする態度や誇りに思う態度が養われており、持続可能な地域づくりについて、主体的に考え、行動しようとする力がついてきている。
- ＜生徒の感想＞
知らなかった昔のこと等を知ることができてよかった。いろいろなイベントに積極的に参加して、さらに三好市の伝統を知り、その伝統を次の世代に伝え、三好市に少しでも興味をもってもらえるようにしていきたい。

香川県高松市

学校

高松市立十河小学校

学校運営協議会

十河小学校学校運営協議会

令和5年4月1日 設置

委員構成

・校長、教頭2名、現職教育主任
・PTA会長、副会長2名
・地域（コミュニティ協議会会長、社会福祉協議会会長、コミュニティセンター長、民生児童委員、健全育成協議会会長、元コミュニティ協議会会長、女性の会会長、地域コーディネーター）

以上15名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター 2名（2名）

地域学校協働本部

十河校区地域学校協働本部

シビック・プライド醸成を目指す十河の香り活動充実に向けた学校・地域の一体的取組

背景・取組概要

◆各地にコミュニティ協議会が発足して久しいが、そこで大切にされているのは、地域が自立し、自分たちの暮らしを自分たちで豊かにしていこうとする営みの継続である。それ故、未来に向けていつまでも住み続けたい地域を住民みんなでつくることが常に意識されており、将来の担い手の育成も急務となっている。学校を核とした地域学校協働活動では、「**学校を中心に地域の中で新しいつながりが生まれ、それにより地域の教育力が育ち、ひいては未来の地域の担い手が育つ**」といったサイクルの好循環が期待できる。これを持続可能にし、**地域にとっても学校にとっても互恵性のある関係**にしていけることが大切だと考えている。**学校と地域との連携・協働には、お互いの理念を共有することや共に課題解決に向けて取り組むことが重要であることが明らかとなった。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆総合的な学習の時間の理念や活動内容を地域の方々と協働して考え、共有する
十河の香り活動（総合的な学習の時間）は、平成26年度末にそれまで行っていた総合的な学習の時間のカリキュラムを全面的に見直し、**地域の方々と共に地域素材を開発し、カリキュラム化を図った。**
- ◆支援者を招いた年度始めの打ち合わせ会の実施
毎年4月、十河の香り活動実施前に、地域の支援者の方々を招いて、その年の活動の打ち合わせ会を実施。この打ち合わせ会は、**一度限りのゲストティーチャーではなく、年間を通したパートナーとして連携・協働していく上で大きな役割を果たしている。**
- ◆地域の魅力ある教材と地域課題解決の融合を図る（獅子舞と伝統文化の継承をつないだ事例）
3年生「祭りグループ」は、**十河地区に長く受け継がれてきた獅子舞と地域の課題ともなっている伝統文化の継承をつないだ活動を計画した。**十獅会という獅子舞のグループの支援を受けながら、伝統文化の継承・啓発に取り組み、大きな成果を挙げている。
- ◆十河ふれあい祭り作品展の共同実施
地域で行われる作品展の実施に当たり、**学校と地域で協議し、募集内容等の検討を行った。**十河に関わる絵を募集したところ、校区内の名所や旧跡、獅子舞等の伝統文化をテーマにする児童が多く、ふれあい祭り作品展の展示は、地域の方々が十河のよさを改めて実感する場となった。
- ◆「十河未来会議」の開催により、地域の方々と交流
地域の方々をお招きし、十河の未来について語り合う「**十河未来会議**」を実施した。各グループの代表児童がグループの学びを紹介するとともに、**地域の代表の方々との対話を通して、十河の未来について話し合った。地域の課題解決に向けて、共に取り組んでいこうという意識の醸成につながった。**



成果・効果

- ◆**地域との連携・協働には、熟議を通してお互いの理念や課題意識を共有することが大切であることを改めて確認することができた。地域の方々と共に教材の開発やカリキュラム化を進めるとともに、地域コーディネーターと協働したカリキュラム・マネジメントにより、毎年その見直しを行うことによって、理念の共有が図られ、地域の課題と向き合った学習を展開することができている。**また、「**十河未来会議**」の実施を通して学びを地域に発信し、地域の方々と直接対話することができたことは大きな成果である。地域の方々が学校の教育活動に関心をもつ場となるとともに、社会福祉や伝統文化の継承、防災への対応等、改めて地域の課題について確認できた。ここでの対話が次年度のカリキュラム改善に役立ち、地域の課題解決に向けた十河の香り活動の充実につながった。

香川県高松市

学校

高松市立川東小学校

学校運営協議会

高松市立川東小学校学校運営協議会

令和5年4月1日 設置

委員構成

コミュニティ協議会役員
地域コーディネーター
主任児童委員
PTA会長
教員経験者
管理職
校内地域コーディネーター

など 15名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター12名(6名)

地域学校協働本部

NPO法人川東校区コミュニティ協議会

シビックプライドの醸成をめざす取組 ～地域学校協働活動を通して～

背景・取組概要

- ◆本校区は、昔から地域で学校を支えていこうという意識が大変強い。行事等においても地域と学校が相談をしながら進めてきた経緯がある。特に2年前からは、**シビックプライドの醸成**をめざして、地域とともに活動を進めている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆川東小学校見守り隊
教職員の働き方改革の一環として、令和5年5月の学校運営協議会で昼休みの児童の見守りについて学校側から提案する。すぐにコミュニティ協議会で検討を行い、10月から毎週水曜日の昼休みに、運動場で遊ぶ児童の見守り活動が始まる。
- ◆学校運営協議会
年間3回、授業を参観し、その後会議を行っている。実際の子どもの様子を見ることで、現状を把握し、活発な意見交換ができています。本協議会の特徴として、**委員にコミュニティ協議会役員が多く含まれており、学校課題を地域の課題と捉え、改善への取組がスムーズである。**
- ◆龍っ子フェスティバル
令和4年度より、**地域の文化祭と学校の学習発表会を統合**してスタートする。それ以前はお互い別日に行っていたが、盛り上がり欠ける側面があった。**合同で行うことで人が集まり、活気が出てきた。**特に児童による歌舞伎披露は、来場者の多くが声援を送っていた。
- ◆新設公園への関わり
令和7年度に本校区に公園が新設されることになり、新設公園の設計に地域と児童が関わりながら進めていった。令和5年12月には、**高松市公園緑地課職員に対して児童が本校区の文化や自然等の特徴を取り入れた内容のプレゼンを行い、その多くが設計案として取り入れられることとなった。**



成果・効果

- ◆見守り隊の活動が始まってから、**昼休みに教職員が休憩を取ることができるようになり、ゆとりが生まれた。**また、**見守り活動を行っている地域の方々も、子どもたちと会話をすることで顔を覚えてもらい、校外での防犯対策につながる**という感想を持っている。
- ◆龍っ子フェスティバル実施後のアンケートでは、地域や保護者、児童も肯定的な内容が多く、**WIN-WINの関係**が築けた。(保護者や地域との関係づくりに努めることができた・・・94.8%)
- ◆新設公園に関して、自分たちが住んでいる地域に自分たちが提案した内容が盛り込まれた公園がつくられるようになり、**子どもたちは地域のことに参画できたことの喜びを実感**していた。

愛媛県大洲市

学校

大洲市立平野小学校・平野中学校

学校運営協議会

平野小・中学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

保護者・PTA関係者
地域コーディネーター
民生児童委員・主任児童委員
自治会長・区長会長
体育協会長
交通安全協会支部長
学識経験者
園長・校長
など 19名

会議回数

年間平均 5 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名（0 名）

地域コーディネーター 1 名（1 名）

地域学校協働本部
平野小・中学校
地域学校協働活動本部

ふるさと平野を愛する子供たちを、地域で育てよう

背景・取組概要

平野地区は以前より、学社連携・融合といった動きの中で、**学校と地域のつながりを深める**ということが地域社会の中で進められてきた。近年の過疎化・少子化はこの平野地区も例外ではなく、**地域の活性化や学校の存続のため**にも、地域の人材や環境などの資源を更に生かした**「地域とともにある学校づくり」**を推進していく必要がある。**「ふるさと学習」を軸とした小中一貫教育**や学校行事・地域行事等を通して、**地域を大切に思う心**を育てるとともに、子どもたちが自ら課題を発見し、主体的に行動でき、**よりよい未来を切りひらいていこうとする力を育成**する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆小中一貫教育

小中一貫教育の軸となる「ふるさと学習」では、地域の人材や環境を生かした系統性のある教育活動を実施している。また、教員の小中兼務発令により、**乗り入れ授業を実施**し、学力向上に努めている。さらに、幼小中が同一敷地内にあることから、互いの行き来も容易であり、**様々な活動を合同**で行っている。今年度は、避難訓練(引渡し訓練)、花いっぱい運動、ウェルカムデー(合同レクリエーション)、ふれあい運動会などを行った。



◆学校運営協議会

年5回開催する学校運営協議会では、「ふるさと学習」を中心に、**地域の人材や環境を生かした活動**について報告・協議し、より充実した活動となるよう検討している。また、**学校支援ボランティアの参加拡大**に向け、「活動の見える化」「参加者の募集、地域へのアピール強化」などに取り組んだ。熟議では、「平野の魅力を伝えよう～様々な行事を振り返って～」をテーマに児童・生徒も交えた話し合いを行い、**次年度に向けた課題の確認と改善案を共有**できた。



◆地域学校協働活動

小学校では放課後の子どもの居場所づくりとして**「平野放課後子ども教室」**を開催し、俳句・音楽・運動など多彩な体験活動を行っている。また、夏休みには小中学生を対象に**「ひらの未来塾」**を開講し、夏休みの宿題等の学習支援を行っている。その運営スタッフには、**地域の方や地元の高校生・大学生等にボランティアとして協力**してもらっている。



成果・効果

- ◆ボランティアの参加拡大を図ったことで、「除草作業」「登校指導」「水泳監視」等において協力が得られ、**学校と地域が一体となった教育の推進**につながった。
- ◆今年度の学校評価では、学校生活への満足度、授業への取り組み方、「ふるさと学習」に関する**肯定的な回答が、子ども・保護者ともにほぼ90%を超え**、充実した教育活動ができています。

＜学校評価アンケートより（単位％）＞

	児童	小保	生徒	中保
楽しい学校生活	99	99	89	97
分かりやすい授業	100	95	98	87
充実したふるさと学習	－	97	100	97

愛媛県西条市

学校

西条市立玉津小学校

学校運営協議会

玉津小学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

民生児童委員長
玉津小学校長
地区代表者
シニアクラブ会長
婦人会会長
主任児童委員
玉津小PTA会長
公民館長
CSコーディネーターなど 19名

会議回数

年間平均 5 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 2 名 (2 名)

地域学校協働本部

玉津小学校
地域学校協働活動本部

学校教育活動にちよこっとボランティアする「ちよこボラ活動」

背景・取組概要

地域とともにある学校づくりを進めるために、学校と保護者や地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「**地域とともにある学校づくり**」を進める仕組みが大切である。



保護者・学校・地域の組織的連携・協働により、本校の教育目標「キラキラ ピカピカ みんなとあくしゅ えがおとやるきで じぶんにちょうせん」の具現化を通して、玉津地域で育ち、玉津を愛する子どもたちを育てる。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会・・・年間 5 回開催

今年度4月に開催した第1回目の学校運営協議会には、全教職員が参加し、玉津小学校のよりよい未来を描くワークショップを行った。「ちよこボラ」の活動をより良い取組みにしていけるために、良さや改善点を出し合った。「学校の教育活動への支援」の部分に焦点を当てて話し合うことで、今年度の**学校教育活動への支援が充実**したものになった。

◆学校教育活動の支援（環境整備、安心安全、学習支援等）・・・ちよこボラに80名が登録し主体的に活動をしている。

環境整備ボランティア

・草引き、清掃、学校図書館の本の整備、修理・修繕、運動場整備など

安全安心ボランティア

・登下校の見守り、校外学習の見守り、水泳学習の見守り、コーラス部練習の見守りなど
・挨拶運動（北門で登下校の挨拶）、休み時間の見守りなど

学習支援ボランティア

・教科等支援
（困っている児童への手助け、九九の聞き取り、体育科・図画工作科・生活科・家庭科
書写などの安全見守りや補助、講師、行事等練習の見守り、楽器の移動）
・教材づくり補助
（小道具の製作、教材づくりなど）
・クラブ活動支援（手芸、茶道、音楽、ICTなど）

◆地域人材育成を目指す体験活動（ボランティア、地域行事、防災学習等）

園庭の池をビオトープにする活動を通して、**自然愛護、環境保全の意識**を高めることができた。花いっぱい活動や、玉津グリーン大作戦、玉津防災タウンウォッチングなど、地域の方と一緒に活動することで**未来の人材育成**につながっている。



成果・効果

◆ちよこボラ活動を精選し、学校の要望を分かりやすく発信したり活動の様子を知らせたりすることで、ボランティア同士のつながりや、ボランティアと教職員のコミュニケーションにつながった。

◆CSコーディネーターが積極的に来校し、事務局（教頭）と関わりを持つことで、学校の要望を理解し、ボランティア活動が充実した。

◆学校評価について、児童アンケート「地域の人やちよこボラさんたちと一緒に活動できてよかったですか。」という問いに、児童の**97%が肯定的回答**をしている。保護者アンケート「学校は、コミュニティ・スクールとして、保護者・地域人材を生かした活動をしている。」についても**86%が肯定的回答**をしている。併せて、教職員アンケート「CSとして教育活動を充実させるために、学校と保護者や地域人材が協働して児童を育てる学習活動を計画している。」についても**95%が肯定的回答**である。**児童・家庭・地域・学校が一体となって教育の充実**を図っている。

高知県高知市

学校

高知市立春野中学校
高知市立春野西小学校
高知市立春野東小学校

学校運営協議会

春野地区小・中学校運営協議会

令和4年4月18日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
民生児童委員
学識経験者
保育園長
人権擁護委員
など 20名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員4名(3名)

地域コーディネーター 2名(1名)

地域学校協働本部

春野町地域学校協働本部

持続可能な地域とともにある学校体制の構築～めざす子ども像を中心としたチーム春野の実現～

背景・取組概要

- ① 春野では、9園・2小学校・1中学校があり、園児・児童・生徒で1100名である。その春野で学ぶ子供の成長を育むために、CSの制度を活用し、**ワンチームで、そして持続可能に取り組むための組織と実践**を行っている。
- ② 持続可能な地域とともにある学校の体制の構築のために次の組織と体制を作っている。
 - ・ 学校運営協議会(3校で1協議会)の設置と熟議の充実による当事者意識の向上
 - ・ 地域学校協働本部(3校で1本部)の設置と地域学校協働活動の充実による、子供・教職員・保護者・地域のウェルビーイングの向上
 - ・ めざす子ども像の明確化と計画・実践・分析・改善サイクルの確立と教育課程の実施

工夫・ポイント・特徴的な取組

◇ 学校運営協議会

・ めざす子ども像の明確化とPDCAサイクル

テーマの決定(令和4年4月に合意)→評価規準の決定(令和4年5月～7月に合意)

→アクションプランの決定(令和4年12月～令和5年1月に合意)の過程を経て「春野がめざす子どもの姿」を作成した。

その後、「めざす子どもの姿」実現に向けて、**当事者アンケートも作成・実施→アンケート結果を学校運営協議会で共有、分析→分析結果を学校評価書に盛り込む→学校運営の改善につなげるというサイクル**を完成させた。当事者として学校運営に参画できる体制ができています。

令和6年8月には、今年度(5月)のアンケート結果で「自尊・他尊」の項目が低かったことから、自尊・他尊の項目を向上させるために園、小、中の教職員と学校運営協議会委員(計80名)で、当事者としてどのような取組が出来るか拡大熟議を行った。



◇ 地域学校協働活動

- ・ **3校で1協議会**を持つことで、多様なメンバーで活動を行うことができる。
- ・ 3校で互いの活動を補い合うことができ、ゆるやかなネットワークでつながっている。
- ・ **校区部会と支援部会の特色を生かした活動**を行うことができる。
- ・ 地域学校協働活動による子供の学びを共有することで大人と子供のウェルビーイングが向上。
- ・ 学校が必要とする支援を各校区の地域学校協働活動推進員に伝え、地域学校協働活動推進員が各3つの支援部長に伝え、支援者を募り、決定した支援者を推進員に伝え、学校に報告するというサイクルを確立し、教職員の働き方改革にもつながっている。

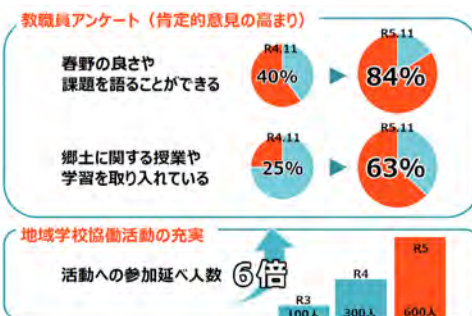


成果・効果

◇ 教職員の意識の高まり

- ・ 教職員アンケート(R4→R5)
「春野の良さや課題を語ることができる」**44ポイント向上**
「郷土に関する授業や学習を取り入れている」**38ポイント向上**
- ・ 地域学校協働活動の充実(R3→R5)
「活動への参加延べ人数」6倍 **100人から600人へ**

- ◇ 令和4年度に学校運営協議会を設置するまでは全国学力学習状況調査の結果が全国平均正答率よりも下回っていたが、令和5年度、令和6年度と全国学力学習状況調査の結果が全国平均正答率よりも上回っている。
令和5年：**+5.1ポイント** 令和6年：**+1.2ポイント**



高知県四万十町

学校

四万十町立米奥小学校

学校運営協議会

米奥小学校運営協議会

平成21年4月1日 設置

委員構成

地域コーディネーター
保護者・PTA関係者
青年団
地域の文化の継承者
アドバイザー
など 11名

会議回数

年間平均 9 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名 (0名)

地域コーディネーター 2名 (2名)

地域学校協働本部

米奥小地域支援本部

学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進 ～非認知能力の向上～

背景・取組概要

子どもたちが、生まれ育った地域に愛着と誇りを持ち、将来、この地域に何らかの形で貢献できる大人へと成長するために、地域の人・物・気候風土にあった取り組みを、子どもたちと地域の大人がいっしょに取り組み、作り上げ、達成感を共有する。

⇒ 地域の強みは「四万十川とそのまわりの自然」「地元の方々と学校とのつながり」「地域をもりあげようと活動する青年団等の活動」。これらの強みを背景としながら、子どもたちの感性を生かし、非認知能力を伸ばす。子どもも大人も地域の一員であり、協働によって、お互いにコミュニティの一員であることを自覚し、地域の発展に貢献していく。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校と地域をつなぐ方々が集まり、積極的な意見交換を行ってきた。現在では観光にも一役かっている一斗俵沈下橋の丸太こいのぼりの川流しと不織布こいのぼりの川渡しだが、その準備は年間を通して行われている。これ以外にも「アユ釣り・カヌー教室」「学校林での活動」「夏祭り」などを実施。学校運営協議会で確認したことを元に、調整を学校とコーディネーターが連絡を取り合っている。

◆地域学校協働活動

子どもたちのためには何でもする姿勢を前面に出し、行事の前の草刈りから、様々な準備まで行っている。山と川に恵まれた地域であるため、それらを最大限に活用した取り組みを積極的に行ってきた。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会を卒業した方々の多くが学校応援隊として地域学校協働活動を支えている。学校運営協議会のことを知っているからこそ、より積極的に支援にまわる良い流れができています。



成果・効果

令和5年度に、4年生以上の児童を対象に行った「夢・志アンケート」では、「自分には良いところがあると思いますか?」「将来の夢や目標を持っていますか?」「まわりの人の役に立っていると思いますか?」「自分からすすんで挨拶をしますか?」など、**すべての質問において、肯定的回答が100%**であった。中でも「**みんなで何かをするのは楽しいですか?**」の質問に関しては「**そう思う**」が100%であり、**児童の非認知能力の向上につながる活動ができていると考えている。**

児童の非認知能力向上につながる活動は、年間を通して数多く行っており、地域全体で学校を支え、児童の成長を促す好循環が、学校運営協議会を核として進んでいる。

福岡県福津市

学校

福津市立津屋崎中学校区
[津屋崎中学校・津屋崎小学校・勝浦小学校]

学校運営協議会

津屋崎中学校区合同学校運営協議会

平成23年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
地域郷づくり推進協議会委員
放課後児童クラブ関係者
青少年活動実行委員
大学教員など 各校15名

合同学校運営協議会については
各校委員長、副委員長、郷づくり
協議会代表、地域学校協働活動
推進員 が代表して参加

会議回数

各校 年間平均6回程度
合同会議 年間平均4回
程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 7名 (5名)

地域コーディネーター 7名 (5名)
(推進員兼務)

地域学校協働本部

津屋崎中校区地域学校協働本部

未来を担う子供を育てる防災教育の推進

背景・取組概要

津屋崎中学校区において小中9ヵ年間を見通し、「社会とつながり主体的に課題解決に取り組む子ども」の育成を目指して教育活動を行っている。学校教育における学びを社会で生かすことができるまで高める目標と必要性をもつ学校と、高齢化が進む地域の課題から地域の安全を主体的に担う人材の確保を望む地域が、それぞれの願いを連携・協働して実現する機会を創出するために中学校区3校が合同学校運営協議会を、3地区郷づくり協議会を中心に合同地域学校協働本部を立ち上げた。平成23年以降津屋崎中学校区の3校合同の協議を重ね、「地域の学びを防災学習でつなぐ」をテーマに実践を行ってきた。この防災教育の活動を学校を核とした地域づくりに繋げるために、中学校区の統括的な地域学校協働活動推進員が中心となり、各校の地域学校協働活動推進員を支援・育成しながら、学校と地域を繋ぐ役割を担っている。防災教育を柱としたコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進が効果的に行われている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆各校学校運営協議会及び中学校区小中連携推進会議

3校それぞれに設置する学校運営協議会では、それぞれの課題に応じた教育活動を協議している。その各校の取組を、小中連携推進会議で交流し、小・中9ヵ年間の教育で目指す子供像を共有し、「学び」「地域」「防災」の3部門をテーマとして連携した活動を推進してきた。

「学び」部門では中学校の定期試験期間にあわせ、小中同時に家庭学習チャレンジ週間を設けている。「地域」部門では、各校の地域学習をオンラインで交流したり、教職員の合同学年会を開催し情報共有を図ったりしている。「防災」部門では、平成23年度から合同防災学習を発展させ、令和4年度から日常の教科等学習や地域学習で学んだことの実践の場として防災学習を位置づけている。(図1)

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

統括的な地域学校協働活動推進員を中心に各校の地域学校協働活動推進員は、学校の「社会とつながる」「主体的に課題解決を図る」という教育活動と地域の関係者が目標を共有し、相互に意義をもつことができる活動を構築してきた。

主な活動である防災活動においては、中学生が地域防災の主体者としての意識を育むことで、高齢人口比率が高い平日昼間の防災不安の解消を図ることを趣旨に活動を組み立てている。そのために、地域関係者や団体への防災活動の意義の説明や生徒も同席する学校との協議の場の設定、実践の成果や課題の共有などをコーディネートしている。(図2)

◆中学校区合同地域学校協働活動

これまで各地域で行っていた防災活動の会議に令和4年から中学生が防災活動の企画・運営に地域の一員として加わり会議を行っている。この活動を合同地域学校協働活動の主活動とし、地域学校協働活動推進員が繋ぎ役となり、地域、学校の大人(教師、保護者、住民)と中学生が対話を重ね企画する協議の場を設けた。中学校区合同地域学校協働活動本部の会議を学校と地域関係者で開催している。

図1 防災学習を核にした学びの構築

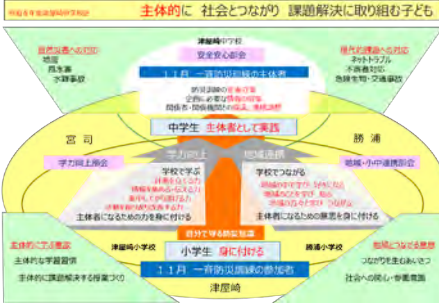


図2 統括地域Co.を核とした一体的実施



成果・効果

- ◆ **地域のことを進んで学ぶことに関する肯定的な回答**において子供の主体性が大きく伸びているように**子供が主体的に地域にかかわることが**できるようになった。
- ◆ 地域への主体的な関わりが増えたことに伴い、**学習活動への主体性も高まっている**一方、保護者の子供への促しは減少していることから、**子供自身が主体的に行動**できるようになった。
- ◆ 中学生は地域活動への**参画意識が高まり**、地域の大人は中学生との相互理解が深まり、**将来の地域の創り手と地域づくりへの期待**が高まった。

	指標 1		指標 2	
	地域の事を進んで学んでいる (肯定的な回答)		子供:主体的に学習することができる 保護者:学習するよう促している (肯定的な回答)	
	子供	保護者	子供	保護者
R3	58.1%	60.6%	59.7%	82.6%
R5	81.8%	64.4%	65.6%	75.6%

福岡県那珂川市

学校

那珂川市立片縄小学校

学校運営協議会

片縄小学校学校運営協議会

平成23年4月1日 指定

委員構成

- 地域CO等（地域学校協働活動推進員及び地域コーディネーター）代表
- 保護者・PTA関係者代表
- 民生児童委員代表
- 区長代表
- 地域代表
- 学識経験者・大学教員など 15名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名（0名）

地域コーディネーター 2名（2名）

地域学校協働本部
地域学校協働本部
(課題別コミュニティ・スクール)

地域CO等がつなぐCSと協働活動の一体的取組 ～課題別CSの活動を中心に～

背景・取組概要

本校は、開校以来、地域とのつながりを大切に、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供たちを見守り育ててきた。平成23年度から市内の学校のモデルとして学校運営協議会を立ち上げた。その際、「かしこ活動部」「たくましさ活動部」「やさしさ活動部」の3つの活動部を編成し、課題を解決する実働組織として取組を進めてきた。さらに令和2年度からは、学校・家庭・地域が連携・協働した取組の充実をさらに図るために、これら3つの部を中核としながら運営部と活動部を組織化し、正式に地域学校協働本部（課題別CS）を立ちあげた。現在、運営部で方針を定め、3つの活動部で様々な活動を計画・実施している。

■ 学校と地域の連携・協働による「共育」を通して、子供を育て、地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る【目指す姿】

工夫・ポイント・特徴的な取組

■ 学校運営協議会

年間5回の会議では、毎回委員による授業参観後、子供の様子について情報交換をし、具体的な子供の姿を通して学校運営に関して熟議を行っている。直近のテーマは、「授業におけるICTの活用状況について」「SNS利用に関すること」等があり、委員の意見を受け、SNS利用に関する家庭におけるルールづくりについて保護者への啓発等を行うようにした。

■ 地域学校協働活動

地域CO等（地域学校協働活動推進員等）が学校と綿密な打合せを行い、目的を共有した上で、地域CO等が主体的に企画・運営・調整等を行い活動をしている。地域CO等からなる運営部を中心に、「かしこ活動部」「たくましさ活動部」「やさしさ活動部」の各活動部が以下のような多様な活動を計画・実施し、見直し・改善を図りながら計画的・継続的に取組を行っている。

【かしこ活動部】

- 「史跡巡り」：地域CO等が地域歴史ボランティア、地元住民、市の文化振興課職員と連絡調整し、連携しながら校区内の古墳などの歴史的な個所を選定し説明しながら巡る活動
- 「公民館勉強会」：長期休業期間中、地域CO等が区長や公民館長、地域役員、中高生（R6は50名）や、読書ボランティア等と連絡調整し、協力を得て公民館等に於いて子供の学習を支援する活動

【たくましさ活動部】

- 「片縄山登山」：地域CO等が参加者を募り、参加者（児童、保護者、地域の人、教職員）の交流の場として、健康づくりの場として実施。8年目になるが、例年参加者は100名を超え、R6年度は130名が参加
- 「食育活動」：平成30年は「あそびの日」、翌年からは「片縄山登山」後に、民生児童員や地域ボランティアがつくった豚汁とご飯を一緒に食べ、食材や会食の大切さについて話を聴く活動（地域CO等は関係者と連絡調整）

【やさしさ活動部】

- 「地域挨拶運動」：地域CO等が、地域住民と登校中の子供との関わりを旺盛にすることを目的に実施。挨拶をしてシールを貼る活動を企画した挨拶運動を年2回一週間実施
- 「あそびの日」：地域CO等が地域ボランティアと連携し、週休日に学校体育館や運動場に於いて昔遊びやボッチャなどをして一緒に遊ぶ活動

■ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働本部の複数のメンバーが学校運営協議会委員となり、協議内容を本部に伝え具現化を図るとともに、本部での進行状況や課題を協議会で協議している。また、地域学校協働本部総会へ学校運営協議会委員も参加している。

成果・効果

- 地域学校協働活動の取組への参加者（**R5片縄山登山参加者130名**）が増加するなど、学校と地域がこれまで以上に協働するようになった（地域の行事に参加していると回答した子供が**9.3%**保護者が**12.5%**、R6前期がR5前期を上回った）。
- 学校生活への満足度に関する肯定的な回答した保護者（**R6前期94.10%**、**R5前期96.25%**）が9割を上回り、子どもが育っている（学校や地域で挨拶ができると回答をした保護者**R6前期83.19%**、**R5前期85.63%**、子供**R6前期90.02%**、**R5前期89.40%**）。



佐賀県佐賀市

学校

佐賀市立赤松小学校

学校運営協議会

赤松コミュニティ学校運営協議会

平成19年4月1日 指定

委員構成

公民館長
自治会長
PTA会長・元PTA会長
体育協会会長
青少健会長
保護司
老人会会長
大学教員
ボランティア代表 など 15名

会議回数

年間平均 6 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 1 名 (0 名)

地域学校協働本部

赤松コミュニティ・スクール

ふるさと赤松を大切にすることを夢を持った子どもの育成

背景・取組概要

・学校と地域社会が共通理解できていない状況があった。教育への関心は高いが、学校の方針が周知されず、地域の願い・ニーズが学校経営に生かされていない状況があった。



・**地域と共に創り上げる地域運営型学校を目指す！**

上記の背景から、「地域の中の学校・地域の声に応える学校を」という機運が高まり、平成17年からの試行期間を経て、平成19年4月に**県内初のコミュニティ・スクール**として指定後、平成29年4月以降は市が設置する形で**17年目**を迎えた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

01 赤松コミュニティ（平成19年度～）

ボランティア（登録者**100名以上**）による**9つのコミュニティ**を組織し、教育活動への様々な支援・協力体制として、実働率の高いコミュニティメンバーを確保できている。総合的な学習の時間や朝の読書指導・クラブ活動等、各コミュニティの意欲的な活動や日常的な学習ボランティアの運営による教育活動が充実している。（紙面の都合上、4つのコミュニティを紹介）



はすのみコミュニティ（学習の補助・支援）



赤ずきんの会コミュニティ（読み語り）



しゃちの門コミュニティ（地域の歴史学習支援）



花いっぱいコミュニティ（栽培活動・花のお世話）

02 赤松コミュニティ・ファンド（平成21年度～）

平成20年度赤松小学校創立百周年行事の基金（地域からの寄付金）をもとに、赤松小CSとは別組織の「ファンド事業運営委員会」を立ち上げて管理・運営している。**本ファンドを活用し、会議費、消耗品費、通信費、保険料等に執行**し、各コミュニティの活動を下支えしている。（PTAバザーから補充し、学校運営協議会とPTAで会計報告を行っている。）

03 城南豊夢学園（平成21年度～）・・・「子どもたちが『城南中に通いたい』と言える校区に」

中学校校区のコミュニティ・スクールへの発展として、児童が卒業した後に入学する佐賀市立城南中学校を核にし、北川副小学校との3校の代表者で組織する「城南豊夢学園運営協議会」を立ち上げ、学力向上・まなざし・地域交流の3プロジェクトに分かれて、年3回の「熟議」、常時活動としての「協働」に取り組んでいる。



中学生による出前あいさつ運動

成果・効果

コロナ禍においても、状況に応じた各コミュニティの取組を継続した成果として、
・「**学校の教育活動が地域と関わって展開されていると思う**」保護者（肯定的回答）の割合がR5年も96%であり、高い水準を維持できている。
・「**地域行事に多く参加している**」児童（肯定的回答）の割合が、コロナ禍では減少していたが（R2～R3）、年々増加している。
・コミュニティ・スクール先進校として、新設校や設置検討校にノウハウを示していくことで、市内のコミュニティ・スクール設置率が上昇している。

	指標 1 学校の教育活動が地域と関わって展開されている (肯定的な回答) 保護者	指標 2 地域行事多く参加している (肯定的な回答) 児童	指標 3 ボランティア (コミュニティ登録者) 数 地域・保護者
R2	96%	39%	100人
R5	96%	69%	104人

佐賀県

学校

佐賀県立鹿島高等学校

学校運営協議会
佐賀県立鹿島高等学校
学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

本校卒業生
鹿島市役所職員
鹿島市立小中学校学校長
鹿島市で起業されている方々
地域で活躍されている方々
本校PTA会長
本校校長 など 12名
(他、校内委員14名)

会議回数

年間平均3回程度
(各部会会議を年3回以上)

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名 (0名)

地域コーディネーター 7名 (4名)

地域学校協働本部
鹿島高等学校
旭ヶ岡キャリアラボ

唯一無二の誇り高き鹿島高校づくり

背景・取組概要

- ◆本校は、二つの学舎と三つの学科を有する他に例を見ない特色・強みを持った唯一無二の高等学校である。令和4年4月より佐賀県教育委員会の「SAGAコラボレーション・スクール」の指定を受け、「学校運営協議会」を設置するための規約を策定し、準備委員会をスタートさせ、7月に「第1回学校運営協議会」を開催することができた。学校運営協議会の設置にあたって、その取り組みの柱として、(1) 地域と協働した学校運営、(2) 地域、企業、大学等と協働した実践的教育(魅力ある教育プログラム)、(3) 県内外からの志願者増、の三つを掲げ実践を行っていくこととした。
- ➡テーマを「地域の子どもは、地域で育てる～鹿島高校魅力化プロジェクト～」とし、学校と地域が連携・協働し、魅力ある学校づくりを目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

本協議会は、校長の権限と責任の下、保護者や地域住民等の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等との信頼関係を深め、地域が一体となって学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組んでいる。本協議会は、学校における教育活動の改善及び充実を図るために、(1) 地域連携部会、(2) キャリア教育部会、(3) 魅力化評価部会、を設置し、各部会長の意思のもと、部会を開催し、様々な地域学校協働活動を行っている。

◆地域学校協働活動

本校は「唯一無二の誇り高き学校づくり」のために、学校運営協議会を中心に様々な地域学校協働活動を実施している。

- (1) 「旭ヶ岡キャリア塾」の開催
- (2) 「旭ヶ岡キャリアラボ」の設置
- (3) 「高校生ティーチャー」の派遣
- (4) 「高校生サポーター」の派遣
- (5) 専門学科の「課題研究」における連携・協働
- (6) 高校魅力化評価の分析と実践
- (7) 総合的な探究の時間「鹿島さいこうプロジェクト」における連携・協働

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

キャリア教育部会を中心に令和4年度より毎年「旭ヶ岡キャリア塾」というシンポジウム及びキャリア別講座を開催し、講師に多数の卒業生を招き生徒のキャリア形成に大きな効果を与えている。また令和6年2月に、学校運営協議会が設置者となり、空き教室を活用し、本校生徒のキャリア教育支援を行うための機関である「旭ヶ岡キャリアラボ」を設置・開設した。現在、学校運営協議会の会員などから6名のラボスタッフを校長が委任し、ボランティアで運営をしてもらっている。将来的にはこの「旭ヶ岡キャリアラボ」を核とした組織を地域学校協働本部へと発展させていきたいと考えている。

成果・効果

◆成果

- ・地域連携部会：高校生ティーチャー、高校生サポーターなどの取り組みにより、地域貢献を行うとともに、生徒の成長と進路実現に繋げる活動ができています。
- ・キャリア教育部会：旭ヶ岡キャリア塾や旭ヶ岡キャリアラボの立ち上げにより、卒業生による在校生支援システムの構築ができ、生徒のキャリア育成に役立っている。
- ・魅力化評価部会：多岐にわたる学校の目標を整理し、全体として取り組む内容のペクトルをそろえることで一定の成果に繋げることができ、評価指標の数値も向上している。

◆課題

- ・持続可能な学校運営協議会運営を図るため、効率的な人的配置と業務効率化を検討する。
- ・鹿島市との連携を深め、地域おこし協力隊等との協働した取り組みを検討する。
- ・生徒募集につなげるためのさらなる具体的、効果的な方策を検討する。



旭ヶ岡キャリア塾 構想

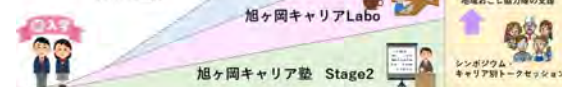
至誠にして大志を抱き、探求に努めよ。

○高校におけるコーディネート機能
キャリア教育の推進の場(部活動の創設)
部活動等への支援

○地域におけるコーディネート機能
学校外活動(ボランティア)等への企画、支援
卒業生とのつながり構築、メンター育成構築

○協働体制におけるコーディネート機能
外部資源活用(ふるさと納税、寄付等)
行政・企業・NPO・大学との連携・協働
(コンソーシアム構築)

○鹿島高等学校魅力情報発信機能
YouTubeでの発信
オンライン活用



進路実現

卒業生による進路相談

卒業生との交流
地域おこし協力隊の支援シンポジウム
キャリア別トークセッション

高校魅力化評価アンケート《学校重点目標》結果

	質問項目	R4年 7月	R5年 2月	R5年 7月	R5年 12月
1	この学校を中学生に勧めることができる	77.0	79.4	79.1	84.6
2	この学校に入ってよかったと思う	81.9	86.3	85.7	89.4
3	自分の将来について明るい希望を持っている	71.5	76.0	75.2	79.3
4	地域に尊敬している大人がいる	53.4	61.6	57.2	60.7
5	学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている			82.1	88.0

佐賀県

学校

佐賀県立太良高等学校

学校運営協議会

太良高等学校学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

町教育長
町社会福祉協議会事務局長
町社会福祉協議会監事
町観光協会職員
町商工会副会長
PTA副会長
大学教員
地元関係団体会長
地元住民

会議回数

年間平均6回程度など 10名

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名 (0名)

高校魅力化コーディネーター 1名(0名)

地域学校協働活動

太良高等学校学校協働活動

「地域とともにある新しい時代の高校」～様々な形の主体的な学び～

背景・取組概要

- ◆本校は、地域に唯一の高校であり、県立でありながらも地域に支えられている、地域との結びつきの強い学校である。コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置し、学校や地域の魅力を高める活動をするともに、地域の方が指導する「体験学習」や校外に出て生徒が地域で体験する「ボランティア活動」「就業体験」など多くの選択科目を開設しており、多様な他者と協働し学ぶ「豊かな心を育む」教育課程を展開している。
- ◆3年間を通して、地域社会と触れ合う機会を増やし、生徒が学習の中からコミュニケーション力や社会性を高めることのできる深い学びを実現している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆Hot Challenge(ボランティア活動)

社会福祉協議会事務局長（学校運営協議会委員）が学校と地元の医療・福祉事業所の間を取り持ち3回の意見交換会を主催した。会では各事業所の現状や課題、希望するボランティア活動の内容、希望日程や人数等について協議・調整が行われた。最終的には、令和6年1月から3月に実証実験、翌4月から本格的に社会福祉協議会と連携したHot Challenge（生徒の主体的なボランティア活動）を町内の医療施設や福祉施設で行うこととなり、医療・介護分野における人材不足という地域課題の解決の糸口にできた。夏季休業中にも生徒が主体的に社会協議会のイベントの企画に参加した。

◆地域観光イベントへの貢献

たらふくマルシェへの出店では、太良町観光協会職員（学校運営協議会委員）による入念な準備のもと、地元団体の方々のサポートを得て、選択科目の有明海学、奉仕、発達と保育、服飾手芸など家庭科の科目を選択している生徒、そして生徒会のメンバーが企画や景品制作の準備をし、当日は子供たちを含め多くの来場者がゲームやプラ板、記念グラスの制作に挑戦した。子どもたちから「ありがとう！」との言葉に、「もっと楽しんでもらいたい」と自ら進んで工夫し、成長する生徒の姿を見ることができた。

◆地域文化活動の活性化

太良町文化祭では、町文化連盟事務局（元学校運営協議会委員）の協力のもと、吹奏楽部、KAGURA、手話選択者等が日頃の学習内容を発表した。これらの活動を通じて地域の方々に太良高生の日頃の学習活動を知ってもらうことができ、地元と協働する機会がさらに増えている。

◆地域芸能の継承

後継者不足で開催されず衣装保存にも悩まれていた川原（こうばる）狂言について、太良町教育長（学校運営協議会委員）の情報提供を受け、学校関係者と川原地区の区長をはじめ10数人で話し合い、学校が衣装の保管を担い、授業で継承していくこととなった。また、地域の地区の祭りにおいて、太良町観光協会職員（学校運営協議会委員）が企画等に関わり、川原狂言の衣装を借りて太良町を題材にしたオリジナルKAGURAの披露を行い、学校と地域住民、保護者との信頼関係が深まった。



成果・効果

- ◆委員の方々の働きかけによって、学校が地域や施設、関係団体と関わる機会が増え、協働の幅が広がった。
- ◆社会福祉協議会と連携したボランティア活動や家庭科の授業での就業体験が実現し、生徒の主体性や勤労観、職業観を育成することができたことにより、2名の生徒が地元の介護施設で内定を得ることができた。
- ◆学校評価に寄せた委員の声の中には、「唯一無二の誇り高き学校づくりについて、本協議会を通じて、先駆的な取組が行われており、内容も充実している。」とあり、今後の活動についても委員の協力を仰ぎながら、進めていきたい。

長崎県佐世保市

学校

佐世保市立小佐々中学校
佐世保市立小佐々小学校
佐世保市立楠栖小学校

学校運営協議会

海光る町学園運営協議会

平成29年4月1日 設置

委員構成

自治協議会
教育会小佐々支部代表
民生児童委員
地域学校協働活動推進員
コミュニティセンター長
小・中学校PTA代表
など 22 名

会議回数

年間平均 4 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員3名 (3名)

地域コーディネーター 1 名 (1 名)

地域学校協働本部

小佐々地区地域学校協働本部

学習や諸行事を通じた児童生徒の相互多彩な交流を図り、豊かな人間性の育成を目指す

背景・取組概要

小佐々地区では、小佐々小学校・楠栖小学校・小佐々中学校 3 校が、学校・家庭・地域とともに手を携えながら教育に当たる仕組みを作るため、地域学校協働本部・学校運営協議会を設置した。その設置校 3 校が「海光る町学園」として、コミュニティ・スクールを推進している。学校と地域が「共育目標」を設定し、ふるさとを愛し、心身を鍛え、たくましく生きる力と豊かな人間性を備え、自主性と社会性に富んだ児童・生徒の育成を目指す。

学習や諸行事を通じた児童生徒の相互多彩な交流を図り、豊かな人間性の育成を目指している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

【学校運営協議会】

小佐々地区の子どもたちの将来のため、学校や地域、保護者が一体となり、一丸となって教育を推進して行くための熟議を行う。**学習面や生活面、健康や運動面に関わることなど、様々なことが議題となる。**自治協議会や教育会小佐々支部代表、民生児童委員の方々を中心に構成された委員により、年間 4 回程度の会議を開いている。

【地域学校協働活動】

学校から人材派遣等の相談を受けたコーディネーターは、地域学校協働推進委員・本部と連携し、各種団体・個人・事業所・各種機関に依頼して人材を派遣している。代表的な取組として次のようなものがある。

<地域の伝統文化体験学習>

地域の伝統を学び、郷土を愛する心情を育てるとともに、伝統文化に親しむことで、自分たちの生活や生き方に生かせる実践力を育てる。内容は、かかしづくり、わら草履づくり、書道、お琴、太鼓を地域の講師から学び、学習した成果を、文化祭などの場面で披露している。

<放課後子ども教室・地域未来塾>

子どもたちの豊かな学びや成長を支えるため、放課後に学習を支援する取組を行っている。小学校は「放課後子ども教室」、中学校は「地域未来塾」として、参加を希望する児童生徒を対象とし、講師については、コーディネーターが地域の方を中心に募っており、元教師の方や大学生など、幅広くご協力をいただいている。

【コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施】

地域学校協働活動推進員は、学園運営協議会だけでなく、自治協議会にも所属し、情報の共有を行っている。教育資源を集約し、学校と地域のつながりを「総合化・ネットワーク化」することで、組織的・安定的な活動を継続して行えるよう取組を行っている。



成果・効果

【コミュニティ・スクール「海光る町アンケート」児童・生徒回答より】 ※4（よくあてはまる）～1（まったくあてはまらない）

	令和 4 年	令和 5 年
「小佐々 3 校の子どもは、コミュニティスクールの活動を通して、ふるさとを愛する子どもに育っている。」	3.4	3.5
「海光る町学園（小佐々 3 校）は、地域の人たちと交流しながら学習や行事等の活動を行って、地域とのつながりを深めている。」	3.3	3.6
「小佐々地区は、子どもが夢や希望を持ち、ふるさととして誇れる地域である。」	3.3	3.6

様々な取組や活動を通じ、小佐々地区の子どもたちは達成感や成長を実感していると考えられる。

長崎県大村市

学校

大村市立玖島中学校

学校運営協議会

玖島中学校学校運営協議会

令和元年4月1日 設置

委員構成

- ・町内会長
 - ・公民館長
 - ・元PTA会長
 - ・健全育成協議会長
 - ・教職員
 - ・地域住民 など
- 合計7名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(0名)

地域学校協働本部

玖島中学校地域学校協働本部

総合的な学習の時間を活用した「ふるさとキャリア教育」～起業体験学習を中心に～

背景・取組概要

- 人口増加傾向にある大村市において、玖島中校区内の人口は減少しており、子どもの数も減少傾向にある。
- R2「大村市のまちづくりアンケート」で、大村市に「住み続けたい」と答えた生徒は29.6%、「大村市以外に住みたい」は33.3%であった。
- 「大村市以外に住みたい」理由として「遊ぶ場所や楽しむ場所が少ないから」「働く場所が少ないから」が挙げられていた。

→ふるさとの魅力を再発見し、地元に対する愛着や誇りを持ち、地元にとどまることができる生徒を育てたい

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆多様な委員構成による学校運営協議会運営

本校には3つの小学校区があるが、学校運営協議会の委員構成を、特定の校区からの選出がないようにした上で、学校運営に資する活動を行っている方々を中心に選出している。

◆県内初となる「起業体験学習」の実現

「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」(R3・4県指定)「小中高が一体となったふるさと教育推進事業」(R5・6県指定)において、個人事業主が多いという地域の特性を生かした「起業体験学習」(2年生「総合的な学習」の時間)を実施している。

◆学校運営協議会における協議・地域コーディネーターのコーディネートによる活動の充実

「起業体験学習」について学校運営協議会の議題に取り上げ、学校運営協議会委員(以下CS委員という)に協力依頼を行った。それを受けてCS委員、地域コーディネーターが地域住民へ相談・依頼をすることにより、多種多様な地域住民の参画が可能となり、株主募集説明会の実施など、より本物に近い起業体験が実現した。

◆地域づくりに貢献できる生徒の育成

「起業体験学習」からさらに発展させ、1年生は地域の祭りに運営スタッフとして参加、3年生は「地域貢献学習」として保育園や老人ホームでの清掃活動、「起業体験学習」で得た利益で購入した書籍を市内小学校へ寄贈するなど、地域のために自ら考えて行動する生徒の育成へとつなげている。



成果・効果

- ◆学校運営協議会の議題に上げたことにより、学校と地域の協働が実現した。また、地域住民と学校が互いに「近い」存在となった。
- ◆生徒アンケート結果にも学校や地域に対する思いの変容が表れており、学校と地域の協働による成果が見られる。

R5アンケート結果 平均値 【4:当てはまる3:やや当てはまる2:やや当てはまらない1:当てはまらない】		1年生	2年生	3年生
自分たちが住む地域や学校のために、今自分ができることを考え行動することができる	4月	2.7	3.0	2.8
	2月	3.0	3.2	3.0
将来大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたい	4月	2.7	3.1	2.9
	2月	3.0	3.2	3.2

熊本市氷川町

学校

竜北中学校
竜北西部小学校・竜北東小学校

学校運営協議会

竜北中学校区拡大大学校運営協議会

平成26年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者
民生委員
高等学校校長
区長
役場職員
教職員
など

48 名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員3名(3名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部

氷川町地域学校協働本部

「ふるさとを愛し、15の春を輝かせるために」 ～「CSの日『オータム交電会』の活動を通して～

背景・取組概要

氷川町では、コミュニティ・スクールの活動が活発になってきたことを受け、**11月第1土曜日を「CSの日」と定め、CS委員が主体的に活動し地域住民とともに学校を盛り上げる日**とした。竜北中学校区拡大大学校運営協議会では、令和2年度より「CSの日」に合わせ、「オータム交電会」を実施している。**テーマを「15の春を輝かせるために」と定め、中学生が「氷川の宝（自然、特産物、歴史など）」について、地域の方々から学び先生役となって小学生に伝える取組**を行っている。中学2年生が出身小学校へ出向き、これまでの学習で学んだ「氷川の宝」について小学生に伝えることで、**中学生にとっては自己有用感を高め、小学生にとってもふるさとに興味を広げ、中学生への憧れを抱く取組**になっている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆中学校区拡大大学校運営協議会

子ども委員が『オータム交電会』で小学生に伝えたい「氷川の宝(自然、特産物、歴史など)」を決め、CS委員に向け、プレゼンテーションソフトを使って分かりやすく説明した。2回目の会議で、担当するCS委員と中学生がチームになり、自己紹介をした後、調べたい内容やどんな授業をしたいかについて話し合った。CS委員のアドバイスを受け、もっと知りたい内容や学びを深めるための活動について、今後のスケジュール等を調整した。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員が中学生の学びを深めるため、地域の方々へつなぎ、インタビューする日程などの調整を行った。中学生が質問したい内容などを地域の方へ伝え、当日の活動がスムーズに行われるよう、CS委員や学校とも調整を行なった。

◆「CSの日『オータム交電会』」の内容

「オータム交電会」は、回を重ねるごとに、中学生が分かりやすく楽しい授業に工夫する姿がみられるようになった。小学生の実態に合わせ、カードゲームや紙芝居及び動画を作成した。**中学生のアイデアとやる気にCS委員もやり甲斐を感じ、お互い一緒に取り組むことで刺激を受け、よりよいものに例年仕上がっていった。**

◆小中連携の取組

「CSの日」の前にリハーサルを行い、CS委員や小学校の先生から、自分たちでは気づかなかったことについてアドバイスをもらった。リハーサルを通して中学生の意欲向上につながるとともに、小学校の先生方から中学生への支援もあった。こうした取組が**小中連携の絆**を生み出している。

当日は、中学生も堂々と授業に臨み、小学生のいろいろな質問にも答え、**中学生もCS委員も達成感を感じていた。**小学生も中学生の授業をとて楽しそうに真剣に聴き、自分が中学生になったら同じようにできることを楽しみにする様子もみられ、**子どもたちの中に「オータム交電会」が根づいてきている。**



成果・効果

「CSの日『オータム交電会』を通して、CS委員や地域の人と一緒に活動し、褒められ認められることにより**中学生の自己有用感が高まっている。**同様に、**CS委員も中学生の一生懸命な姿にやり甲斐を感じ、主体性が高まり相乗効果がみられている。**また、昨年度は「CSの日」の後、小中学生が、授業の感想について手紙のやり取りなどをし、**交流が生まれ、小中連携が更に深まった。**今年度の入学式の新入生代表あいさつでは、「**2年生になったら、今度は私たちがオータム交電会で小学生にかっこいい姿を見せたいです。**」との言葉があった。**子どもたちの中に「オータム交電会」が根づき、この取組を通して、たくさんの地域の方が自分たちに関わっていることに感謝し、自分も後輩や地域のために何かできることはないか**とさまざまな活動に**積極的に取り組む姿**がみられるようになった。

【全国学力・学習状況調査】「生徒質問紙」より

	R3	R6
自分にはよいところがあると思うか	82.1%	84.5%
将来の夢や目標を持っているか	79.1%	86.2%
人の役に立つ人間になりたいと思うか	95.5%	96.5%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか	53.8%	79.4%

熊本県山鹿市

学校

山鹿市立鹿北中学校
山鹿市立鹿北小学校

学校運営協議会

鹿北小・中学校学校運営協議会

平成28年6月10日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
地域コーディネーター
鹿北区長会長
主任児童員、鹿北駐在所
保育園長、社会福祉協議会
元体育指導員
現小中学校PTA会長
など 11名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部

鹿北町地域学校協働本部

せせらぎから清流へ、そして大海原へ ～地域と密着した15年間の系統的な学びによる鹿北町を担う若者の育成～

背景・取組概要

◆鹿北小学校及び鹿北中学校は、「一人一人の個性の開花～自ら学び ともに磨き合い 自らを生かす～」を共通の学校教育目標とし実現を目指している。また、校区の鹿北町は過疎化や高齢化が進んでおり、未来の鹿北を担う小・中学生が地域を盛り上げ、地域に貢献する学校づくりを目指している。そのために保小中が連携した15年間の学びを系統的かつ地域と密着した質の高い体験的な学びや行事等を教育活動の軸として展開することで子どもの主体性やコミュニケーション能力等を高める必要性があった。

→地域と密着した15年間の系統的な学びとこれからの鹿北町を担う児童・生徒の育成を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

▶小・中学校運営の基本方針への意見や承認〔4月〕▶学校運営へのアドバイス〔毎回〕▶小・中学校の授業を参観〔6月・2月〕及び学校評価の提示〔8月・2月〕による子供の実態や課題の共有▶職員で構成する保小中連携会議に委員全員が参加しての教育活動等（家庭学習、メディアコントロール、学力向上、児童会・生徒会活動の充実、仲間づくり、他）へのアドバイス〔ほぼ毎回〕

◆地域学校協働活動

▶総合的な学習の時間への地域人材の活用…小学校ではお茶や米、神楽や太鼓等の学習、中学校では森や里山、地域産業や防災等の学習に地域学校協働活動推進員等から紹介のあった多様な地域人材の協力を得ながら、体験活動等を重視した本物の学びを行っている。

▶中学生による「芸術の森in鹿北」の実施…町文化協会員の高齢化に伴い、町文化祭の継続が危惧されてきた。そこで、企画・運営全般を中学2年生が引き取り、地域学校協働活動推進員と協働しながら「かほく未来会議」（文化協会との会議）等を経て毎年開催し好評を得ている。

▶「かほくまつり」への参画…15年間の学びの集大成として地域の祭りである「かほくまつり」に中学3年生が参画している。令和4年度・5年度は「映画上映会」を実施。上映に加えアニメーターやプロダクション会社とのトークショーなどすべてを中学生が地域学校協働活動推進員と協働しながら企画・運営し、当日は300人ほどが来場するイベントとなった。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

▶地域学校協働活動推進員が学校運営協議会会長であることが一体的推進の要、地域コーディネーターをはじめ地域学校協働本部メンバーが学校運営協議会員であることが一体的推進の柱となってる。

学校運営協議会



鹿北未来会議



映画上映会



成果・効果

◆専門性のある地域人材の指導で質の高い体験的な学びが実現し、児童生徒の学習効果が上がっている。また、地域の先生の喜びも大きい。

◆年々取組を重ねるごとに、学校には地域の力が、地域には学校の力が必要不可欠となり、学校を核とした地域コミュニティが実現しつつある。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施により、小中学生が主体的に地域に関わる機会が増加し、長年継続することで、児童生徒の主体性、表現力、コミュニケーション能力等が高まりつつある。

【指標1】 ※指標は4.0が満点

地域行事に積極的に参加している。

生徒 3.17(H30)→3.31(R元)→3.23(R3)→3.66(R6)

【指標2】

地域の方々と積極的な交流ができています。開かれた学校である。

生徒 2.81(H30)→3.06(R元)→3.25(R3)→3.66(R6)

保護者3.44(H30)→3.45(R元)→3.47(R3)→3.50(R6)

熊本県上天草市

学校

上天草市立
龍ヶ岳小学校・龍ヶ岳中学校

学校運営協議会

龍ヶ岳小・中学校運営協議会
「ドラゴン会議」

平成30年4月1日 設置

委員構成

- ・地域学校協働活動推進員
- ・区長代表
- ・公民館長代表
- ・地区婦人会長
- ・市役所支所長
- ・主任児童委員
- ・保育園長
- ・小、中学校PTA会長
- など 16名

会議回数

年間3回

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 0名 (0名)

地域学校協働本部
地域学校協働本部
「ドラゴンサポーター会議」

「より良い学校教育」を通して、未来の「より良い龍ヶ岳」を創る！

背景・取組概要

- ◆平成23年度に町内3小学校が1校に、2中学校が1校に統合された。町内に1小・1中学校となったことで、小中学校の連携をより一層強化し、**子供と地域のつながりを密にした学校づくり、大人と子供がともに輝く地域づくり**を目指している。
そのために、学校教育の中に多様な大人と関わり合う機会を設定することで、子供と地域をつなげ、**地域の歴史や良さを知り、郷土を愛する心や誇りに思う気持ちを育み、自分のこれからの生き方を考えることができる子供を育成すること**を目指している。
そして、そのことが地域活性化へつながると考えた。
→「**子供と地域のつながりを密にした学校づくり**」「**大人と子供がともに輝く地域づくり**」を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆**学校運営協議会「ドラゴン会議」**
小中合同の**学校運営協議会を設置**し、保護者や地域住民の学校運営への参画、支援・協力を通して、子供の健全育成を図るために、年3回開催している。直近のテーマは、○通学路の安全確保、○地域人材を活用した学習支援の充実、○あいさつ運動や登下校時の見守り活動の強化、○中学校部活動の地域移行について、などである。令和4年度の学校運営協議会では、児童生徒の代表が参加し、地域行事へ協力したいとの中学生の要望を受け、協議を進めた結果、令和5年度の地域行事に生徒全員がボランティアスタッフとして参加することができた。
- ◆**地域学校協働活動**
地域おこし活動の一環として、平成元年に始まった「龍神太鼓」は、平成17年から小中学生も参加するようになった。現在は、**小学6年生と中学1・3年生が地域学校協働活動のひとつとして取り組み、その成果を学習発表会や地域行事の中で披露**して、保護者や地域の方々から喜ばれている。令和3年に、保護者や地域の女性たちで「龍神太鼓女性会」をつくるなど、**龍神太鼓が地域を盛り上げる活動の一つとなっている**。地域学校協働活動推進員は、太鼓の指導から披露の場の設定など、学校とも連携しながら積極的に取り組んでいる。
- ◆**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施「ドラゴンサポーター会議」**
地域学校協働本部は、学校運営協議会委員、保護者、地域住民、教職員がメンバーとなり、「**安全部会**」「**地域部会**」「**学習部会**」の3部会に分かれて、年2回開催している。学校運営協議会で協議されたことを含め、**地域学校協働活動の充実や学校の課題解決に向けた具体的な方策を話し合う**。直近の議題は、○危険個所の整備について、○地域スポーツクラブの推進について、○朝の読み聞かせの充実について、○職場体験学習への協力について、などである。



地域行事のオープニングで龍神太鼓を披露する中学生



地域学校協働本部(ドラゴンサポーター会議)の安全部会

成果・効果

- ◆地域住民に地域学校協働活動の趣旨や具体的な取組についての理解が広まり、**家庭や地域と学校の連携・協働が年々進んでいる**。
- ◆地域学校協働活動を通して、子供たちが幅広く地域の方々に接し、多様な体験や活動をすることで、**郷土を愛する心や地域に貢献できる大人になりたいという気持ちが育成されている**。保護者や地域住民も、子供たちの日常の姿から、たくましく成長していることを感じている。

学校評価の比較 4段階評価 最高4.0		家庭や地域との 連携協力		郷土愛の育成や キャリア教育の推進	
		R2	R5	R2	R5
小学校	CS委員	3.4	3.6	3.4	3.8
	保護者	2.5	3.3	3.2	3.4
中学校	CS委員	3.5	3.7	3.2	3.5
	保護者	3.2	3.4	3.1	3.2

大分県由布市

学校

由布市立東庄内小学校

学校運営協議会

東庄内小学校学校運営協議会

平成27年4月1日設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
老人会代表
環境教育アドバイザー(地域住民)
自治委員代表
民生委員代表

など 9名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

地域学校協働本部

庄内地域学校協働本部

対話を通した主体的な学びや体験を通した豊かな学びが充実する学校を地域と共に創る

背景・取組概要

★東庄内が目指す子ども像について、3つの柱を立て、「**どんな力を身に付けることが必要か**」の熟議を行い、「自分で考え、伝える力」と「お互いを認め合う力」が必要であると捉えた。**学校目標を「地域とともに、知識を活用し、認め合い、挑戦する『東つ子』の育成」と設定し、対話を通した子ども主体の学びや体験活動を通した豊かな学びが充実する学校づくり**を目指した。そのために、子どもが自分自身で課題を発見し、深く考え、子ども同士だけではなく多様な大人とも対話によるやりとりの機会を増やすこと、豊かな学びを実現させるために様々な体験活動を充実させることが必要であると考えた。

→子ども主体の学びと体験を通した豊かな学びが実現する学校づくりを**地域とともに目指す**。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校運営協議会は年間4回開催している。体験を通した豊かな学びを実現させるために、**各委員が自らの強みやできることを事前に考えて持ち寄り、第1回の学校運営協議会の場で共有する**。その後、**各学期の活動を、学校と学校運営協議会委員で協議し、計画する**ようにしている。

<各委員の内容(例)>

老人会代表	地域住民	地域学校協働活動推進員
老人の強みを生かす ⇒昔の遊びを行う	環境教育アドバイザーの資格をいかす ⇒緑の教室、星空観察会	地域と連携した授業補助ができる ⇒人材紹介、由布学等の支援

◆地域学校協働活動

体験を通した豊かな学びを実現させるために、学校の周辺に、子ども・教員が地域住民と協力して「学びの森」を作り、総合的な学習の時間や理科の授業等で活用している。**地域学校協働活動推進員と学校運営協議会委員(環境教育アドバイザー)は、「学びの森」を拠点として、各学年の発達段階や季節ごとに応じた体験教室をコーディネートしている**。体験教室の内容については学校運営協議会の場で話し合い、計画的に開催している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

体験活動の必要性を、学校運営協議会で共通認識している。**総合的な学習の時間や理科の授業等で、必要な体験活動について、学校からの情報共有を基に、学校運営協議会で協議する。地域学校協働活動推進員が、学校運営協議会委員として参画し、活動や人材のコーディネートを行なう**。



成果・効果

- ◆学校と地域が、体験活動の充実に向けて協働することにより、**子どもに身に付けさせたい力を育成することができた**。(指標1)
- ◆**対話を通した考えの深まり、地域や社会をよりよくしたいと思う気持ちの肯定的な回答が90%を超えた**ように、**学び(取組)の成果が感じられるようになってきた**。(指標2)

	指標1	指標2
	話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている (肯定的な回答)	地域や社会をよくするために何かしたいと思っている (肯定的な回答)
	子ども(6年生)	子ども(6年生)
H31	38%	63%
R6	100%	90%

大分県豊後高田市

学校

豊後高田市立都甲小学校
豊後高田市立都甲中学校

学校運営協議会

戴星学園学校運営協議会

平成26年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
公民館代表
自治会長、民生委員
地域開発委員代表
駐在所連絡協議会代表
地域住民代表、学識経験者
保護者代表、教育委員会
など 15 名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名（1名）

地域学校協働本部

都甲地区学校協働地域本部

寛の里で協働しふるさとを学ぶ

背景・取組概要

過疎化高齢化が進む地域で、校区外からの子どもの受け入れをしながら、**地域と学校が一体となり、地域とつながりながら様々な体験をし、学校教育目標の実現や、学びに向かう力を備えた児童生徒・自分の将来を創造できる児童生徒・地域文化の継承に貢献できる児童生徒の育成**を図っている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

○学校運営協議会

様々な立場から学校や子どもたちの姿を捉えるために、「保護者部会」と「地域部会」の**少人数の部会に分かれて熟議**を行なっている。熟議の結果から、各委員のアイデアが、**育成をめざす児童生徒の姿・学校教育目標とつながる活動や支援となるように、協議を行ない、教育課程に位置付けている。**



学校運営協議会の様子

○地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員が中心となって、人材バンクの人材や地域住民を必要に応じて紹介するなど**学校教育目標を理解した上で学校の教育活動とつながるようコーディネートし、様々な体験活動を行っている。**

○コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員となり、**地域住民が参画できる取組**を数多く実施している。特に、「**総合的な学習の時間**」を「**市民科**」とし、**児童生徒が地域の方と一緒にサツマイモや菊を育てる体験**で、農業に詳しい人材の調整を行なっている。毎年11月に開催する「戴星祭」で、**地域の方にサツマイモの料理を振舞ったり、菊の展示を行なったり、地域住民と学校が相互関係になるような取組**を実施している。



戴星祭の様子

成果・効果

①学校と地域の協働体制が向上した

様々な地域住民も参画できる協働体制が確立され、**相互関係が向上した。**

②郷土を愛し、郷土に生きる児童生徒の増加

「市民科」を設置したことで、**将来的にこの町で生活したいと思う児童生徒が増加した。**

①地域の方の教育活動への参画

平成27年度	令和5年度
のべ45人	のべ234人

②将来、豊後高田市で生活したい

	平成29年度	令和5年度
6年生	47%	61%
9年生	41%	72%

宮崎県

学校

宮崎県立宮崎南高等学校

学校運営協議会

宮崎南高等学校学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

高大連携協定大学教員
地域の公立小中学校長
保護者
地域住民
同窓会

など 10名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 9名(9名)

地域学校協働本部

宮崎南高等学校地域学校協働本部

探究学習に係る連携

背景・取組概要

本県において、「若年層の県外流失の増加」「郷土に魅力を感じていない生徒の増加」「自分の可能性に気付いていない生徒の増加」などの課題があり、身近な地域社会の問題を自分のこととして捉え、新たな解決策を地域に寄り添いながら提案、実践できる人材の育成が必要となった。

→ **地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成を目指す。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- 1 本校は、コミュニティ・スクールの中でも、「産学官連携による都市型コミュニティ・スクール」であり、地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成に資する産学官連携による人の地域循環教育を行うことを目的としている。
- 2 本校における教育活動の改善及び充実を図るため、「探究学習部会」「地域連携部会」「学校評価部会」の3つの部会を置き、それぞれ、以下のような目的で、協議を行っている。
 - (1) 探究学習部会…探究学習を通じて地域の課題を自分事として考える生徒の育成を図る。
 - (2) 地域連携部会…地域ネットワークを構築し、元気と活力のある地域づくりと地域を支える人材づくりを行う。
 - (3) 学校評価部会…PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントを実施する。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会の各委員が地域とのつなぎ役を兼ねており、学校運営協議会での協議内容を地域に伝え具現化を図るとともに、地域での進行状況や課題を学校運営協議会で協議している。



成果・効果

地域が学校に（地域の方々に探究活動の審査を依頼等）、学校が地域に（高校生が地域の小中学生の学習活動をサポート等）、相互にプラスの影響を与える活動を実施することでwin-winの関係を築くことができ、生徒募集にも効果があったと感じられる。

探究学習や地域連携活動の取組については高い評価をいただいている。今後、それらの取組が、「入口の確保(生徒募集)と出口の確保(進路達成)」に直結するような仕組みを構築するために、生徒の変容等含めた効果検証を可能な限り数値化して実施し、継続的・循環的なシステムの構築につとめていく必要がある。それらを踏まえて、幅広く意見をうかがうような協議会を目指す。

宮崎県都城市

学校

都城市立庄内中学校 / 都城市立庄内小学校
都城市立菓子野小学校 / 都城市立乙房小学校

学校運営協議会

庄内中学校学校運営協議会 / 庄内小学校
学校運営協議会 / 菓子野小学校学校運営
協議会 / 乙房小学校学校運営協議会

平成25年4月1日 指定

委員構成

P T A 会長等の保護者
自治公民館長
民生児童委員
まちづくり協議会委員
(兼、地域コーディネーター)
学識経験者
法人代表者
退職校長 など31名
(3校×8名、1校×7名)

会議回数

年間5回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名 (0名)

地域コーディネーター 4名 (4名)

地域学校協働本部

庄内地区地域学校協働本部

子どもたちを地域で育てる 「心のプレゼント運動」と「郷土の歴史の継承」

背景・取組概要

- ◆庄内地区では、「地域をあげて学校を支援していく」ことを各学校運営協議会と庄内地区まちづくり協議会で決定し、それぞれで対応していた取組を、平成28年度からは庄内地区まちづくり協議会に地域学校協働本部の事務局を置き、子どもたちを地域で育てる活動の取組を開始した。
- ◆庄内地区4校の小中一貫教育推進の取組の中で、児童生徒の「豊かな心」「ふるさと教育」がビジョンにあるが、これは地域の課題にも共通している。
- ◆「豊かな心」の取組では、「心のプレゼント運動」を推進しており、これは明るいあいさつやありがとうなどを言葉にし、「やさしい心」「感謝の心」「思いやりの心」を育てる運動である。
- ◆「ふるさと教育」の取組では、地域の歴史や伝統芸能を子どもたちに認識してもらい、郷土に対する誇りをもってもらうことが目的である。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

2学期後半に実施する中学1年生の「地域巡見学習」は、学校支援ボランティアの方々が案内する。この学習を、地域に学ぶ学習の柱として位置付けるため、委員の意見を参考にして、教育課程の工夫・改善に取り組んでいる。特に、地域巡見のための事前調査をしっかりと行い、当日は講師の話に集中し、事後は生徒一人ひとりが見聞したことを新聞にまとめ、制作する取組を行っている。

◆地域学校協働活動

庄内地区には多くの歴史的建造物や史跡が残されている。中学生の多感な時期にこれら地域の宝を見学し、説明を受けることにより、郷土に対する愛着と誇りを持ってもらう取組を行っている。

当日はバス4台に生徒と教職員1名、学校支援ボランティアのガイド役1名が分乗し、地区内にある史跡、神社、お寺などを郷土史に詳しいガイドが解説する。

また、庄内地区に赴任した教職員を対象とする「校区内巡見研修」を、学校の夏休み期間中に実施しており、児童生徒のふるさと教育の推進に役立つ取組を行っている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

各学校運営協議会委員には、地域学校協働本部の母体である庄内地区まちづくり協議会からの選出があり、選出された方が地域学校協働活動推進員の役割を担い、協働活動を実施している。

また、庄内地区まちづくり協議会が編集・刊行した「庄内歴史読本」を地域巡見前に生徒全員に配布し、事前調査の資料として活用されている。



成果・効果

- ◆中学校が行った「ふるさと教育の充実」アンケートで、「庄内の歴史や産業に関心をもち、この庄内地区に貢献したいと考えている」には、87%の生徒が肯定的な回答をした。2年生、3年生では地域巡見がないものの、3年生から地域への感謝の手紙の中には、地域巡見でお世話になったこと、ふるさとを誇りに思っていることを伝える生徒もあり、学校と地域が同じ課題・目標を共有して協働活動に取り組んだ成果が実感できる。
- ◆これまで庄内地区が行った地域学校協働活動の取組により、児童生徒自身に「地域で育てられている意識」が浸透していることが窺える。地域に対しボランティア活動や心のプレゼント運動が積極的に行われており、ふるさとを誇りに思う心が育てられている。

宮崎県えびの市

学校

えびの市立飯野小学校

学校運営協議会

飯野小学校学校運営協議会

平成24年4月1日 指定

委員構成

民生児童委員
高校教頭
中学校教頭
保育園理事長
麓輪太鼓踊り保存会
地域学校協働活動推進員
PTA会長（保護者代表）

など 10名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数 （ ）は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1 名（1 名）

地域コーディネーター 0 名（0 名）

地域学校協働本部

飯野地区地域学校協働本部

郷土芸能「麓輪太鼓踊り」指導

背景・取組概要

◆郷土芸能「麓輪太鼓踊り」の高齢化による担い手不足問題と、えびのの歴史や伝統芸能に関心をもってもらいたいという思いから、麓輪太鼓踊り保存会のメンバーが6年生に麓輪太鼓踊りを教える活動を平成20年から行っている。麓輪太鼓踊り保存会がボランティアを4～5名ずつ全12回派遣している。6年生児童は踊りの歴史や道具の使い方などを座学と体験で学んでから実際に踊りを習う。また、練習の成果を運動会等で保護者・地域の方に発表することで郷土芸能の伝承の一助となっている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

麓輪太鼓踊り保存会の代表者を学校運営協議会委員としているため、コロナ禍でも話合いと変更をしながら、活動を続けていくことができた。

また、学校での運営協議会のほか、市内の学校運営協議会が集まる全体研修会に参加し、学校の協議の充実につなげている。

◆地域学校協働活動

地域の皆さんに参画してもらい、地域の行事を含め多様な活動を展開していくことで、子供たちが学び、成長する機会を支援している。さらには、地域の行事や伝統、産業に関わる学習を学校で実践していくことで「今、求められている力」や「将来、必要となる力」を身に付けていくことが期待されている。令和6年度からはキャリア教育支援コーディネーターとも連携することで子供たちの学びを支援していく。

◆コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的実施

コロナ禍で運動会が縮小開催されるようになったことに伴い、発表の場を参観日に移したが、令和7年度からは歴史などの座学を5年生のうちから始め6年生で踊りの練習するように活動を拡充していく予定となっている。



成果・効果

麓輪太鼓踊り指導は、コロナ禍で実施できなかった年があったり、発表の場を運動会から参観日へ移すなどの変更はあったりしたが、平成20年から16年間続いてきた。麓輪太鼓踊り保存会では高齢化が進み担い手不足の課題はあるが、毎年子供たちに指導することが活動を続けていく活力になっている。

また、コロナ禍より運動会での発表ができなかったため、発表の場を子供たちが自主的に考えるなど、子供たちの成長を見ることができた。郷土芸能を子供たちが教わり発表することで地域の人々が学校への親しみを持つようになった。そのつながりが読み聞かせなど別の活動にもつながってきている。

鹿児島県志布志市

学校

志布志市立有明中学校

学校運営協議会

有明中学校学校運営協議会

令和元年6月10日 設置

委員構成

- 有明・通山校区コミュニティ協議会会長
- 保護者・PTA関係者
- 市議会議員
- 民生委員
- 駐在所長 など 10名

会議回数

年間6回

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名 (1名)

地域コーディネーター 1名 (0名)

地域学校協働本部

有明中学校学校運営協議会

「中学生が自ら提案し、主体的に活動する地域活性化への取組」

背景・取組概要

有明中学校の学校教育目標は、「豊かな心で、自ら学び考え行動できる生徒の育成」である。そのために、生徒一人一人を大切にし、個性の花開く学校、安心安全に過ごせる学校、地域が自慢したくなる学校を目指している。

豊かな創造性を備え、持続可能な社会の作り手となるための生きる力の育成と地域と共にある学校づくりを目指し、家庭・地域と連携した教育活動を展開している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

諸課題の解決と子供の主体的な活動を支えるために、昨年度は、**委員と生徒会役員の意見交換会**を行っている。協議会委員から「朝のあいさつ運動」「自転車の乗り方」のことについて質問され、生徒会役員がそれぞれに回答する形式で行った。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

有明校区コミュニティ協議会と連携し、地域学校協働活動として「**中学生クラブ**」という組織を作り、**中学生が中心となって活動**している。その**活動の中心が「こどもまつり」**である。**企画・運営・準備・片付け**までボランティアサポートの支援をいただきながら活動し、実践と経験を積み重ねている。

同じ校区内にある通山校区コミュニティ協議会と連携し、**第3土曜日の青少年育成活動である「亀ん子広場」で中学生の参加を呼び掛け、中学生が中心となり、小学生や地域の方々と一緒に精力的に活動**している。

学校運営協議会の委員は対象者に案内文を渡したり、参加の有無を確認したりして情報発信と広報活動を行っている。

◆有明中学生クラブ「こどもまつり」の取組

- 4月30日(火)参加依頼
- 5月11日(土)代表者会
- 6月 5日(水)開催日及び出店の決定
- 6月19日(水)看板づくりと価格設定
- 7月10日(水)チケット作成と在庫管理
- 7月17日(水)価格決定と担当部署での話し合い
- 8月 1日(木)マナー指導 (接客態度等)
- 8月10日(土)午前準備 夕方「こどもまつり」
- 8月11日(日)片付け
- 8月12日(月)反省会 (次年度への引き継ぎ)

◆通山亀ん子広場の取組【令和6年度】

- 5月19日(日)海岸清掃
- 7月21日(日)日南線遠足
- 9月21日(土)コスモスロード種まき
- 10月20日(日)とおりんピック
- 12月22日(日)餅つき体験
- 1月19日(日)ウォーキング大会
- 2月11日(日)グラウンドゴルフ大会



成果・効果

最初は消極的な生徒も行事が進むにつれて責任感が芽生え、主体的に考え行動し、ボランティアサポートと協力して取り組むようになった。次年度の活動に向けて期待している生徒が**75%から83%へ上昇**、活動を通して成就感や自己有用感が**64%から58%へ上昇し**、向上が感じられた。また、保護者は運営スタッフに感謝し、子供が良い経験ができたと喜ぶ声が**92%と多く**、地域と学校が連携・協働する意義や成果を実感する機会となった。これまで地域の方々と交流する場面が少なかったため、**「こどもまつり」を核として交流の輪が広がり、生徒の参画意欲の向上と地域の活性化につながっている**。今後も情報発信と広報活動を継続し、生徒の成長を支える活動に取り組んでいきたい。



鹿児島県いちき串木野市

学校

いちき串木野市立旭小学校

学校運営協議会

旭地区学校運営協議会

平成30年 4 月 1 日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
P T A 関係者
まちづくり協議会関係者
民生委員

など 5名

会議回数

年間平均 4 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1 名（1 名）

地域コーディネーター 2 名（0 名）

地域学校協働活動

旭小学校区地域学校協働活動

地域と学校が一体となった旭っ子の育成

背景・取組概要

旭小学校の学校教育目標は、「心豊かで自ら学ぶ意欲をもち、たくましく生きぬく子どもを育てる」である。そのために、児童一人一人を大切にし個性の花開く学校、安心安全で緑に囲まれた美しい学校、地域が自慢したくなる学校をめざしている。10年後、20年後の社会でなりたい自分になるための土台づくりとして地域と共にある学校づくり、家庭・地域と連携した教育活動を展開している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆ 学校運営協議会

年4回の学校運営協議会では、寺小屋活動の取組、校内・地域の安全面について話し合いをしている。地域学校協働活動推進員を中心とした学校運営協議会委員が地域の方へ働きかけ、学校と地域のかけ橋になり、学校を核とした地域づくりが推進されている。

◆ 寺小屋活動

創作活動や体験活動など夏季休業中や週末を利用し、地域の方々が講師となり、地域の資源（自然、歴史、伝統、文化財等）を活用して、子どもたちに勉強を教えたり、地域の歴史について講話、昔遊びや地域に伝わる伝統芸能等の伝承活動を行っている。

〈令和4年度の取組〉

7/25 工作（松ぼっくり） 7/28 勉強会 7/31 川遊び準備 現場草刈り 8/3 川遊び

8/8 勉強会 11/27 そば刈り

〈令和5年度の取組〉

7/27 川遊び 小学生14名参加

8/18 紙粘土細工 小学生17名参加、中学生2名参加

8/23 ストーンペインティング 小学生14名参加、中学生2名参加

9/17 そば植栽 小学生11名参加

11/26 そば刈り 小学生 6名参加

12/14 門松づくり 小学生12名参加

地域伝統芸能「虚無僧踊り」活動：学習発表会に向けた虚無僧踊り練習の協力（令和5年度 計5回）

〈令和6年度の取組〉

7/30 川遊び 8/5 フラワーアレンジメント 8/26 流木アート 9/1 そば植栽

◆ 校内・地域の安全について（主な意見）

学校運営協議会での主な意見 ⇒通学路の落石、ロードミラーの設置不具合、電線部の草木、縁石崩れ、無灯火の車等

※令和5年12月19日 交通無事故11,000日達成記念式

成果・効果

◆ 寺小屋事業を通して、地域と学校が一体となった活動を展開することができ、より連携を深め、地域と共にある学校づくりを推進することができた。

◆ 学校運営協議会で校内や地域の安全について話し合うことで、情報共有し、早期の対策・改善、関係団体への情報提供を通して交通無事故11,000日を達成することができた。

◆ 寺小屋活動については、夏季休業中以外の活動について工夫していく必要がある。また、関係者の負担にならないよう実施方法も工夫する必要がある。

沖縄県浦添市

学校

浦添市立港川小学校

学校運営協議会

港川小学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
地域住民
保護者・PTA関係者
自治会長
学園通り会代表
学識経験者
企業役員
校長
など 11名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 0名 (0名)

地域学校協働本部

港川中学校区地域学校協働本部
港川小学校地域学校協働活動ハーバネット

学校課題の解決策を学校運営協議会で審議・承認し、地域学校協働活動にて具体的に計画・実践する取組

背景・取組概要

- ◆本校は「なりたい自分」「グローバルな人材育成」をキーワードに探究心を大切にしながら、教科横断的な視点で、児童が主体的に学ぶ「魅力ある学校づくり」に取り組んでいる。その核となる取組が「海の生き物観察会」「ゴミ減量作戦」である。取り組みのきっかけは、校区の自然環境に興味をもって欲しい、主体的な学び・体験的な学習を実践し、自己肯定感、自己有用感を高めたい思いからであった。実際に計画していくと、学校だけでは難しく、保護者や地域、企業等と協働で教育課程を考える必要があることが分かった。また、地域代表者からは、児童に地域に対する愛着をもってもらいたい、地域住民に対しては、自ら役割を見つけることで、地域の活性化につげたいという強い思いがあった。また、改築7年目を迎え、校庭の安全面、環境整備の面で改善する必要があった。
→主体的な学びを通して、児童が輝き、地域が輝く、持続可能な協働活動の実践

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

児童の安全・安心の確保や困り感・不安を軽減するとともに、主体的な活動を推進するために、環境整備、教育相談や生徒指導の充実について熟議している。直近のテーマは、○児童の在籍増加に伴う教室増設等について市教委へ意見書を提出、○ピアス、染髪等の校則について熟議、○校庭の記念樹・碑（シーサー等）の処分について審議・承認などである。また、企業役員を委員に委嘱していることもあり「キャリア教育の推進」は、積極的に協議している。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動は、「環境教育」「伝統文化・産業」を中心に、児童が地域に誇り持ち、次世代の地域の担い手となるよう、人材育成としても取り組んでいる。1年生「昔遊び」でお年寄りと交流、2年生「まち探検」で地域の企業訪問、3年生「浦添ありんぐりん」で蚕を育て、生糸を紡ぐ活動、4年生「海の生き物観察会・ゴミ減量作戦」、5年生「歴史再発見」、6年生「平和学習・キャリア教育」を教科横断的に計画し、主体的に課題解決できるよう工夫している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

記念碑やシーサー・記念樹伐採等の処分について、約6年間解決できなかった。理由は、校長あるいは職員会議で決定するにはなじまない案件だったためである。また、記念樹伐採後の芝生の整備、シーサーの修繕と再設置には、業者、陶芸家、そして予算を確保する必要があり、処理は難題であった。そこで、処理については、学校運営協議会で審議・承認を得ることで、承認後の芝生の整備、シーサー再設置に関しては、PTAと地域が協力し、計画通り整備設置することができた。本校では、CSと地域学校協働活動が一体的に実施できた好例である。



成果・効果

- ◆一体的実施後は、ボランティアを希望する方が増え、学校と地域がこれまで以上に協働するようになった。それに伴い、「児童は、家庭や地域で進んであいさつします」の保護者回答がR5年度平均2.8（4点満点）からR6年度平均3.2に改善した。
- ◆整備された芝生を児童が自主的に手入れする姿が見られ、アンケートでは「めあてをもって最後までがんばっています」の児童回答が平均3.4（4点満点）となるなど、本校の課題（3点未満）が改善され、子供が主体的に行動できるようになった。

さいたま市

学校

さいたま市立浦和別所小学校

学校運営協議会

UBコミュニティ協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員（学校地域連携コーディネーター）
幼稚園園長
育成会・民生主任児童委員・自治会
保護者・PTA関係者
児童センター・公民館館長
近隣中学校校長
地域有識者
協働活動本部運営委員
校長・教頭・教務主任
など 15名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

すくさぽ浦和別所

ボトムアップ型コミュニティ・スクールの実現に向けた地域学校協働活動の推進

背景・取組概要

学校・家庭・地域が連携し、顔が見える、気持ちのよい地域づくりを構築するため、子どもたちに関わる活動を担う諸団体や保護者、地域の方々と構成されたボランティア活動の充実を目指した。様々な立場で、地域学校協働活動に参画する大人と関わることで、自ら考え行動する「自立した子」の育成及び成熟した地域づくりを具現化する必要があった。

子どもだけではなく大人も自主的に行動し、地域学校協働活動に参画するボトムアップ型コミュニティ・スクールの実現を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

【学校運営協議会】
学校課題解決のためにどのような取組が必要かを熟議している。近年、登下校や公共におけるマナーの定着が課題であるため、保幼小が連携した子どもたちの安全意識向上のための取組について話し合いが行われた。①保護者への意識付けとして、新入学児童保護者説明会にて見守り活動の意義を伝える。②見守り活動を理解してもらう文書を、学校運営協議会、PTA、学校の連名で保護者へ配布。③学校安全教育推進に「保幼小の連携」という項目を入れた。④新入学児童の保護者の不安に応える「先輩パパママサロン」の開催⑤就学時健診等で入学前に知ってもらいたい学校のルールを伝える取組の実施の5項目を提案し、実施。

【地域学校協働活動】
全学年の授業に地域人材、地域資源を取り入れている。また、学校教育環境の充実を図るため、防犯、読み聞かせ、図書整理、環境整備、校内掲示など、学習支援ボランティアが自主運営で活動をしている。その中でも特別支援学級菜園のボランティア活動は、通年に渡る活動のため、児童とボランティアの方々が顔見知りとなり、登下校での見守り活動時や普段の生活の中での交流を深めることができた。更には、支援学級の子どもたちが地域の中の1人として、社会と関わる準備を可能にし、誰もが生きやすい地域づくりのスタートを切るために必要かつ有意義な活動となった。

【コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進】
学校運営協議会委員だけでは得ることができない地域課題の現状や、活動の情報を共有するため、地域学校協働活動本部の運営委員が学校運営協議会に参加し、地域学校協働活動の現状報告をした。また、年3回開催の学校運営協議会での熟議が机上論にならないよう本部に設置した運営委員会主催の保護者や地域の方々との交流を目的とした「すくさぽサロン」を年4回実施し、地域課題や協働活動に関する意見や情報を収集して、学校運営協議会の協議に反映するボトムアップ型コミュニティ・スクールへと前進した。

成果・効果

○地域連携授業が充実。全学年の授業に地域講師や協働活動ボランティアが関わることはできた。地域からの提案で実施した授業もあり、地域に開かれた教育活動が実現した。

○地域学校協働活動ボランティア登録者が増え、保護者や地域の方々の想いが学校や子どもたちに伝わる機会が増えた。

R 4 ボランティア登録者数 1 2 3 人
活動参加者延べ数 5 3 9 人
活動延べ回数 2 7 1 回

R 5 ボランティア登録者数 1 9 1 人
活動参加者延べ数 8 5 5 人
活動延べ回数 2 9 4 回

さいたま市

学校

さいたま市立岸中学校

学校運営協議会

岸中学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

関係行政機関の職員
自治協力会代表
地域住民
本校元校長
保護者・P T A関係者
地域コーディネーター
大学教員

など 15名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 1 名 (1名)

地域学校協働本部

岸中学校スクールサポートネットワーク

心と心の通い合う学校を地域とともに創る

背景・取組概要

心と心の通い合う教育活動を展開し、誰一人取り残すことなく、人生100年時代Well-beingに輝き続ける生徒の育成を目指した。そのために生徒が多様な大人とやりとりする機会を増やすことで、**生徒が自分で課題を発見し、深く考え、主体的に行動できるようにする**必要がある。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆生徒主体の駅で行うあいさつ運動

日本一のあいさつを地域に届けることで地域を元気にし、地域の皆様に感謝の気持ちを伝えるために実施している。あいさつで地域の皆様に笑顔にすることで「いじめの撲滅」にもつながると考え、あいさつ運動の実施を**生徒会の子もたちが、学校運営協議会で提案**した。

◆地域の人材を生かした学校運営(KOV)

本校では生徒たちの学習活動の支援体制を整えるために、今年度から**地域の方を「岸中学校応援ボランティア (KOV)」として独自に依頼**し、様々な場面で生徒のサポートをしていただいている。その際、**地域連携コーディネーターが核となり募集**している。

◆コミュニティ・スクールを活用した学習環境整備(Solaフロア)

本格的に運用が始まった校内教育支援センター**(Solaるーむ)を本校では複数設置し、Solaフロアとして開設している**。これにより、生徒が個に応じたスペースを選択できるようにした。Solaフロアについては、**学校運営協議会で開設・運営に係る課題等について協議**し、役割分担を行った。



成果・効果

- ◆学校（生徒）から地域に提案した内容が実現するなど、**学校と地域がこれまで以上に協働**するようになった。
- ◆あいさつ運動は、R5：35名→R6：79名まで参加者が増え、**小・中・高・大学の多くの児童・生徒及び地域の方に参加**していただいた。
- ◆岸中学校応援ボランティア（KOV）は、**今年度4名の方に登録**をいただき、Solaフロアの支援や生徒が参加できる地域のボランティア活動のサポートをしていただいた。
- ◆Solaフロアに**Solaるーむを3部屋開設**し、気持ちを落ち着かせるスペース、一人ひとりが自分のペースで学習に取り組めるスペース、少人数でコミュニケーションを図るためのスペース等、**生徒がスペースを選択**できるようにした。

さいたま市

学校

さいたま市立春野小学校

学校運営協議会

春野小学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

学校地域連携コーディネーター
P T A 代表
保護者代表
社会福祉協議会会長
地域資源保全会代表
自治会長
主任児童員
児童センター館長
など 11名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名 (0名)

地域コーディネーター 1名 (1名)

地域学校協働本部

春野小学校スクールサポートネットワーク

地域と協働した持続可能な食育活動の実現を目指して～地域の資源を生かした米づくりをとおして～

背景・取組概要

本校は今年で創立 3 2 年目を迎える比較的新しい学校である。また、さいたま市内の学校でありながら都市と自然が融合した自然に恵まれた環境である。一方で、児童数は年々減少し、加えて新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学校、地域、家庭のつながりが薄くなっていくことが課題となっていた。そこで、2年前の 3 0 周年記念の年に学校が核となり、地域、家庭とのつながりをより一層深めようという目的のもと地元の資源、人材を生かした「米づくり」の取組を開始した。

→地域の資源を生かした米づくりをとおして、学校・家庭・地域がより一層協働する地域づくりを目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- 学校運営協議会における熟議と組織力を活用し、地域の資源を生かした米づくりのために幅広く保護者サポーターや地域の人材を確保した。また、学校運営協議会の委員でもある地域資源保全会代表と連携して学区内に、「春野小田んぼ」を確保し**持続可能な活動体制**を整えた。
- 学校運営協議会に児童会代表や米づくりを体験した児童も参加し、地域の方々と米づくり活動をした感想や感謝の気持ちを伝えることで、**取組の成果を共有**できるようにした。



◆地域学校協働活動

- 「地元の新米を食べよう週間」として、春野小の学校給食において1週間、地域の資源を生かした米づくりで収穫した米を提供した。その際、**地域の方、保護者代表を招き会食**することで、学校、家庭、地域が地元である春野に、より一層愛着がもてるようにした。
- 米づくりを体験した子どもたちが、P T A 代表や地域の方々にインタビューした内容を**地元のラジオ放送で流したり校内放送で紹介**したりすることで、より地域とのつながりが深まるようにした。



◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- 学校が核となり地域、家庭と連携した活動を企画立案することで、**学校・家庭・地域がより一層協働できる持続可能な活動**が展開できている。
- 校長、教頭、学校地域連携コーディネーターを含む学校運営協議会委員が「春野小田んぼ」の整備やクリーン活動に参加することで、学校運営協議会がより一層地域に根差した組織となった。



成果・効果

- 学校と地域がより身近になり、夏まつり等の行事において、**より一層、学校と地域が協働**するようになった。
- 学校、地域、家庭の連携により、**学校行事におけるボランティア、サポーターによる協力が増え、教育活動がより充実**したものとなっている。



横浜市

学校

横浜市立新井中学校

学校運営協議会

横浜市立新井小・中学校 学校運営協議会

令和4年10月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
文化・スポーツクラブ会長
自治会会長
PTA会長
設置校校長

など 11名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員7名（2名）

地域コーディネーター 2名（0名）

地域学校協働本部

A.S.C.C

持続可能な社会づくりのために地域とともに「横浜で一番アットホームな学校」に！

背景・取組概要

経済、生活環境の格差による体験の不足を感じる地域において、「豊かな学び・社会につながる学び」を地域主体で実施することを地域学校協働本部A.S.C.Cが立案。

⇒中期取り組み目標のもと、重点取組分野「ESDの推進」を地域学校協働本部A.S.C.Cと連携し、「持続可能なまちづくり」の実現に取り組む。教科、特別活動等での学習を、ESDの視点で価値づける。地域学校協働本部A.S.C.Cとの協働を核とし、さまざまな地域団体・個人と、生徒の教育のために連携していく。その成果を評価し、地域に広げていく。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

地域学校協働本部が先行して設置され、学校との関係もうまくなっていく。学校運営協議会役割として活動の成果を評価し、地域に広げていく。「持続可能なまちづくり」の推進となるよう熟議を重ねる。

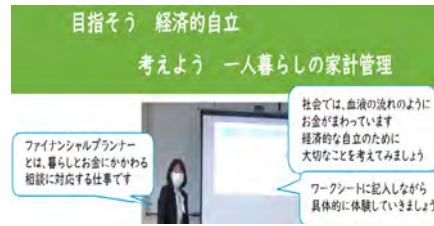
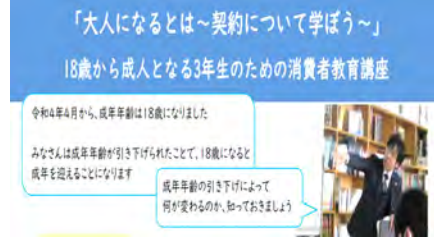
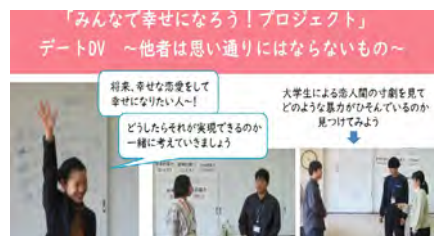
◆地域学校協働活動

「豊かな学び・社会につながる学び」の一環として「夢応援プログラム」を各学年で実施。
・小学校と連携で小6と中1の合同10名ほどで選択制で企業団体の体験プログラムを企画運営。
・2学年の職場体験先の紹介→修学旅行の集合練習を兼ねて新横浜の企業に依頼。
・3学年の卒業期時程に「夢応援プログラム～卒業していく君たちへ」として3講座を実施。

①「みんなで幸せになろう！プロジェクト 性教育 デートDV～他者は思い通りにはならないもの～」大学の先生によるワークショップを大学生とともに学ぶ。②「大人になるとは～契約について学ぼう～ 18歳から成人となる3年生のための消費者教育講座」について法務省大臣官房司法法制部部付検事による講座。③「目指そう 経済的自立 考えよう一人暮らしの家計管理」としてファイナンシャルプランナーによるワークショップ。協議会とともに地域の次世代育成も視野に入れる。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働活動推進員2名が、学校運営協議会委員となり、進行状況や課題を協議会で協議。学校運営協議会と地域学校協働本部とが一体的な推進をしていくことで「横浜で一番アットホームな学校」を目指す。地域学校協働本部は「誰にとっても居心地の良い学校」であることを活動の基本にしている。誰にとってもというのは生徒はもちろん教職員、保護者、地域住民にとっても「ウェルビーイング」な地域となるよう取り組む。



成果・効果

◆キャリア教育に対する回答が子供・教職員・保護者ともに80%を超えている。生徒・教職員の回答から主体的に学んでいる様子がわかり、社会につながる豊かな学びは振り返りアンケートから探求心を育て自己肯定感も高め、学校教育目標「社会に貢献できる人材」に繋がる。



	生徒	教職員	保護者
学校評価アンケートでも段階評価のうちそう思うやそう思う割合			
あなには、意欲的に授業に取り組んでいますか。	85.40%	82.40%	72.90%
各学年で行うキャリア教育（職業講座・マナー講座など）のような生き方を体験的に学ぶ学習は、生きる力の育成や適正な進路選択のために、効果があると思いますか	87.50%	94.10%	81.30%

家に帰って自分なりに調べてみたり、人に聞いてみようかなって思った。将来に活かしたい！

みんなが自分と同じことを考えているわけではないので、自分の考えも主張し時には相手を思いやれる人としていたいなと思いました。

横浜市

学校

横浜市立鶴見小学校

学校運営協議会

横浜市立鶴見小学校学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

町内会会長
ケアプラザ所長
PTA会長
地域学校協働活動推進員
保育園園長
ボランティア団体代表

など 14名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 6 名 (3 名)

地域コーディネーター 3 名 (0名)

地域学校協働本部

つるみっ子教育支援隊

地域との協働で、自ら学びに向かう子どもを育む

背景・取組概要

◆学びを生き方や社会に生かし、将来をいきいきと歩む子どもを育むために、自ら学びに向かう子どもの育成を目指した。そのために、子どもが思いや願いの実現に向けて、課題解決を図る活動を重視している。その過程で、必ず人との関わりが生じる。そこで、子どもに身近で、様々な経験や専門性をもっている地域の大人と関わり、粘り強く考え、行動したり、表現したりできるように取り組んでいる。
→学校と地域との協働で、自ら学びに向かう子どもの育成を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会
自ら学びに向かう子どもの育成を支えるために、年に3回、協議会を開催している。直近の議題は、○協議会前の授業参観で気付いたことや意見、○学校経営方針の説明と質疑応答、○学校と地域との具体的な連携方法、などである。また、全学年において、地域と関わる活動への協力を依頼するとともに、子どもが地域に協力できることを提案してもらった。

◆地域学校協働活動
地域には、区役所、警察署、消防署、地域ケアプラザ、商店街、民間企業本社などがある。そして、区役所との防災学習、商店街とのコラボイベント、総合的な学習の時間における民間企業の参画など、多様な学習活動に協力してもらっている。こうした際に、地域学校協働活動委員が、学級ごとの子どもたちの思いや願いを担任と共有し、学習の目的に応じた人材とつなぎ、学校との架け橋になっている。事前の打ち合わせや関係者への援助、さらに当日の運営にも関わり、豊かな学習活動の展開に多大な貢献を果たしている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施
地域学校協働本部の複数のメンバーが学校運営協議会委員となり、協議内容を本部に伝え具現化を図るとともに、本部での進行状況や課題を協議会で協議している。また、必要に応じて実施している学校運営協議会委員と教員の意見交換の場に、地域学校協働本部のメンバーが参加している。

成果・効果

◆子どもが積極的に地域に出て学んだり、地域の大人が授業に参画したりなど、学校と地域がこれまで以上に協働して、子どもを育むようになった。
◆子どもの肯定的な回答が、学校生活の楽しさでは90%、学習への取組方では80%を超え、いきいきと自ら学びに向かうことができるようになった。

	指標 1 学校生活は楽しい (肯定的な回答)	指標 2 自分から進んで学習し、問題を 解決している (肯定的な回答)
R2	87 %	76 %
R5	90 %	84 %

横浜市

学校

横浜市立太尾小学校

学校運営協議会

横浜市立太尾小学校学校運営協議会

平成20年5月1日 指定

委員構成

町内会会長
文化・スポーツクラブ会長
幼稚園園長
PTA関係者
放課後キッズクラブ関係者
高等学校校長
など 11名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員6名(2名)

地域コーディネーター 8名(0名)

地域学校協働本部

太尾小学校学校地域支援本部

学校を核とした地域との協働による子どもの健全育成と特色ある教育活動の積極的な推進

背景・取組概要

- ◆「太尾小学校を核としたまちづくり」を進めてきた。しかし、学校・保護者・地域の連携や防災教育の推進などの課題も見られた。そこで、学校運営協議会を設置し、「ふるさと太尾構想」を策定した。これは、学校、保護者、地域が連携し、太尾小学校を中心に豊かな地域社会「ふるさと太尾」の構築を目指すものである。具体的には、学校運営への参画、行事の実施、特色ある教育活動の継続、地域の多様な施設や組織との連携、防災・防犯に関する取組などを推進している。学校運営協議会は、この構想に基づき、学校と地域が一体となり、子どもたちにとって安心して学びが深まる環境を整え、「ふるさと太尾」の実現を目指している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

今年度は年4回行っている。校長の経営方針についての承認のほか、それぞれの時期での学校教育活動、地域との連携などの進捗状況を確認したり、検討したりしている。毎回、授業見学を伴い、学ぶ子どもの姿からよりより学校づくりを目指している。また、子どもが本協議会で自分たちの学びを報告することも行っている。例えば、6年生が自分たちで計画して実行した箱根グループ活動などの様子を報告した。

◆地域学校協働活動

緑化ボランティア、太尾の子見守り隊は日常的に学校で子どもたちとともに活動をしている。授業、委員会活動、総合的な活動、休み時間でのふれあいなど、地域の方が学校に一緒にいることが日常的な姿になっている。

◆PTAと地域学校協働活動の一体的実施と活動を支えるファンド

PTAが関わっていたボランティアも今年度からは公募制になり、学校支援委員会との協働および役割分化をして整理してよりわかりやすくなった。そのため、ニーズに応じた学習支援や参加のしやすさが広がってきた。従前はやや固定化しつつあり、柔軟な動きがとりくいという課題があったが、その解決も糸口が見えてきた。



6年生有志が学校運営協議会で修学旅行の活動報告



緑化ボランティアによる5年生米作りの脱穀活動

成果・効果

- ◆学校運営協議会では、「子どもに学びのオーナーシップを」という校長の経営方針の理解が進み、進捗確認を重ねることで目指す学校づくりが具現化してきた。特に子どもたち自身が自ら決めた学びを行うことが増え、主体的な姿勢が育まれている。
- ◆地域学校協働活動においては、地域の方々が日常的に学校に関わることで、子どもたちとのふれあいが豊かになっている。さらに、PTAと協働活動の一体化により、柔軟な学習支援が可能となり、より多くのニーズに対応できる環境が整いつつある。

【保護者アンケートから】

「学びのオーナーシップの考えに賛同する。様々な体験があり、地域と共に歩んでいる中で子どもが過ごしていることに感謝している。」

新潟市

学校

新潟市立鎧郷小学校

学校運営協議会

鎧郷小学校学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

西川コミュニティ協議会（副会長）
校区自治会長（元小学校長）
鎧郷小学校後援会（会長）
元小学校教員（校長）
元高校教員
主任児童員
校区保育園理事長
PTA会長

など 12名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員3名（1名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

鎧郷小学校地域学校協働本部

地域を学び、地域に学ぶ活動を通して、人・もの・ことに「自らかかわる」子ども、地域を愛する心の育成

背景・取組概要

- ◆農村地区である地域資源を十分に活かし、地域を学び、地域に学ぶ活動を通して、郷土を愛する児童の育成を目指した。また、地域の人材と自ら関わることで、人と関わる力の育成を図り、地域をより元気にすることを目指した。
- ◆教職員、児童、保護者、地域住民で協議しながら学校教育ビジョン「創る、関わる、挑戦する」の3つの資質・能力の育成を目指すことを共有した。**地域とともに新しいことに挑戦しながら、文化を創り上げていく取組**を進めている。

→ **一人残らず子どもが成長を実感し、自分を高めていく（＝UPGRADE）学校を目指す。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校の**教育活動や児童の実態について共有し、成果や課題について意見交換**をする場として、年に4回、会議を開いている。（内1回は中学校区合同で行っている。中学校区では、いじめ不登校、地域と学校パートナーシップ事業（地域学校協働活動）、学校保健委員会、小中一貫教育、防災教育の5つの部会に分かれて協議している。）
直近のテーマは、鎧っ子アップグレードスクールの成果と課題について、児童の様子を共有した上で委員が助言を行った。※鎧っ子アップグレードスクールとは、R6から取り組んでいるオランダのイエナプランの考え方を活かした異学年での学習活動のこと。毎月1回、午前中を異学年班で遊び、学び、対話する。

◆地域学校協働活動

新潟市教育委員会地域教育推進課（現生涯学習推進課）の地域と学校パートナーシップ事業の一環であるウェルカム参観日（各学校の取組を、広く校区内外の市民や教職員に公開する場）において、**地域にある農園そら野テラスとのコラボメニューの開発で、メニューや販売促進方法について児童が地域住民や学校運営協議会委員と一緒に協議**した。
また、地域住民と関わりながら学んだ様子を各学年が発表したり、地域に引き継がれている傘ぼこ踊りや、代官太鼓の演奏などを、児童も交えて行ったりした。**地域とともに学びを実感できる場とすることができた。**

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進のために

地域連携担当職員（教頭）が学校運営協議会委員となり、地域教育コーディネーターとともにその協議内容を学校職員はもちろん、保護者地域住民にも伝えている。また、学校における取組について、進捗状況や活動の成果と課題について会議や部会などで協議している。また、学校運営協議会の会議前には、必ず**授業参観の時間を設け**、委員が子どもたちの様子を見ることをとおして、**取組の成果を価値付けている。**



成果・効果

- ◆新潟市の生活・学習意識調査の「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります。」という質問項目で、児童の肯定的な回答が上がったように、**地域に学び、地域を学ぶ活動を通して、自分の成長を実感している児童が少しずつ増えてきている。**
- ◆**学校運営協議会で出された意見をもとに**、PTAと協力して企画した児童向けのSNS講習会に**保護者も参加**することができた。

新潟市生活・学習意識調査より 地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります。 (肯定的な回答)	
R4年度	83%
R5年度	89%

新潟市

学校

新潟市立青山小学校

学校運営協議会

青山小学校学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

コミュニティ協議会（会長）
保護者・PTA役員
民生児童委員
青少年育成協議会（幹事）
子どもふれあいスクール運営主任
元小学校教職員（校長）
地域教育コーディネーター

など 15名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数 （ ）は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員7名（2名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

青山小学校地域学校協働本部

「青山最高！」児童が誇れる安心・安全な地域・学校づくり

背景・取組概要

青山小学校は、学校教育ビジョンの実現に向け、地域の求める課題や願いと関わりながら育んでいく資質・能力を共有し、児童が主役となり「青山最高！」と思える学校づくりに取り組んでいる。登下校の見守り活動に見られるように、児童にとっての安心・安全なまちづくりに熱心に取り組む地域である。特に、日常の交通安全や防犯、防災、非常時の避難等について、地域が率先して学校と連携し、具体的な取組が行われてきた。

→「地域の人的・物的資源を活かし、児童が誇れる安心・安全な地域・学校づくりを目指す！」

工夫・ポイント・特徴的な取組

【学校運営協議会の組織】

- 学校運営協議会の委員は、これまで地域と学校パートナーシップ事業（地域学校協働活動）のもと連携・協働していたコミュニティ協議会やPTA等、幅広い地域の人材から構成されている。
- 令和5年度より、委員以外の地域人材を含めた機動力のある「部会」を設置している。「部会」は、学校運営協議会主導による当該年度の地域学校協働活動に応じて人選し、取組・行事の立案、運営の中核を担う。（令和5年度は「マップ部会」、令和6年度は「防災部会」を設置）

【学校運営協議会の運営】

- 年間4回の学校運営協議会を効率的に行うため、毎回、会長・副会長と学校で事前打ち合わせを行う。また、委員には、協議内容を事前に伝え、意見集約や事前アンケートを行っている。
- 学校に参集できない委員や部員は、オンラインでも参加できるようにしている。また、SNSを活用して、各担当者が、自主的に進捗状況の報告や確認、新たな課題の提起や協議を行い、協議会、部会の間も随時、情報交換や熟議を進めている。
- 委員には、学校や地域で活動している児童の様子を参観する機会を設け、目の前の児童の実態を意識して熟議ができるようにしている。

【学校運営協議会主導による地域学校協働活動】

- 令和5年度は、「安心・安全マップの見直し活動」に取り組んだ。事前に児童の夏休みの自主的な「身近な危険箇所調査活動」への動機付けとなる動画を制作した。また、自治会単位での危険箇所発表・現地指導、掲示用の大型マップ作成等では、地域学校協働活動（新潟市における地域と学校パートナーシップ事業）のネットワークを活用し、多くの保護者・地域住民が参画し実施した。
- 令和6年度は、地域の防災士、自治会、PTA等の参画を得て、「身近な防災体験活動」を実施した。

成果・効果

- 令和5年度より設置した「部会」が中心となって、地域の抱える課題や児童の実態に沿って企画・提案した活動が地域学校協働活動として実施されるなど、学校と地域がこれまで以上に協働するようになった。
- 事前の打ち合わせや議題への意見集約により、協議会の効率的な進行が可能となり、熟議の時間が十分に確保されている。また、「部会」の設置やSNSの活用により、連続的・即時的な熟議が可能となり、より自主的・主体的な活動につながっている。
- 児童は、地域の人との関わりの深まりを実感し、行事の際は「青山最高！」を合言葉とするなど自信をもって主体的に地域や学校に関わろうとする姿がみられた。



「安心・安全マップ」活動前動画制作



取組のまとめとして改訂されたマップ



親子避難所開設体験(高学年)

全国学力・学習状況調査より
地域や社会をよくするために
何かしてみたいと思いますか。
(肯定的な回答)

R5年度 91%
(全国77%)

R6年度 95%
(全国84%)

新潟市

学校

新潟市立鳥屋野中学校

学校運営協議会

鳥屋野中学校学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

元中学校教職員（校長）
教育支援NPO（代表）
コミュニティ協議会関係者
事業経営者
保護者・PTA関係者
学校職員

など 12名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター 3名（0名）

地域学校協働本部

鳥屋野中学校地域学校協働本部

地域が主体となって中学生が様々なスポーツや文化活動に取り組める環境の保証を目指して

背景・取組概要

令和8年度からの部活動地域移行に向けて、どこからどのようにすすめていくのかが大きな課題であった。
鳥屋野中学校では、学校運営協議会を核として、多角的な考えを踏まえて、部活動の地域移行に向けた取組をすすめることとした。

地域と学校の共通目標→「地域が主体となって中学生が様々なスポーツや文化活動に取り組める環境の保証」

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆鳥屋野中学校学校運営協議会の強み

- ・学校運営の改善や学校と地域の連携をすすめるために経験や知識をもつ人材を意図的に集めた。
- ・学校への関心と協力意欲、中立性と公平性、年齢のバランスを考慮して選出した。
- ・学識経験者と教育支援NPOがいるため、ファシリテーションの手法を用いて、熟議が容易にできる。
- ・地域教育コーディネーターに加え、委員も地域とのつなぎ役を積極的担っているため、地域に対して情報収集力と発信力がある。

鳥屋野中学校学校運営協議会＝学校運営をすすめる上で強力な力をもったプロ集団

◆部活動の地域移行に向けた学校運営協議会と地域学校協働活動の取組

【学校運営協議会】

- ・各方面からの**課題やニーズの収集と整理**をした。
- ・各方面へ、**部活動地域移行の趣旨や地域クラブチームの仕組みを周知**した。
- ・新潟市へ部活動地域移行に向けた環境整備について陳情した。

【地域学校協働活動】

- ・多角的な観点を基に、鳥屋野中学校の生徒と地域に適した**地域クラブチームの仕組みづくり**を行った。
- ・**運営組織、見守りの支援体制、教員の兼務を含めた指導体制、保険加入の準備**を整えた部活動から、順次、地域クラブチームへの移行を進めた。

クラブチームが立ち上がり部活動の地域移行が本格的に走り出す



成果・効果

◆多くの部活動がクラブチームへの移行をはじめており、今後も様々なスポーツや文化活動に取り組める環境が整いつつある。

- ・令和6年9月時点で**18の部活動のうち、11の部活動がクラブチーム化**しており、その他にも準備をすすめているクラブがある。

◆生徒、保護者や地域からも多くの理解と協力を得ながら、部活動の地域移行がすすんでいる。

- ・毎日の保護者の見守り、地域からの指導者の確保など、中学生がスポーツや文化活動に取り組むための環境の整備を**保護者や地域・学校が一体となってすすめている**。

京都市

学校

京都市立上烏羽小学校

学校運営協議会

上烏羽小学校 学校運営協議会理事会

平成19年11月27日 設置

委員構成

- ・上烏羽自治連合会
 - ・あんしんあんぜん上烏羽推進委員会
 - ・上烏羽交通対策協議会
 - ・夕陽の子ども見守り隊
 - ・女性会
 - ・図書ボランティア
 - ・おやじの会
 - ・保護者・PTA関係者
- など 14名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名 (0名)

地域コーディネーター 2名 (0名)

地域学校協働本部
上烏羽小学校学校運営協議会
企画推進委員会

「地域の子どもは地域で育てる」～地域と協働したこどもの健全育成の取組～

背景・取組概要

- ◆上烏羽の地域では、「地域の子どもは地域で育てる」の理念の下、学校運営協議会発足以前からも子どもたちを見守り、支援する取組を行ってきた。上烏羽の地域の特色を生かし、学校と地域が協働した取組をさらに推進することで、子どもたちをよりよく育てることができる考えた。

→地域と協働して子どもを育てる学校づくり、子どもたちと大人が力を合わせ協働する地域づくりを目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

子どもたちの健全育成をすすめるために、年に3回理事会（学校運営協議会）を開催し、子どもたちの登下校時の安全見守り、地域行事と学校行事での取組内容や目指す姿の共有、子どもたちの学力向上や生活態度向上についての学校の取組に対する助言をいただくなどしている。

◆地域学校協働活動

学校の敷地内に畑を作り、上烏羽の特産品でもある九条ねぎや米、金時人参などを栽培している。地域の方にゲストティーチャーとして来てもらい、一年かけて「農育」をテーマに総合的な学習の時間の取組を行っている。うまく育てる工夫を試行錯誤しながら追究し、育てる喜び、難しさ、収穫したものをいただく喜びを地域の人とともに感じられるよう取り組んでいる。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営委員会の理事（委員）が各企画推進委員会（地域学校協働本部）に所属し、理事会で取組内容や方向性について議論したことが各委員会の取組に生かされるようにしている。また、複数の委員会に参画していただく理事の方もおり、学校と地域のつながり、各委員会の取組同士のつながりを密にしている。



成果・効果

- ◆地域の若い世代の方々も参画して下さるようになり、学校と地域との協働活動がさらに推進された。

- ◆学校評価アンケートから、学校・家庭・地域の協働について、肯定的な回答が保護者・教職員ともに年度に関わらず高い数値がみられることから、学校・家庭・地域が協力し合う関係づくりが進められている。

指標		
子どもの安心・安全を守るための取組が、学校・家庭・地域で協力して進められているか（肯定的な回答）		
	保護者	教職員
R1	94.2%	86.7%
R5	90.0%	91.0%

京都市

学校

京都市立西ノ京中学校

学校運営協議会

西ノ京中学校 学校運営協議会理事会

平成20年12月16日 設置

委員構成

保護者・P T A関係者
歴代 P T A本部役員
地域在住の元京都市教員
中学校ブロック小学校長

など 13名

会議回数

年間平均 5 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0名 (0名)

地域コーディネーター 1名 (0名)

地域学校協働本部
西ノ京中学校学校運営協議会
企画推進委員会

地域に開かれ、地域に支えられた学校づくり ～ 地域力を生かした教育支援活動の実現を目指して ～

背景・取組概要

- ◆学校・家庭・地域が一体となってより良い教育の実現を目指し、地域に開かれ、地域に支えられた学校づくりを目標に、「出来ることから一歩ずつ」を合言葉に、学校・PTA・地域と連携しながら、地域力を生かした教育支援活動の実現を目指している。そのために、子どもたちの学習の場や体験活動の機会の保障、教育環境の整備、教職員の働き方改革の推進等に取り組んでいる。
- ◆学校評価における生徒アンケートのうち「自分にはよいところがある」という設問での肯定的な回答が少なかったこと、また学校と地域による共通の地域課題（「野良猫被害」等）等について、理事会で熟議のうえ、具体的な取組を実践している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆自己肯定感を高める取組
 - ・ボランティア活動
生徒の自己肯定感を高めるとともに、命の尊さについて考える機会となるよう、ボランティア活動（はるかのかのひまわりの栽培※、さつまいもの栽培、プランターの苗植え）を企画し、年間5回程度、PTAや地域ボランティアにも協力を呼びかけ実施している。
※「はるかのかのひまわり」は、阪神淡路大震災で被災した小学生の「はるか」さんを悼み、災害や命の尊さを再考するとともに、自己・家族・友人再生や復興、地元故郷の再生や復興を願って、ひまわりを育てるプロジェクト
 - ・地域参加型の道徳授業
愛校心をテーマに、卒業生へのインタビューを基にした自作教材を作成し、地域参加型道徳授業を実施した。話合いのグループには、それぞれ地域の方にも加わっていただき、年齢を超えた意見交流ができるようにした。また、本校の卒業生、保護者、歴代の生徒会長にも地域の方として参加いただき、その方々との交流を通して、脈々と受け継がれてきた伝統や文化だけでなく、時代の流れの中で精選された取組や行事についても知り、先輩方が母校に寄せる思いに気づき、考えを深められるようにした。
- ◆地域課題の解決に向けた取組
学校だけでなく地域で困りを抱えていた野良猫被害（糞尿、鳴き声、繁殖）への対策として、医療衛生センターのご指導・ご協力をいただき、地域住民の方々にご理解を仰ぎ、「まちなこ活動」に取り組んでいる。



成果・効果

- ◆ボランティア活動に参加し、地域の大人と活動を共にする中で、認められたり感謝されたりする体験を通して生徒の自己肯定感が高められた。また、はるかのかのひまわりの意味を知り、命の尊さについて改めて考えを深め、大切に育てようとする気持ちを育むことができた。
- ◆地域参加型道徳の授業を通して、卒業生の思いを知り、地域の大人の方々の考えを聴き、意見を交流することで、生徒は考えを深めることができた。また、地域の方々にも、中学生の考えを知っていただき、交流する中で中学校をより身近に感じていただくことができた。
- ◆地域と困りを共有し、協働して「まちなこ活動」に取り組み、環境改善を図ることで、地域の方々の学校への理解や協力が得やすくなった。